資料２

芦屋市　男女共同参画に関する市民意識調査
調査結果報告書（案）

令和４年(2022年)３月

芦　屋　市

～ 目 次 ～

Ⅰ 調査の概要 1

Ⅱ 回答者の属性 5
1 性別 5
2 年齢 5
3 職業 6
4 配偶者・パートナーの有無・職業 7
5 子どもの有無 8

Ⅲ 調査結果の概要 9
回答者の属性 9
【1】男女の平等意識について 9
【2】夫婦間や交際相手からの暴力（DV）について 10
【3】男女共同参画の取組について 10

Ⅳ 調査結果 11
【1】男女の平等意識について 11
1 男女の地位の平等感 11
2 性別役割分担意識に関わる考え方 23
3 性別役割分担意識に関わる考え方に賛成する理由 25
4 性別役割分担意識に関わる考え方に反対する理由 28
5 家庭における役割分担についての考え方 31
6 男性が積極的に家事や子育て等を行うための課題 37
7 女性が職業をもつことについて 39
8 女性が離職をしないで職場で活躍するための課題 43
【2】夫婦間や交際相手からの暴力（DV）について 45
1 配偶者・パートナーの有無 45
2 DVの経験 46
3 DVを受けた時の相談先 48
4 DVを相談しなかった理由 51
【3】男女共同参画の取組について 54
1 男女共同参画社会に向けた取組の認知状況 54
2 男女共同参画関連用語の認知状況 57
3 男女共同参画推進にとって行政が力を入れる重要なこと 61

資料/調査票 63

Ⅰ 調査の概要

【調査の目的】

「第 5 次芦屋市男女共同参画行動計画ウィザス・プラン」(「第 3 次芦屋市女性活躍推進計画を含む)」及び「第 3 次芦屋市配偶者等からの暴力対策基本計画」の策定にあたって、市民の男女共同参画に関する意識や意見等を把握し、計画づくりのための基礎的な資料とすることを目的として実施しました。

【調査対象】

本市に居住する 18 歳以上の市民 2,000 人(男女各 1,000 人)

【対象者抽出方法】

住民基本台帳による無作為抽出

【調査方法】

郵送により調査票を配付
回答は、調査票による本人記入方式(返信用封筒で回収)
もしくはインターネットを利用し、アンケートフォームに入力
(お礼状兼回答依頼1回郵送)

【調査期間】

令和 3 年(2021 年)8 月 26 日～9 月 17 日

【回収結果】

	配付数	有効回収数	有効回収率
全　体	2,000 件	935 件	46.8%
女　性	1,000 件	520 件	52.0%
男　性	1,000 件	409 件	40.9%

※有効回収数の全体には、「答えたくない」2 件、無回答 4 件が含まれています。
※性別の選択肢は、「女性」「男性」「1・2 に当てはまらない」「答えたくない」としましたが、「1・2 に当てはまらない」の回答は 0 人。

表　性別、年齢別　回答方法

		全体	郵送回収		インターネット回収	
			件数	（%）	件数	（%）
全　体		935	654	(69.9%)	281	(30.1%)
性別	女　性	520	393	(75.6%)	127	(24.4%)
	男　性	409	257	(62.8%)	152	(37.2%)
年齢別	10 歳代・20 歳代	65	30	(46.2%)	35	(53.8%)
	30 歳代	90	35	(38.9%)	55	(61.1%)
	40 歳代	144	68	(47.2%)	76	(52.8%)
	50 歳代	169	105	(62.1%)	64	(37.9%)
	60 歳代	170	136	(80.0%)	34	(20.0%)
	70 歳代	185	171	(92.4%)	14	(7.6%)
	80 歳以上	108	105	(97.2%)	3	(2.8%)

【報告書の見方について】

（1）集計は小数点以下第 2 位を四捨五入しています。そのため、回答比率の合計は 100%にならない場合があります。

（2）2 つ以上の回答を可能とした（複数回答）設問の場合、その回答比率の合計は 100%を超える場合があります。

（3）数表、図表、文中に示す「n」は、集計対象実数（あるいは該当対象者実数）です。

（4）図表中における年齢層別などのクロス集計結果については、該当する属性等の設問に対する無回答者（例えば、年齢層別でクロス集計する場合における年齢の無回答者）を除いて表記しているため、属性ごとの基数の合計と全体の基数は同じにならない場合があります。

（5）複数回答の図表中においては、見やすさを考慮し、回答割合の高い順に並べ替えて表記しています。

（6）図表中、クロス集計の項目軸については、長文を省略している場合があります。また、設問によっては、回答割合を考慮した上で「わからない」と「無回答」を合算して表記している場合があります。

（7）表中の濃い網掛けは全体より 10 ポイント以上高いもの、薄い網掛けは全体より 5 ポイント以上高いものを示しています。但し、n数が 15 未満の項目については網掛けしていません。

（8）設問によっては、本市で過去に実施した調査（平成 28 年実施）との比較を行っています。また、「令和元年度　第 2 回県民モニターアンケート調査」（令和元年　兵庫県）、「男女共同参画社会に関する世論調査」（令和元年　内閣府）との比較を行っています。なお、比較した設問によっては選択肢が一致しない場合がありますので、その選択肢については比較を行っていません。

（9）その他、個別に参照事項がある場合は、本報告書の該当箇所に適宜記載しました。

【比較調査の概要】

(1)前回調査(平成 28 年度調査)

①調査目的

「第 3 次芦屋市男女共同参画行動計画ウィザス・プラン」と「芦屋市配偶者等からの暴力対策基本計画」の見直しにあたって、市民の男女共同参画に関する意識や意見等を把握し、「芦屋市女性活躍推進計画」を含む今後の計画づくりのための基礎的な資料とすることを目的として実施しました。

②調査対象

本市に居住する 18 歳以上の市民 2,000 人(男女各 1,000 人)

③調査期間

平成 28 年(2016 年)8 月 18 日～8 月 31 日

④調査方法

調査票による本人記入方式。郵送による配付・回収(お礼状兼回答依頼 1 回配布)

⑤回収状況

	配付数	有効回収数	有効回収率
全　体	2,000 件	965 件	48.3%
女　性	1,000 件	535 件	53.5%
男　性	1,000 件	415 件	41.5%

※有効回収数の全体には、無回答 15 件が含まれています。
※性別の選択肢は、「1.女性」「2.男性」「3.(　)」としましたが、3 の回答は 0 人。

（2）令和元年度　第２回県民モニターアンケート調査（兵庫県）

①調査テーマ

「男女共同参画に関する意識調査」

②調査対象

県民モニター2,259 人（令和元年 7 月 29 日時点での登録者）

③調査期間

令和元年 7 月 29 日～8 月 13 日

④調査方法

インターネットを利用し県ホームページ上のアンケートフォームに入力

⑤回収状況

	対象者	回答者数	回答率
総　数	2,259 人	1,714 人	75.9%
女　性	1,182 人	877 人	74.2%
男　性	1,077 人	837 人	77.7%

（3）男女共同参画社会に関する世論調査（内閣府）

①調査目的

男女共同参画社会に関する国民の意識を把握し、今後の施策の参考とする。

②調査対象

全国 18 歳以上の日本国籍を有する者 5,000 人を無作為抽出
（層化 2 段無作為抽出法）

③調査期間

令和元年 9 月 5 日～9 月 22 日

④調査方法

調査員による個別面接聴取法

⑤回収状況

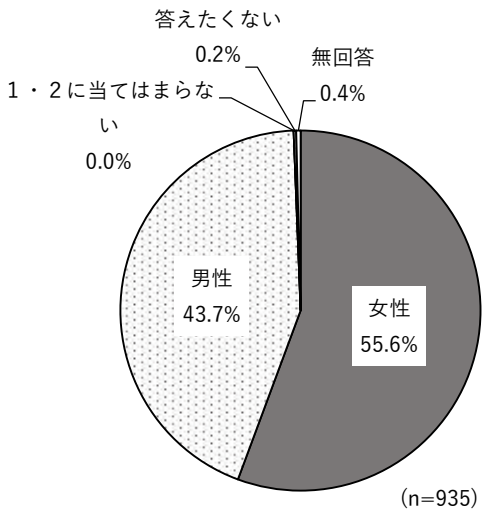
	標本数	有効回収数	回収率
全　体	5,000 人	2,645 人	52.9%
女　性	2,540 人	1,407 人	55.4%
男　性	2,460 人	1,238 人	50.3%

Ⅱ 回答者の属性

1 性別

性別構成比は、「女性」が 55.6%、「男性」が 43.7%で、女性の割合がやや高くなっています。

図 性別

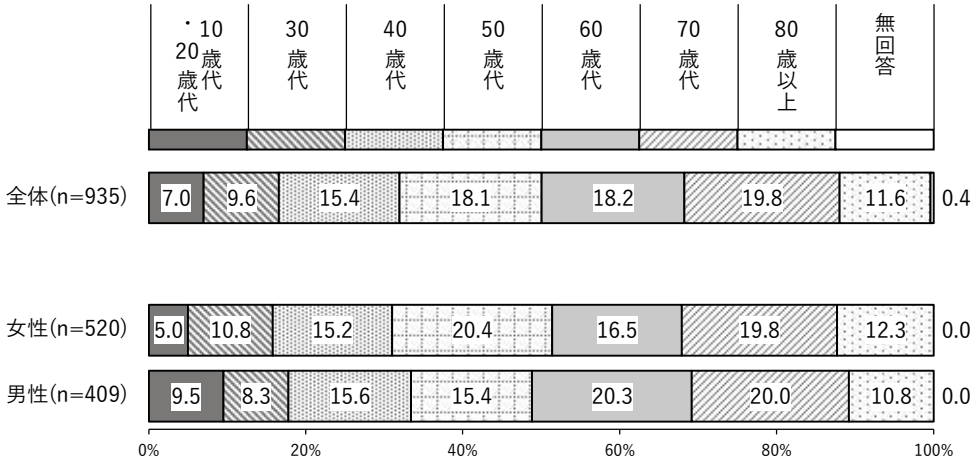


2 年齢

年齢別構成は、「70 歳代」が 19.8%と最も高く、次いで「60 歳代」(18.2%)、「50 歳代」(18.1%)と続き、60 歳代以上で約半数(49.6%)を占めます。以下、「40 歳代」(15.4%)、「80 歳以上」(11.6%)の順となっています。

性別では、男性に比べて女性で「50 歳代」が高く、男性は「60 歳代」が高くなっています。

図 性別 年齢



3 職業

職業別構成については、「正社員・正職員（常勤）」が 29.0%と最も高く、次いで「主婦・主夫」（21.1%）、「無職（主婦・主夫及び学生を除く）」（17.8%）、「自営業・会社経営」（11.8%）の順となっています。

性別では、女性で「主婦・主夫」「正社員・正職員（常勤）」「パート・アルバイト」の順に、男性で「正社員・正職員（常勤）」「無職（主婦・主夫及び学生を除く）」「自営業・会社経営」がそれぞれ高くなっています。

性・年齢別では、女性の 30 歳代以上では年齢が上がるほど「正社員・正職員（常勤）」の割合が低くなっています。

図 性別 職業

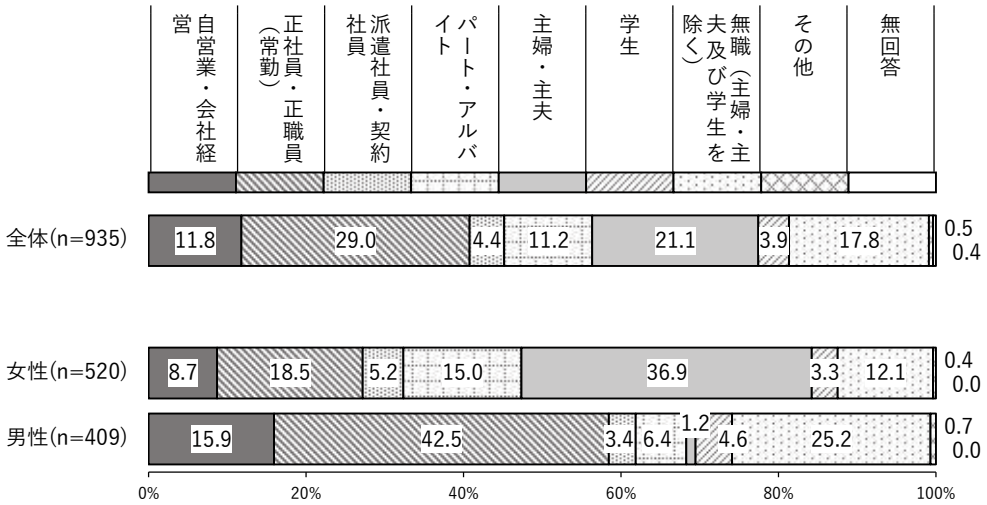


表 性・年齢別 職業

		回答者数（n）	自営業・会社経営	正社員・正職員（常勤）	派遣社員・契約社員	パート・アルバイト	主婦・主夫	学生	無職（主婦・主夫及び学生を除く）	その他	無回答
全体		935	11.8	29.0	4.4	11.2	21.1	3.9	17.8	0.5	0.4
年齢別	女性 10 歳代・20 歳代	26	3.8	15.4	7.7	3.8	-	61.5	7.7	-	-
	女性 30 歳代	56	5.4	46.4	1.8	16.1	26.8	1.8	1.8	-	-
	女性 40 歳代	79	6.3	32.9	5.1	25.3	29.1	-	1.3	-	-
	女性 50 歳代	106	9.4	29.2	7.5	24.5	22.6	-	5.7	0.9	-
	女性 60 歳代	86	12.8	10.5	12.8	20.9	32.6	-	9.3	1.2	-
	女性 70 歳代	103	11.7	-	1.0	3.9	66.0	-	17.5	-	-
	女性 80 歳以上	64	4.7	-	-	-	53.1	-	42.2	-	-
	男性 10 歳代・20 歳代	39	-	48.7	-	2.6	-	48.7	-	-	-
	男性 30 歳代	34	11.8	79.4	-	8.8	-	-	-	-	-
	男性 40 歳代	64	14.1	84.4	-	1.6	-	-	-	-	-
	男性 50 歳代	63	14.3	76.2	-	-	1.6	-	6.3	1.6	-
	男性 60 歳代	83	20.5	28.9	14.5	9.6	1.2	-	24.1	1.2	-
	男性 70 歳代	82	23.2	1.2	2.4	14.6	-	-	57.3	1.2	-
	男性 80 歳以上	44	15.9	2.3	-	2.3	6.8	-	72.7	-	-

※濃い網掛けは全体より 10 ポイント以上高い項目、薄い網掛けは全体より 5 ポイント以上高い項目

4 配偶者・パートナーの有無・職業

配偶者・パートナーについては、「配偶者・パートナーはいない」が 26.4%となっています。

「配偶者・パートナーはいない」と回答した人以外の職業では、「正社員・正職員（常勤）」（22.4%）、「主婦・主夫」（14.8%）、「無職（主婦・主夫及び学生を除く）」（14.0%）の順に高い割合となっています。

性別では、「配偶者・パートナーはいない」と回答した人以外で、女性は「正社員・正職員（常勤）」「自営業・会社経営」「無職（主婦・主夫及び学生を除く）」、男性は「主婦・主夫」「パート・アルバイト」「正社員・正職員（常勤）」が高くなっています。

性・年齢別では、「正社員・正職員（常勤）」の 30 歳代から 50 歳代で、女性は割合に差異は見られませんが、男性は年齢が上がるほど割合が低くなっています。

図 性別 配偶者・パートナーの有無・職業

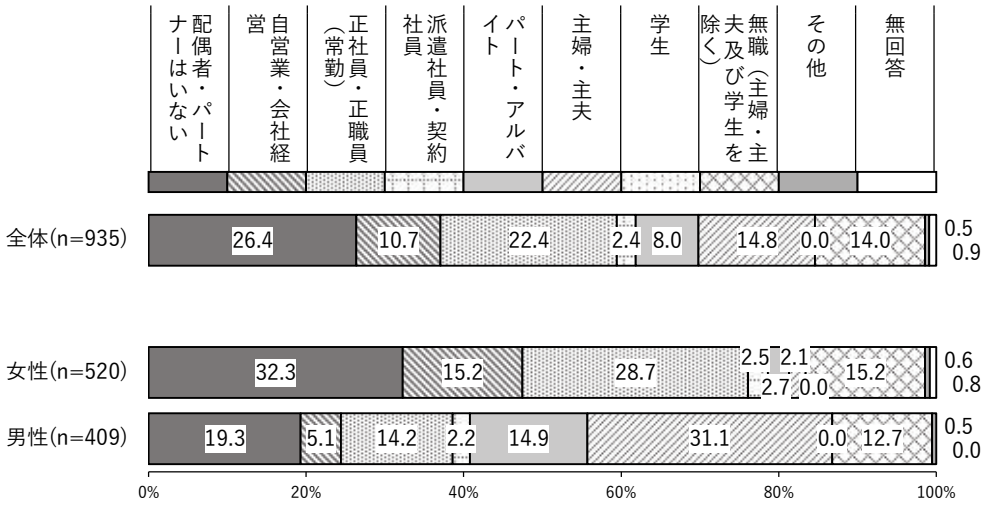


表 性・年齢別 配偶者・パートナーの有無・職業

		回答者数（n）	配偶者・パートナーはいない	自営業・会社経営	正社員・正職員（常勤）	派遣社員・契約社員	パート・アルバイト	主婦・主夫	学生	無職（主婦・主夫及び学生を除く）	その他	無回答
全体		935	26.4	10.7	22.4	2.4	8.0	14.8	-	14.0	0.5	0.9
年齢別	女性 10 歳代・20 歳代	26	88.5	-	11.5	-	-	-	-	-	-	-
	女性 30 歳代	56	26.8	19.6	50.0	-	1.8	-	-	-	-	1.8
	女性 40 歳代	79	15.2	27.8	54.4	1.3	1.3	-	-	-	-	-
	女性 50 歳代	106	18.9	17.0	54.7	2.8	1.9	0.9	-	3.8	-	-
	女性 60 歳代	86	32.6	18.6	16.3	9.3	3.5	-	-	17.4	1.2	1.2
	女性 70 歳代	103	34.0	8.7	2.9	1.0	5.8	5.8	-	38.8	1.9	1.0
	女性 80 歳以上	64	54.7	4.7	-	-	1.6	6.3	-	31.3	-	1.6
	男性 10 歳代・20 歳代	39	79.5	-	10.3	-	5.1	2.6	-	2.6	-	-
	男性 30 歳代	34	26.5	2.9	35.3	2.9	2.9	29.4	-	-	-	-
	男性 40 歳代	64	15.6	7.8	29.7	1.6	20.3	25.0	-	-	-	-
	男性 50 歳代	63	9.5	7.9	19.0	4.8	28.6	27.0	-	3.2	-	-
	男性 60 歳代	83	9.6	8.4	9.6	3.6	16.9	39.8	-	10.8	1.2	-
	男性 70 歳代	82	7.3	3.7	3.7	1.2	14.6	42.7	-	26.8	-	-
	男性 80 歳以上	44	20.5	-	-	-	2.3	34.1	-	40.9	2.3	-

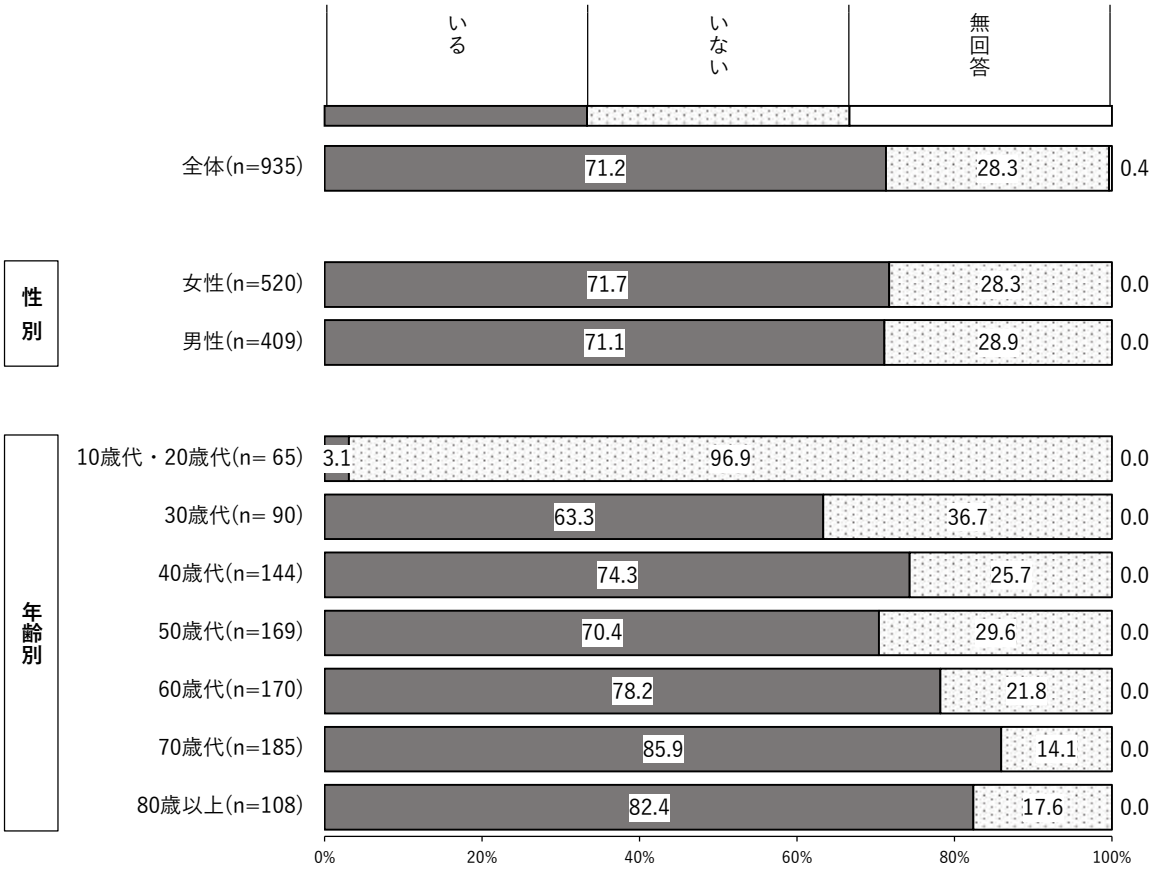
※濃い網掛けは全体より 10 ポイント以上高い項目、薄い網掛けは全体より 5 ポイント以上高い項目

5 子どもの有無

子どもの有無については、「いる」が 71.2%、「いない」が 28.3%となっています。

年齢別では、年齢が上がるほど「いる」が高くなる傾向にあり、70 歳代以上で 8 割を超えています。10 歳代・20 歳代では大半が「いない」と回答しています。

図 性別、年齢別 子どもの有無



Ⅲ 調査結果の概要

回答者の属性

性別構成比は、女性 55.6%、男性 43.7%と女性が過半数を占めており、年齢別構成は、70 歳代が 19.8%と最も高く、50 歳代以下の合計と 60 歳代以上の合計がそれぞれ約 5 割ずつとなっています。職業は、「正社員・正職員(常勤)」が 29.0%と最も高く、続いて「主婦・主夫(21.1%)」、「無職(主婦・主夫及び学生を除く)(17.8%)」の順となっています。家族については、子どもが「いる」が 71.2%、「いない」が 28.3%となっています。

【1】男女の平等意識について

男女の平等意識について、「平等である」への回答をみると、「③学校教育の場で」の割合が55.7%で最も高く、続いて「①家庭生活の場で(36.3%)」、「⑦自治会や PTA などの地域活動の場で(32.9%)」の順となっています。『男性優遇』※1意識については、特に「⑥社会通念や慣習、しきたり等で(77.6%)」、「④政治の場で(77.4%)」、「⑧社会全体として(72.7%)」、「②職場の中(賃金・昇進等)(62.9%)」の順に割合が高くなっています。

性別役割分担意識に関わる考え方については、『反対意向』※2(50.7%)が過半数を占め、『賛成意向』※2が 3 割強(33.6%)となっています。『賛成意向』の理由は、「妻が家庭を守った方が、子どもの成長などにとって良いと思うから(66.9%)」、『反対意向』の理由は、「夫と妻の固定的な役割分担の意識を押しつけるべきではないから(77.8%)」の割合がそれぞれ最も高くなっています。

家庭における役割分担について、育児と介護では、ともに「外部サービスを利用しながら、それ以外は自分と配偶者で半分ずつ分担(育児 34.7%、介護 54.9%)」の割合が最も高く、育児・介護以外の家事では、「自分と配偶者で半分ずつ分担(外部サービスは利用しない)(28.0%)」が最も高く、続いて僅差で「外部サービスを利用しながら、それ以外は自分と配偶者で半分ずつ分担(26.7%)」が高い割合となっています。

男性が積極的に家事や子育て等を行うための課題は、「長時間労働などを原因とした関わる時間の少なさ(51.6%)」が最も高く、続いて「男性自身の抵抗感(45.2%)」、「男性が関わることに対する当事者以外の偏見、理解や配慮の無さ(39.6%)」の順に高い割合となっています。

女性が職業をもつことについては、「結婚や出産、子育てにかかわらず、職業をもち続けるのがよい(49.1%)」が 5 割近くを占めており、続いて「結婚しても職業をもち続け、子どもができたら辞めて、大きくなったら再び職業をもつのがよい(28.6%)」となっています。

女性が離職をしないで職場で活躍するための課題は、「育児や介護の両立支援制度不足(64.9%)」を 6 割以上があげており、「長時間労働や、勤務時間に柔軟性がないこと(56.0%)」、「上司や同僚の理解不足(52.5%)」、「男性の家事・育児等参加への理解、意識改革(52.2%)」も 5 割以上があげています。

※1「男性が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性が優遇されている」を合わせて『男性優遇』としています。

※2「賛成」と「どちらかといえば賛成」を合わせて『賛成意向』、「反対」と「どちらかといえば反対」を合わせて『反対意向』としています。

【2】夫婦間や交際相手からの暴力（DV）について

過去 5 年間に配偶者・パートナーがいる（いた）かたのうち、DVの経験については「暴力はなかった」が 84.0%となっていますが、暴力があった場合の内訳は「大声でどなられたり、ことばによる暴力をあびせられた」が 11.2%と他の項目より割合が高くなっています。

DVを受けた時の相談先については、「家族や親戚」と「友人・知人」がともに 34.3%となっていますが、「どこ（だれ）にも相談しなかった」が 41.2%で最も多く、4 割強となっています。DV被害を相談しなかった理由については、「相談するほどのことではないと思った」が 45.2%、「相談しても無駄だと思った」が 35.7%、「だれにも話す気持ちになれなかった」が 33.3%、「自分にも悪いところがある」が 31.0%となっています。

【3】男女共同参画の取組について

男女共同参画社会実現に向けた本市の取組の認知状況については、「見たり聞いたりしたものはない（61.7%）」が 6 割以上となっており、見たり聞いたりしたことがあるものでは「芦屋市男女共同参画センター　ウィザスあしや」が 20.9%で最も高く、「芦屋市男女共同参画センター通信『ウィザス』」が 11.2%、「芦屋市男女共同参画推進条例」が 10.1%となっています。

男女共同参画関連用語の認知状況については、「男女雇用機会均等法（雇用の分野における男女の均等な機会及び待遇の確保等に関する法律）（54.8%）」が最も高く、続いて「ストーカー規制法（ストーカー行為等の規制等に関する法律）（50.8%）」、「ジェンダー（社会的・文化的に形成された性別）（49.3%）」、「DV防止法（配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律）（43.9%）」の順となっていますが、その他の項目では、「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）（29.6%）」、「男女共同参画社会基本法（26.5%）」は 2 割台にとどまっています。

男女共同参画推進にとって重要なことについては、「保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する（59.1%）」が最も高く、続いて「子育てや介護中であっても仕事が続けられるよう支援する（57.1%）」、「子育てや介護などでいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する（53.9%）」も 5 割を超えています。

Ⅳ 調査結果

【1】男女の平等意識について

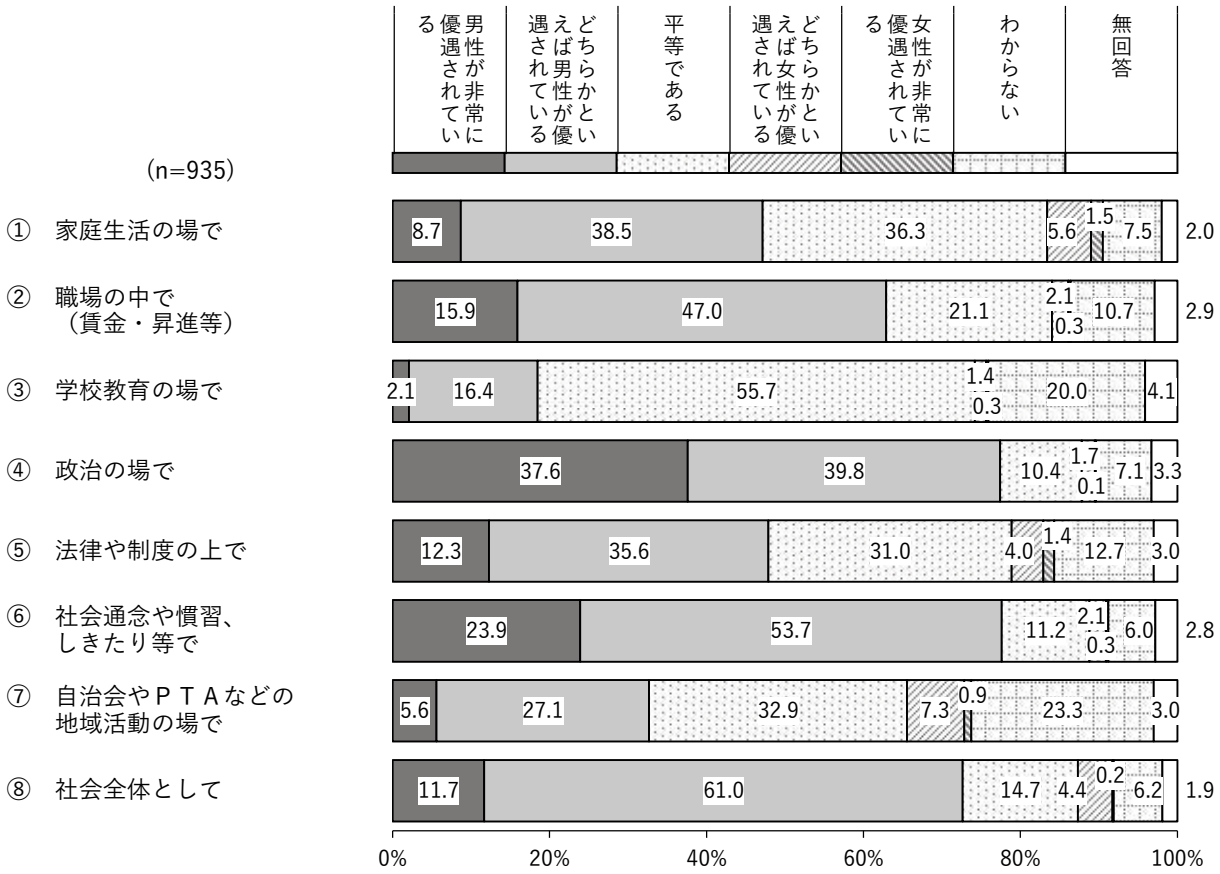
1 男女の地位の平等感

問６．あなたは、次の各分野において、男女の地位が平等になっていると思いますか。次の各項目についてあなたのお考えに最も近いものをお答えください。（○はそれぞれ１つずつ）

男女の平等意識に関するすべての分野において、『男性優遇※』意識が『女性優遇※』意識を上回っています。『男性優遇』意識が高い順に、「⑥社会通念や慣習、しきたり等で」（77.6％）、「④政治の場で」（77.4％）、「⑧社会全体として」（72.7％）、「②職場の中で（賃金・昇進等）」（62.9％）となっています。

一方、「平等である」の割合が高い項目としては、「③学校教育の場で」（55.7％）、「①家庭生活の場で」（36.3％）、「⑦自治会や PTA などの地域活動の場で」（32.9％）などがあげられます。

図 男女の地位の平等感



※「男性が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性が優遇されている」を合わせて『男性優遇』、「女性が非常に優遇されている」と「どちらかといえば女性が優遇されている」を合わせて『女性優遇』としています。

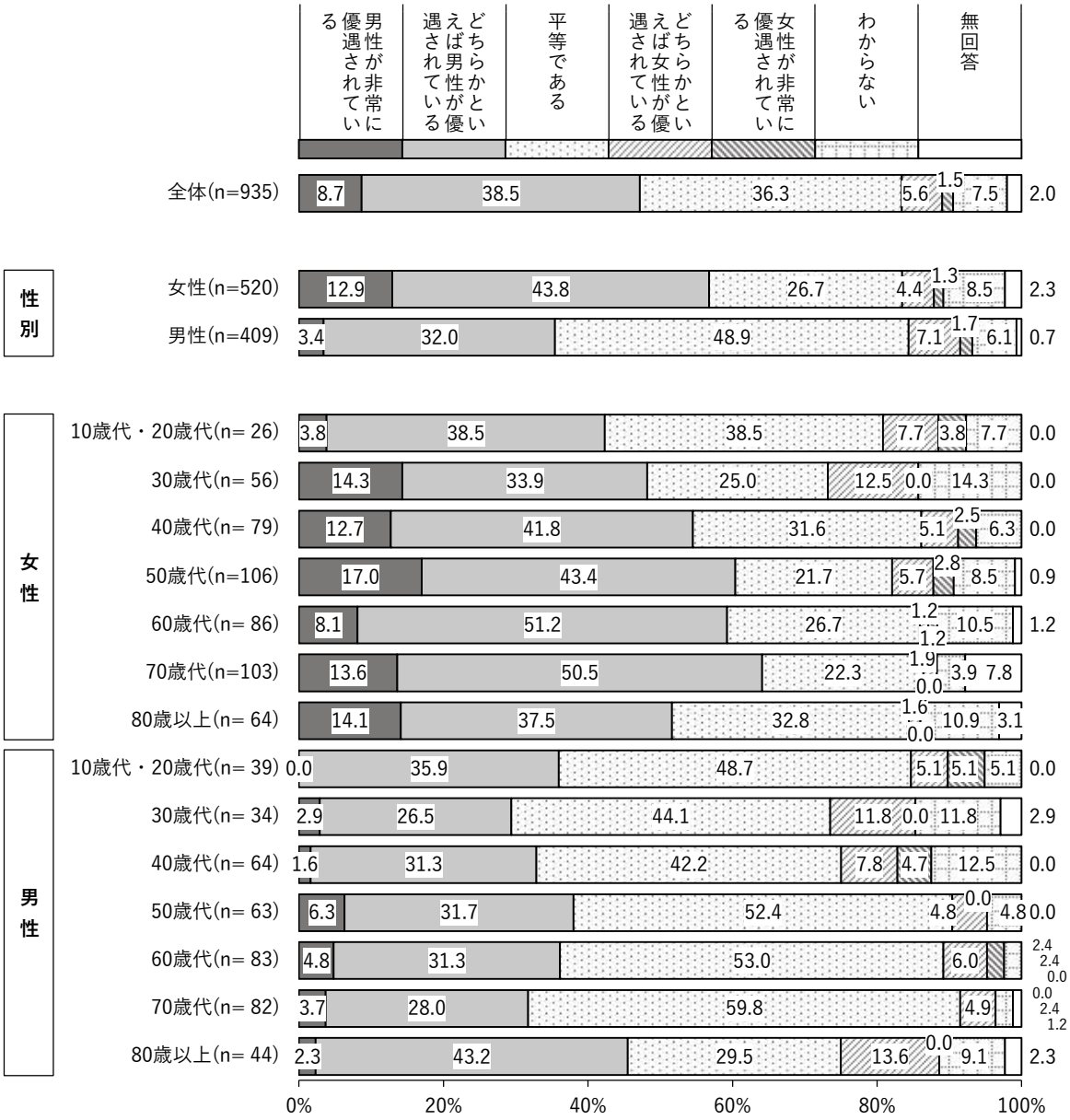
① 家庭生活の場で

家庭生活の場では、「どちらかといえば男性が優遇されている」(38.5%)が最も高く、次いで「平等である」(36.3%)、「男性が非常に優遇されている」(8.7%)の順となっています。

性別では、女性の『男性優遇』意識(56.7%)が、男性(35.4%)より21.3ポイント高くなっています。

性・年齢別では、女性70歳代で『男性優遇』意識が64.1%と他の層に比べて高くなっています。一方、男性70歳代で「平等である」が59.8%と他の層に比べて高くなっています。

図 性別、性・年齢別 男女の地位の平等感 － ① 家庭生活の場で



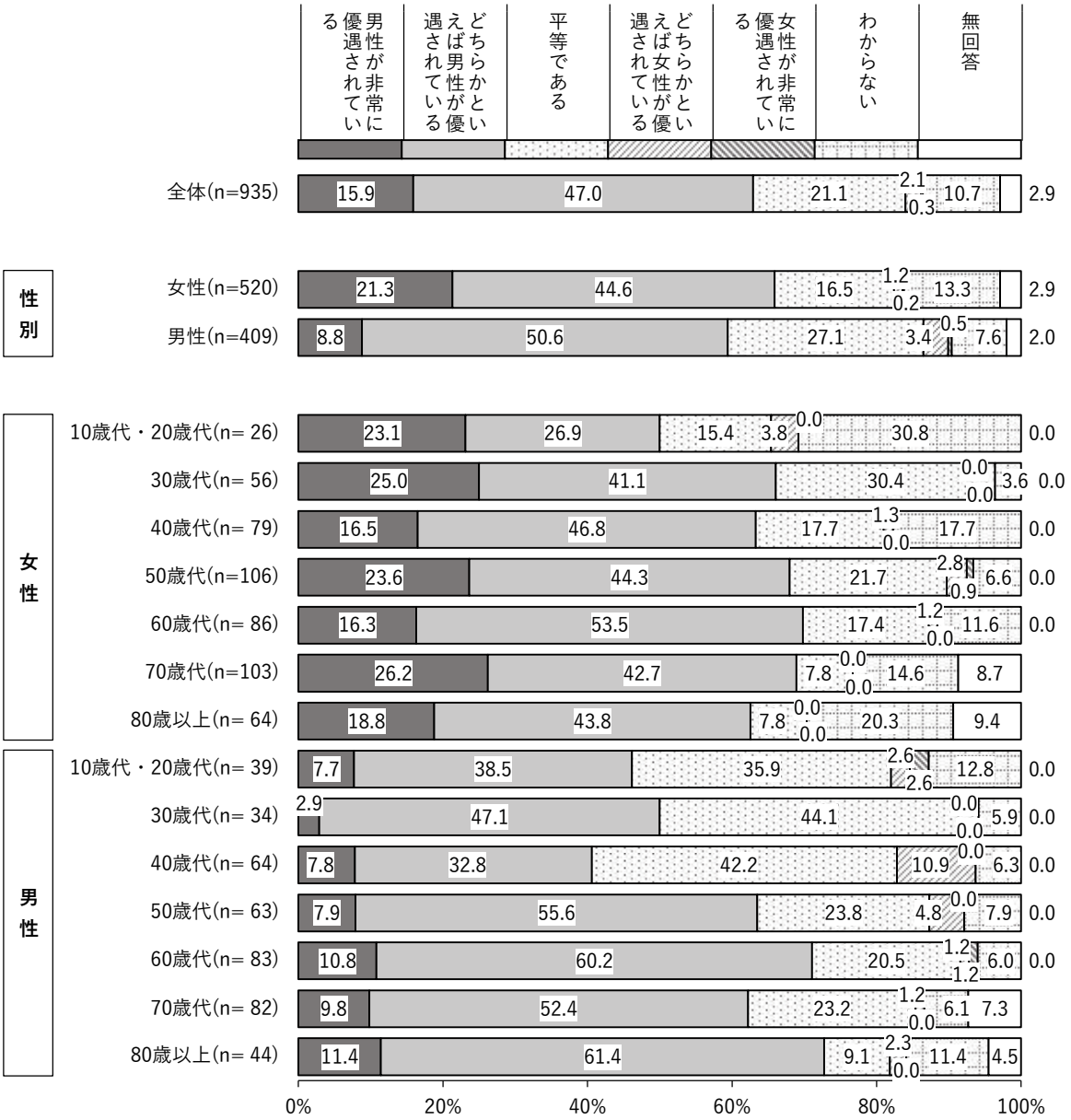
② 職場の中で（賃金・昇進等）

職場の中では、「どちらかといえば男性が優遇されている」（47.0%）が最も高く、次いで「平等である」（21.1%）、「男性が非常に優遇されている」（15.9%）の順となっています。

性別では、男女とも『男性優遇』意識が過半数を占めています。（女性 65.9%、男性 59.4%）

性・年齢別では、男性 40 歳代以下では「平等である」の割合が、50 歳代以上に比べて高くなっています。

図 性別、性・年齢別 男女の地位の平等感 － ② 職場の中で（賃金・昇進等）



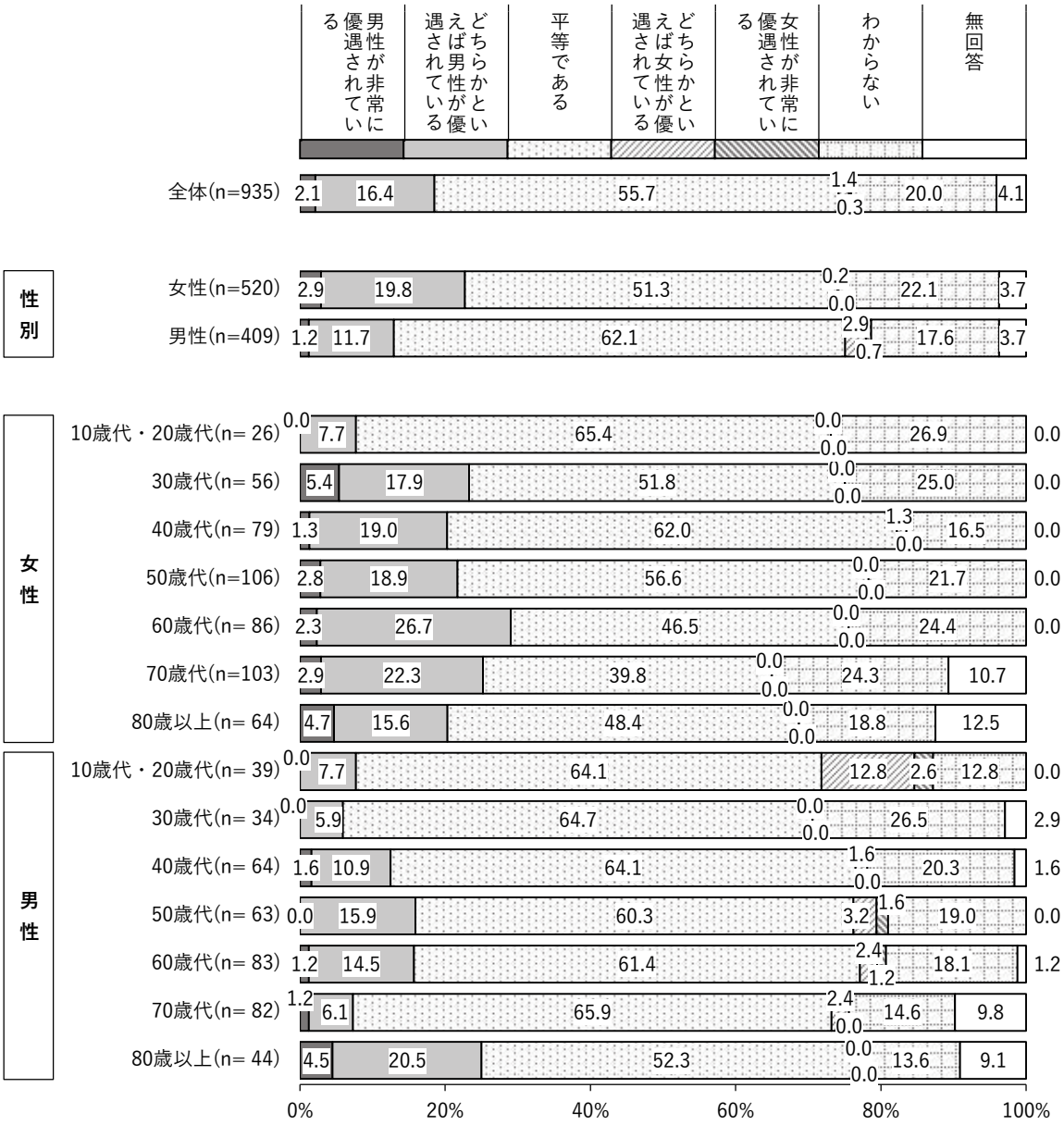
③ 学校教育の場で

学校教育の場では、「平等である」(55.7%)が最も高く、次いで「わからない」(20.0%)、「どちらかといえば男性が優遇されている」(16.4%)の順となっています。

性別では、男女とも「平等である」が過半数を占めています。(女性 51.3%、男性 62.1%)

性・年齢別では、男性 10 歳代・20 歳代で「どちらかといえば女性が優遇されている」の割合 12.8%が、他の層に比べて高くなっています。

図 性別、性・年齢別 男女の地位の平等感 － ③ 学校教育の場で



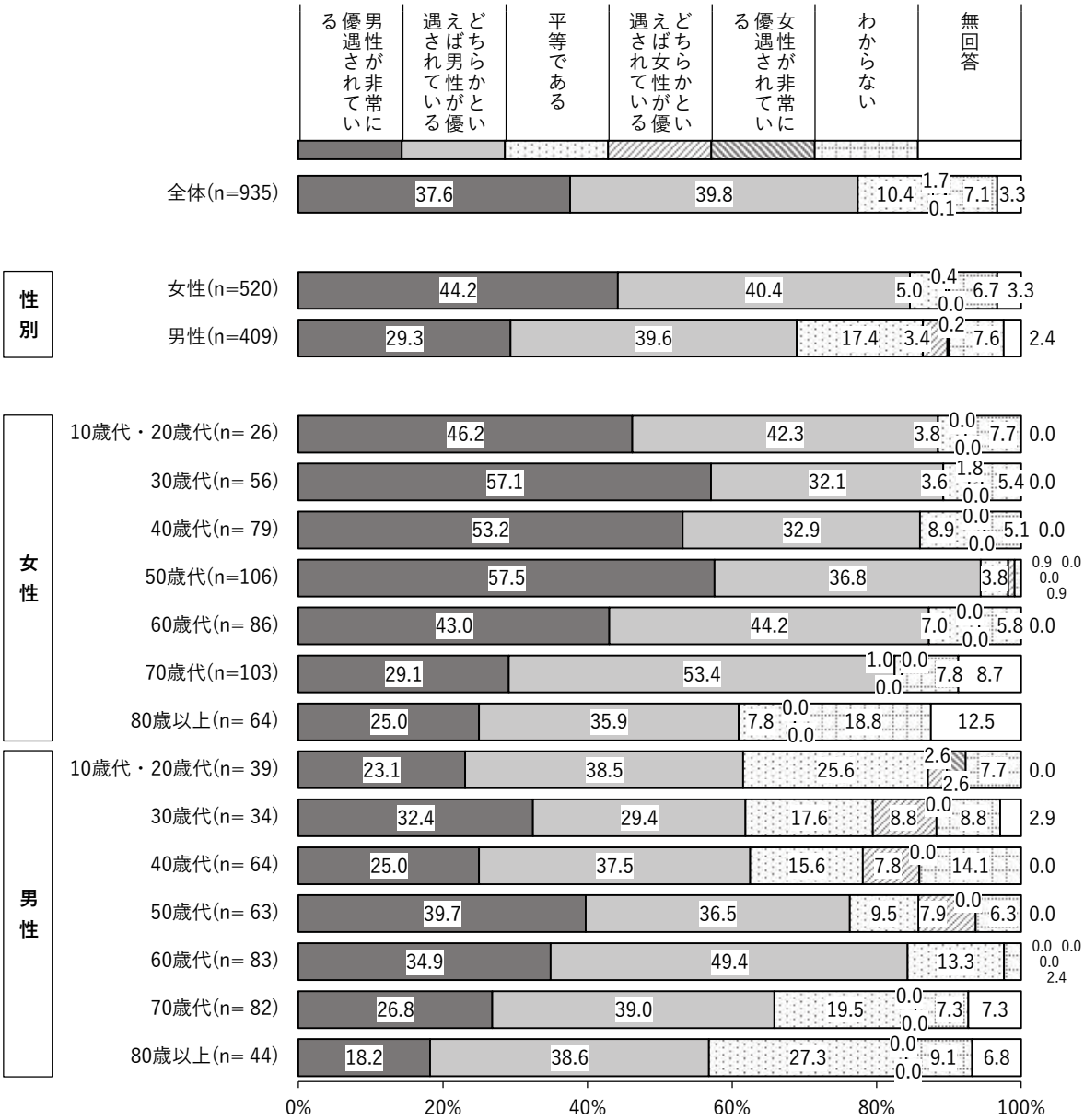
④ 政治の場で

政治の場では、「どちらかといえば男性が優遇されている」(39.8%)が最も高く、次いで「男性が非常に優遇されている」(37.6%)、「平等である」(10.4%)の順となっています。

性別では、女性の『男性優遇』意識(84.6%)が、男性(68.9%)より15.7ポイント高くなっています。

性・年齢別では、女性 30～50 歳代で「男性が非常に優遇されている」の割合が過半数を占め、他の層に比べて高くなっています。

図 性別、性・年齢別 男女の地位の平等感 － ④ 政治の場で



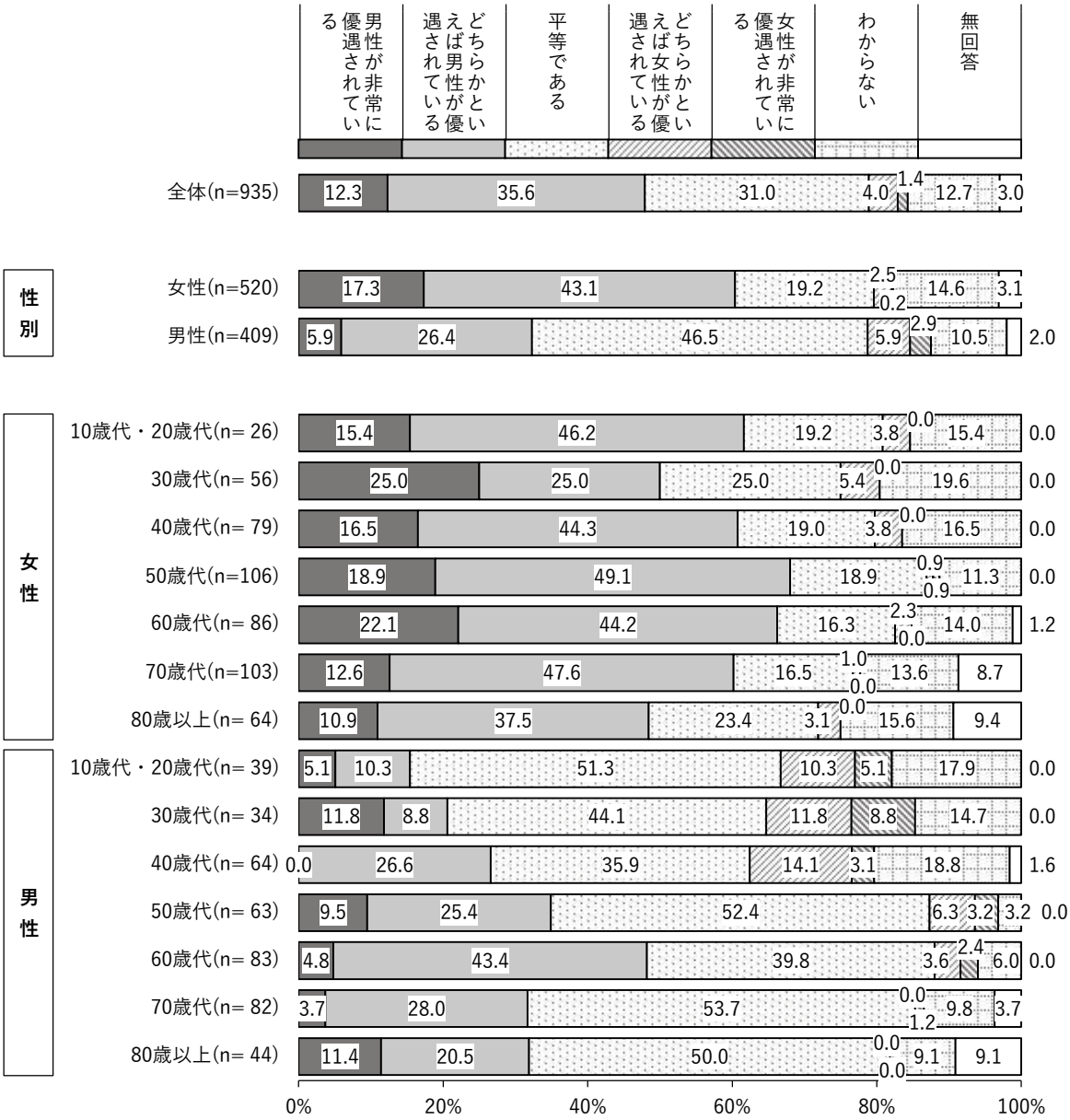
⑤ 法律や制度の上で

法律や制度の上では、「どちらかといえば男性が優遇されている」(35.6%)が最も高く、次いで「平等である」(31.0%)、「わからない」(12.7%)の順となっています。

性別では、女性の『男性優遇』意識(60.4%)が、男性(32.3%)より28.1ポイント高くなっています。

性・年齢別では、男性 40 歳代以下では『女性優遇』意識が 15～20%程度と、50 歳代以上に比べて高くなっています。

図 性別、性・年齢別 男女の地位の平等感 － ⑤ 法律や制度の上で



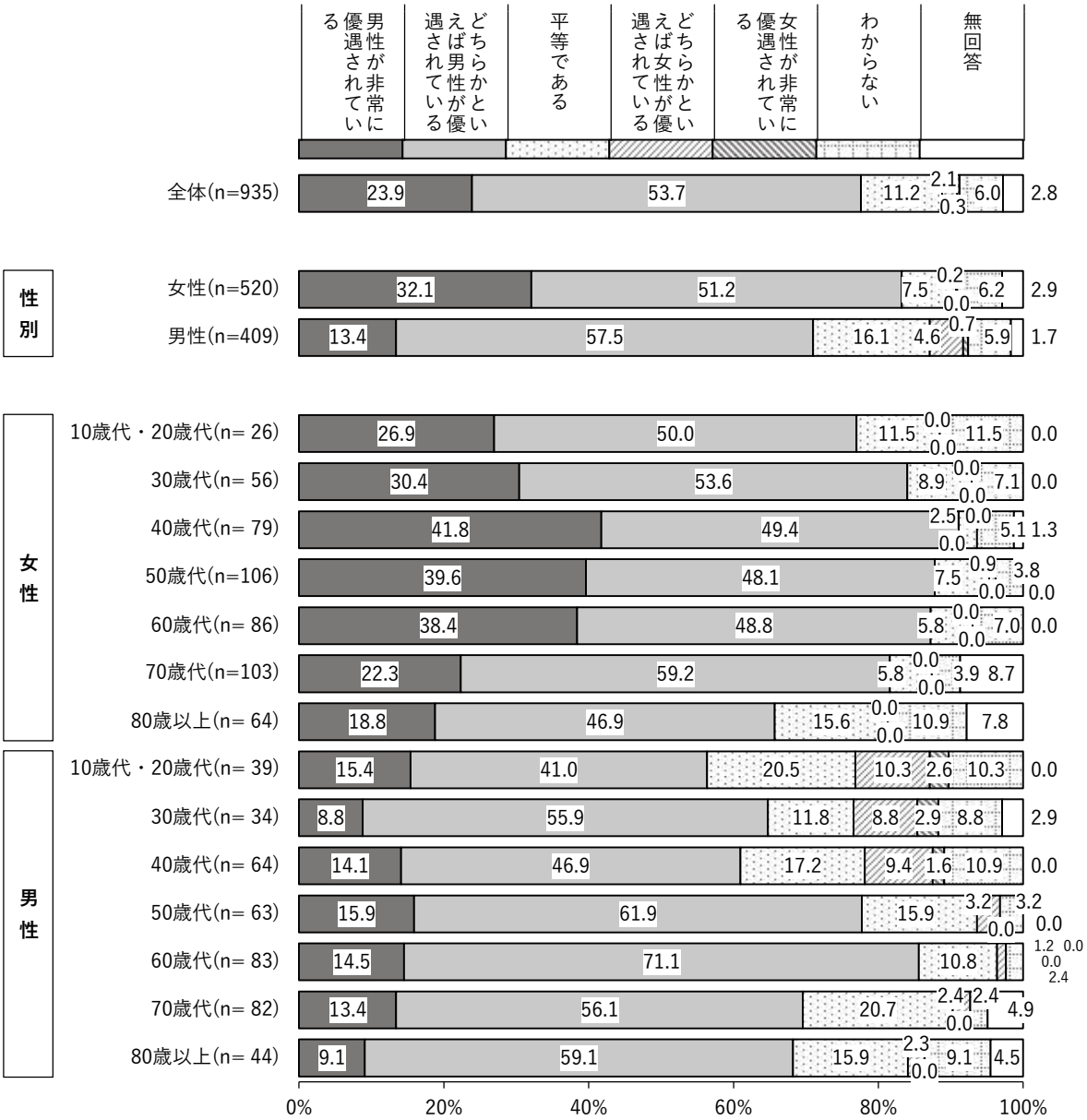
⑥ 社会通念や慣習、しきたり等で

社会通念や慣習、しきたり等では、「どちらかといえば男性が優遇されている」(53.7%)が最も高く、次いで「男性が非常に優遇されている」(23.9%)、「平等である」(11.2%)の順となっています。

性別では、女性の『男性優遇』意識(83.3%)が、男性(70.9%)より12.4ポイント高くなっています。

性・年齢別では、女性40～60歳代で「男性が非常に優遇されている」の割合がそれぞれ約4割で、他の層に比べて高くなっています。

図 性別、性・年齢別 男女の地位の平等感 － ⑥ 社会通念や慣習、しきたり等で



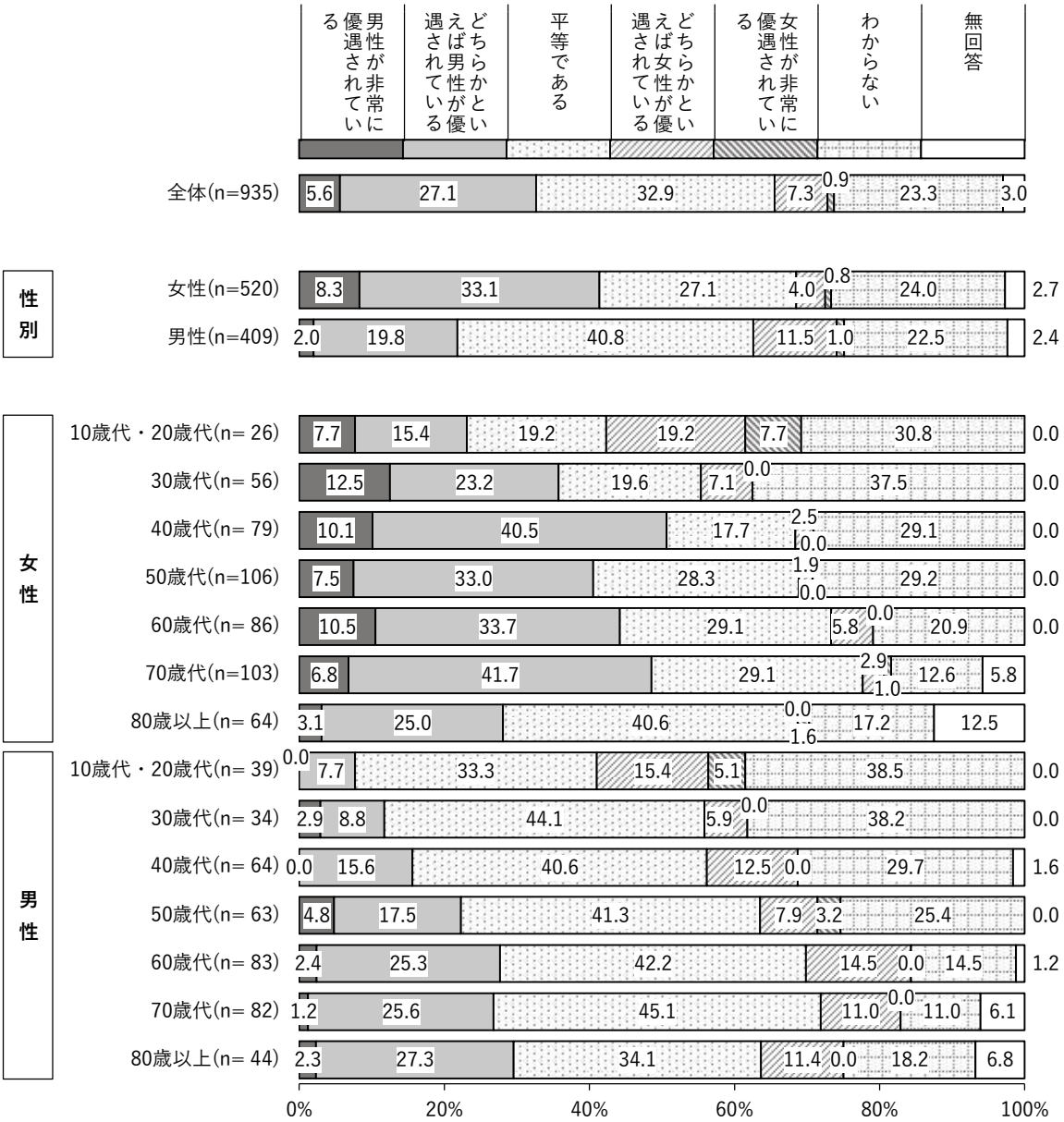
⑦ 自治会や PTA などの地域活動の場で

自治会や PTA などの地域活動の場では、「平等である」(32.9%)が最も高く、次いで「どちらかといえば男性が優遇されている」(27.1%)、「わからない」(23.3%)の順となっています。

性別では、女性の『男性優遇』意識(41.4%)が、男性(21.8%)より 19.6 ポイント高くなっています。また、男性の「平等である」(40.8%)が、女性(27.1%)より 13.7 ポイント高くなっています。

性・年齢別では、男性は年齢が上がるほど『男性優遇』意識が高くなる傾向にあります。

図 性別、性・年齢別 男女の地位の平等感 － ⑦ 自治会や PTA などの地域活動の場で



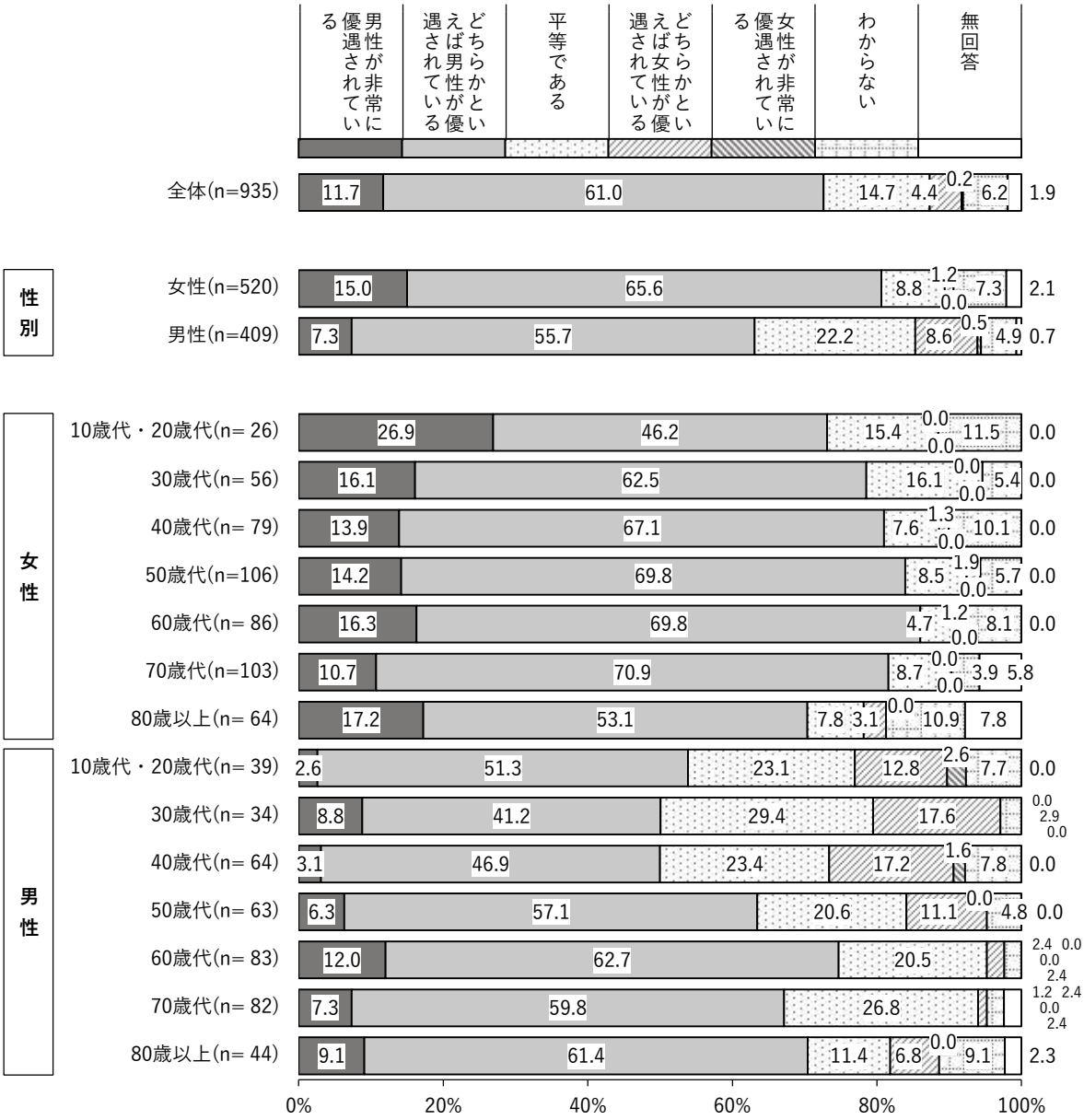
⑧ 社会全体として

社会全体では、「どちらかといえば男性が優遇されている」(61.0%)が最も高く、次いで「平等である」(14.7%)、「男性が非常に優遇されている」(11.7%)の順となっています。

性別では、女性の『男性優遇』意識(80.6%)が、男性(63.0%)より17.6ポイント高くなっています。

性・年齢別では、女性10歳代・20歳代で「男性が非常に優遇されている」、男性40歳代以下で『女性優遇』意識が、他の層に比べて高くなっています。

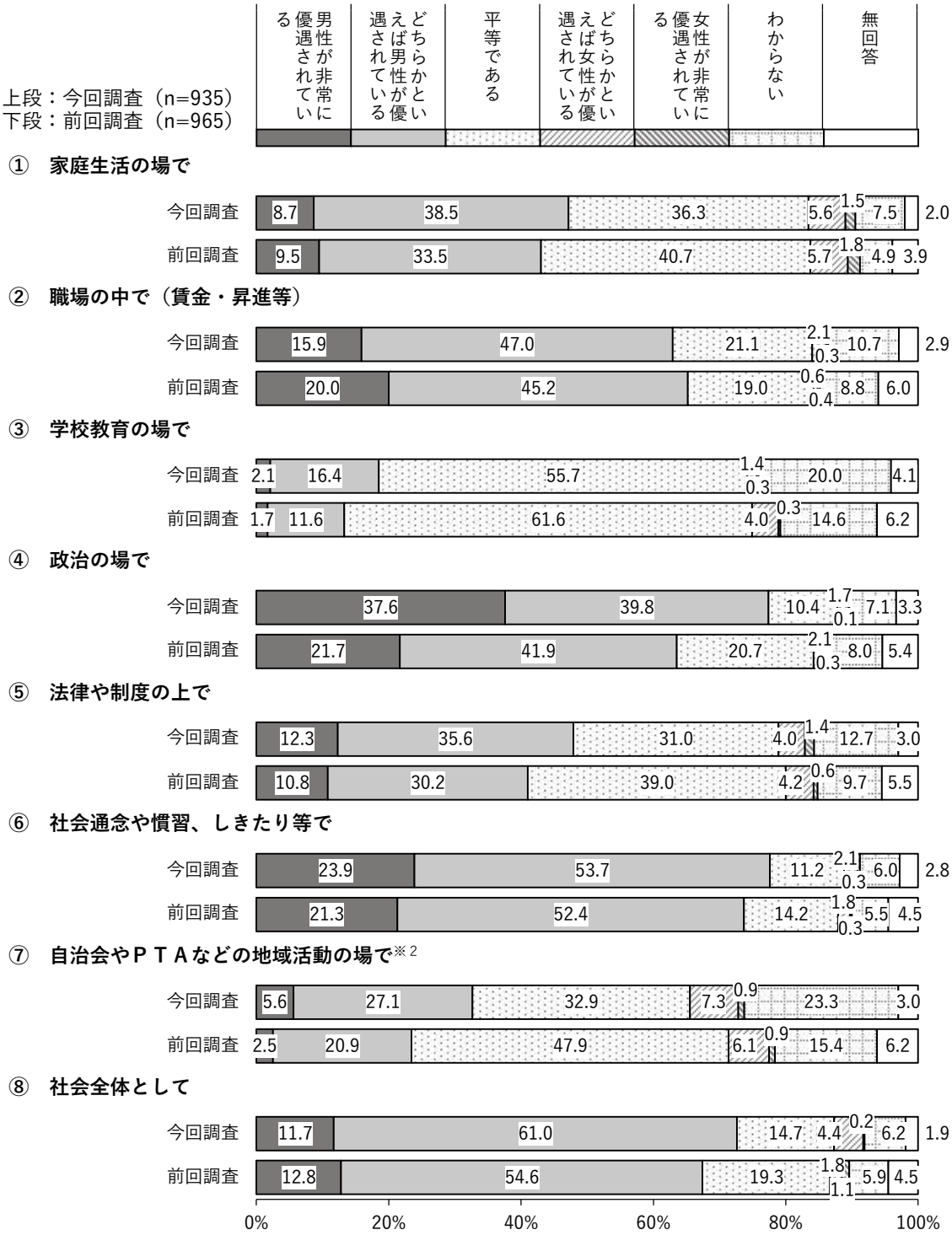
図 性別、性・年齢別 男女の地位の平等感 － ⑧ 社会全体として



参考／前回調査との比較

「②職場の中で（賃金・昇進等）」以外の分野で「平等である」が、前回調査よりも低くなっています。また、「④政治の場で」の『男性優遇』意識（77.4％）が、前回調査（63.6％）よりも大幅に高くなっています。

図　男女の地位の平等感（前回調査との比較）　※1



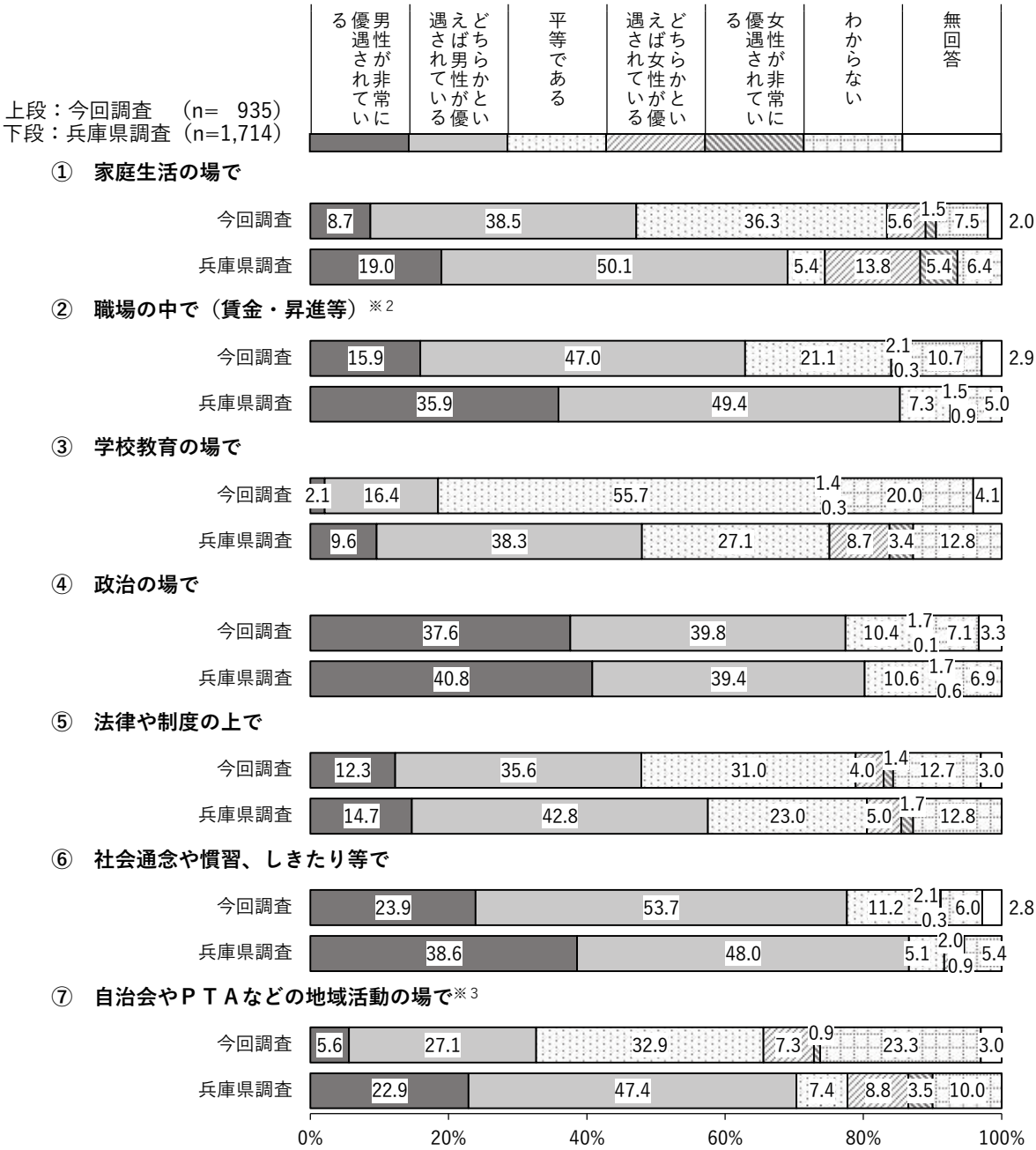
※１　前回調査の選択肢は「男性が優遇されている」「どちらかといえば男性が優遇されている」「平等である」「どちらかといえば女性が優遇されている」「女性が優遇されている」「わからない」

※２　前回調査では「地域活動の場で」

参考／兵庫県調査との比較

すべての分野において、兵庫県よりも『男性優遇』意識の割合が低く、特に「①家庭生活の場で」、「②職場の中で（賃金・昇進等）」、「③学校教育の場で」、「⑦自治会や PTA などの地域活動の場で」については大幅に低くなっています。そして、「④政治の場で」を除き、「平等である」の割合が、兵庫県よりも高い割合となっています。

図　男女の地位の平等感（兵庫県調査との比較） ※1

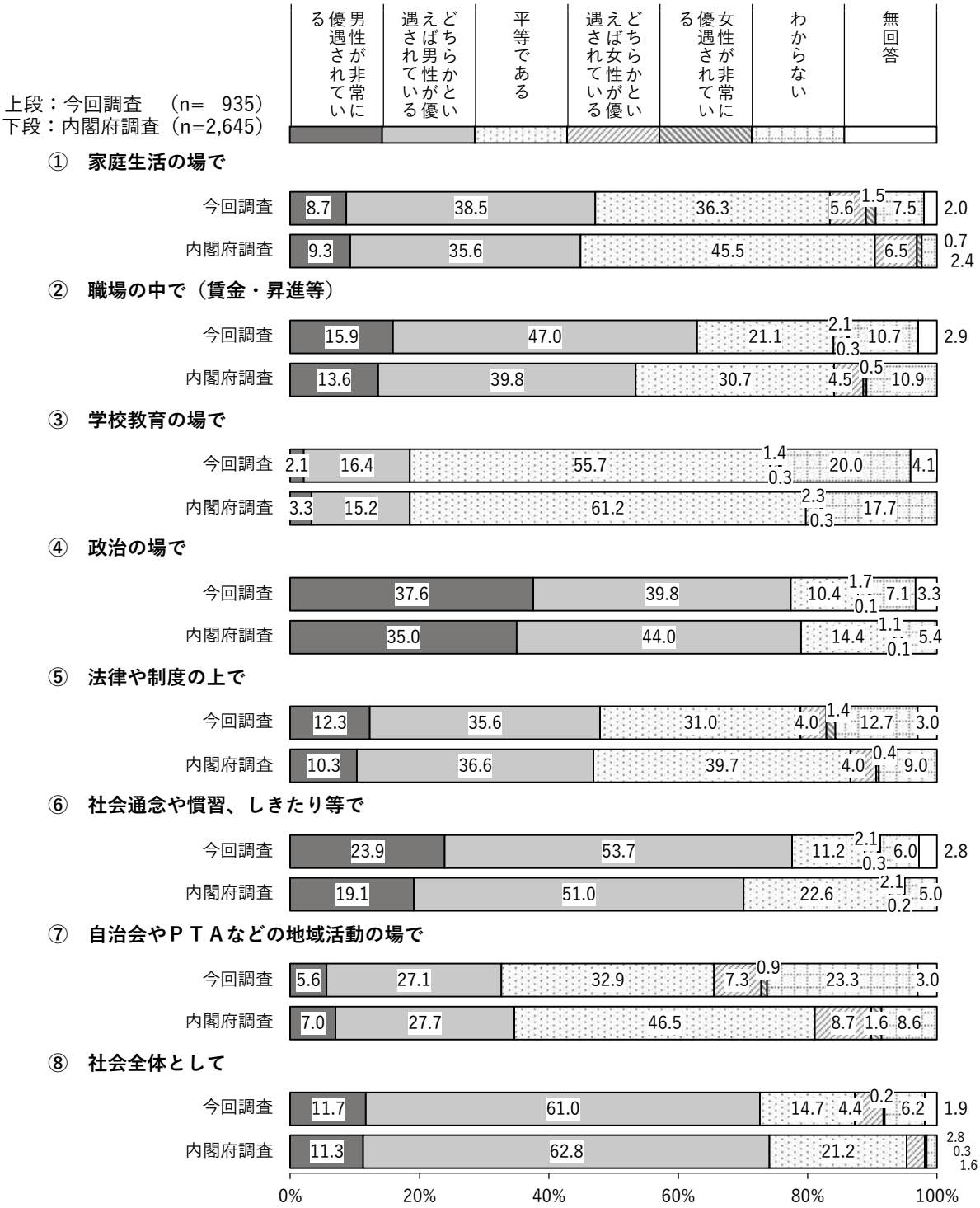


※1　兵庫県調査の選択肢は「男性が非常に優遇(優位)」「どちらかといえば男性が優遇(優位)」「平等になっている」「どちらかといえば女性が優遇(優位)」「女性が非常に優遇(優位)」「わからない」
※2　兵庫県調査では「職場で（採用、業務内容、昇進、昇級、職場環境など）」
※3　兵庫県調査では「地域活動で」

参考／内閣府調査との比較

「②職場の中で（賃金・昇進等）」「⑥社会通念や慣習、しきたり等で」の『男性優遇』意識が、内閣府調査よりもそれぞれやや高くなっています。一方、全ての項目において、「平等である」が内閣府調査よりも低くなっています。

図　男女の地位の平等感（内閣府調査との比較）



2 性別役割分担意識に関わる考え方

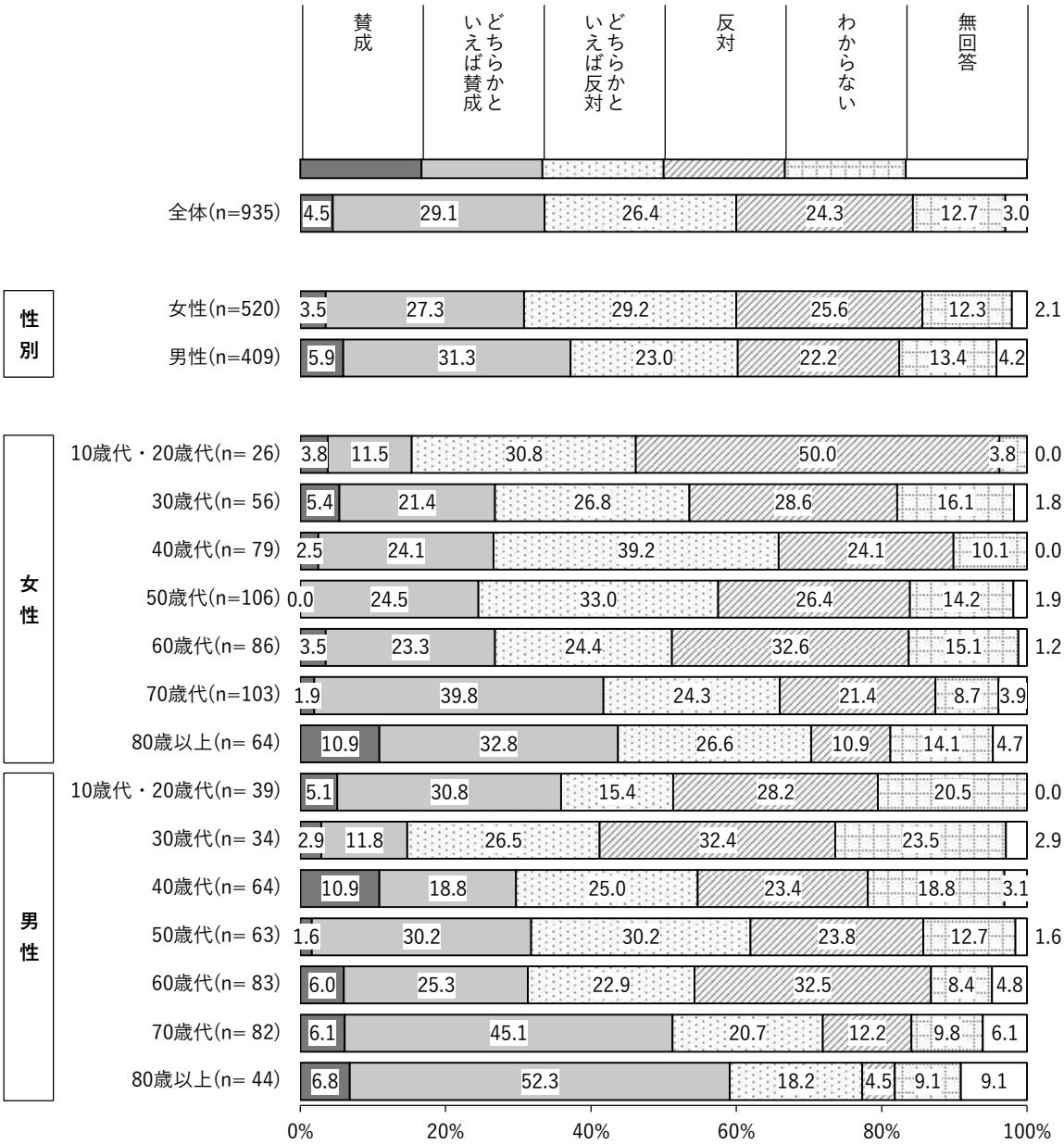
問７．あなたは、「夫が外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、どうお考えですか。（○は１つ）

性別役割分担意識に関わる考え方については、「どちらかといえば賛成」（29.1%）が最も高く、次いで「どちらかといえば反対」（26.4%）、「反対」（24.3%）の順となっています。

性別では、男性と比べて女性の『反対意向※』が高くなっています。（女性 54.8%、男性 45.2%）

性・年齢別では、男女とも 70 歳代以上で『賛成意向※』の割合が、他の層に比べてそれぞれ高くなっているほか、女性の 10 歳代・20 歳代では反対意向が 8 割以上を占めています。

図 性別、性・年齢別 性別役割分担意識に関わる考え方

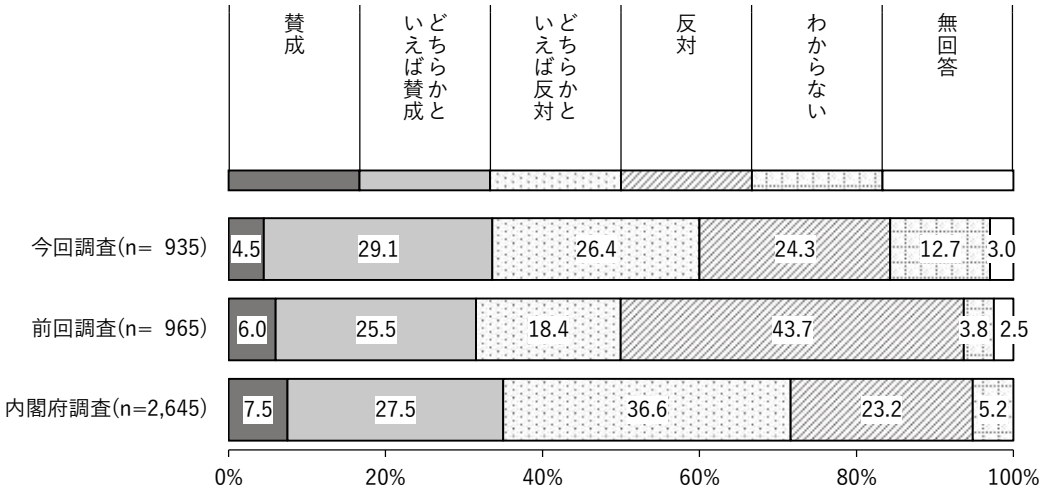


※「賛成」と「どちらかといえば賛成」を合わせて『賛成意向』、「反対」と「どちらかといえば反対」を合わせて『反対意向』としています。

参考／前回調査、内閣府調査との比較

『反対意向』が前回調査よりも 11.4 ポイント、内閣府調査よりも 9.1 ポイント、それぞれ低くなっています。

図 性別役割分担意識に関わる考え方（前回調査、内閣府調査との比較） ※1



※1　前回調査の選択肢は「そう思う」「どちらかといえばそう思う」「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」「わからない」

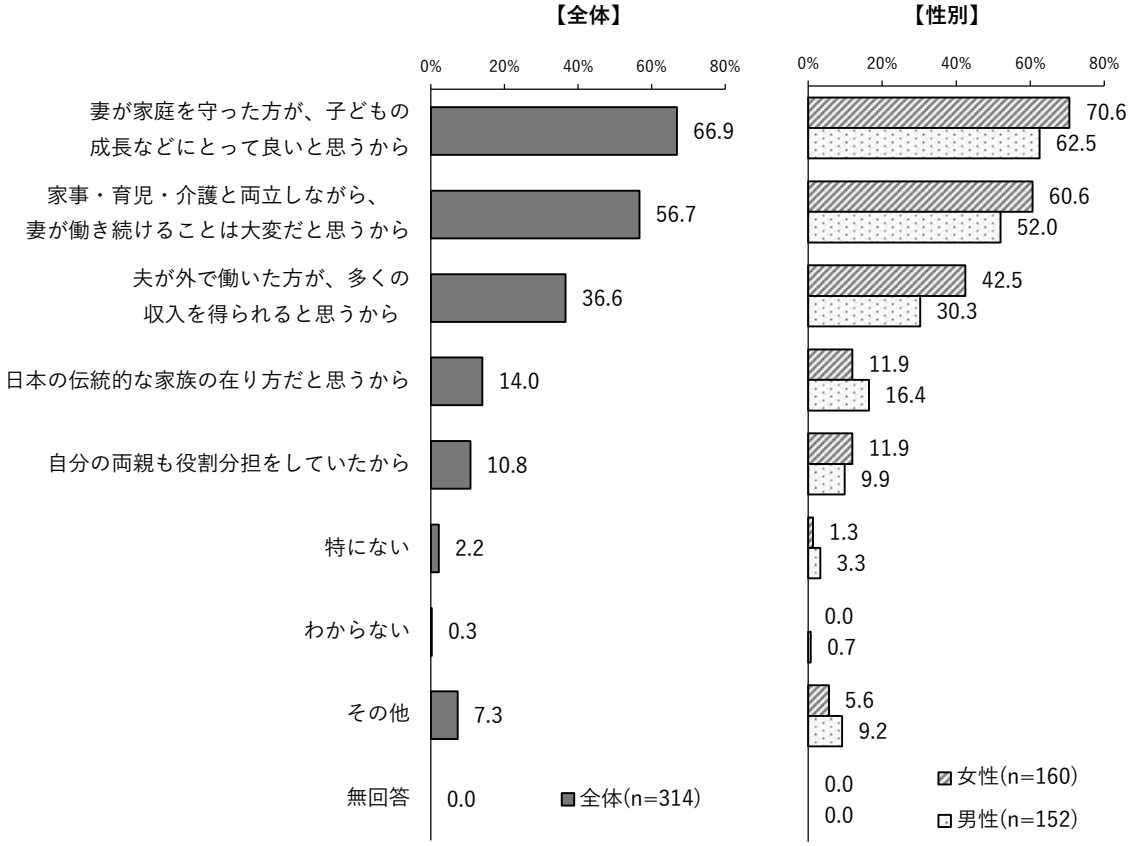
3 性別役割分担意識に関わる考え方に賛成する理由

問７－１．（問７で「1．賛成」、「2．どちらかといえば賛成」とお答えしたかたにお聞きします。）それはなぜですか。（○はいくつでも）

性別役割分担意識に関わる考え方に賛成する理由は、「妻が家庭を守った方が、子どもの成長などにとって良いと思うから」（66.9％）が最も高く、次いで「家事・育児・介護と両立しながら、妻が働き続けることは大変だと思うから」（56.7％）、「夫が外で働いた方が、多くの収入を得られると思うから」（36.6％）の順となっています。

性別では、上記3つの理由は、男性に比べて女性で高くなっています。

図 性別 性別役割分担意識に関わる考え方に賛成する理由



性・年齢別では、男性 80 歳以上で「日本の伝統的な家族の在り方だと思うから」(30.8%)、女性 40 歳代で「妻が家庭を守った方が、子どもの成長などにとって良いと思うから」(85.7%)、女性 50 歳代で「夫が外で働いた方が、多くの収入を得られると思うから」(53.8%)が、他の層に比べてそれぞれ高くなっています。

表 性・年齢別 性別役割分担意識に関わる考え方に賛成する理由

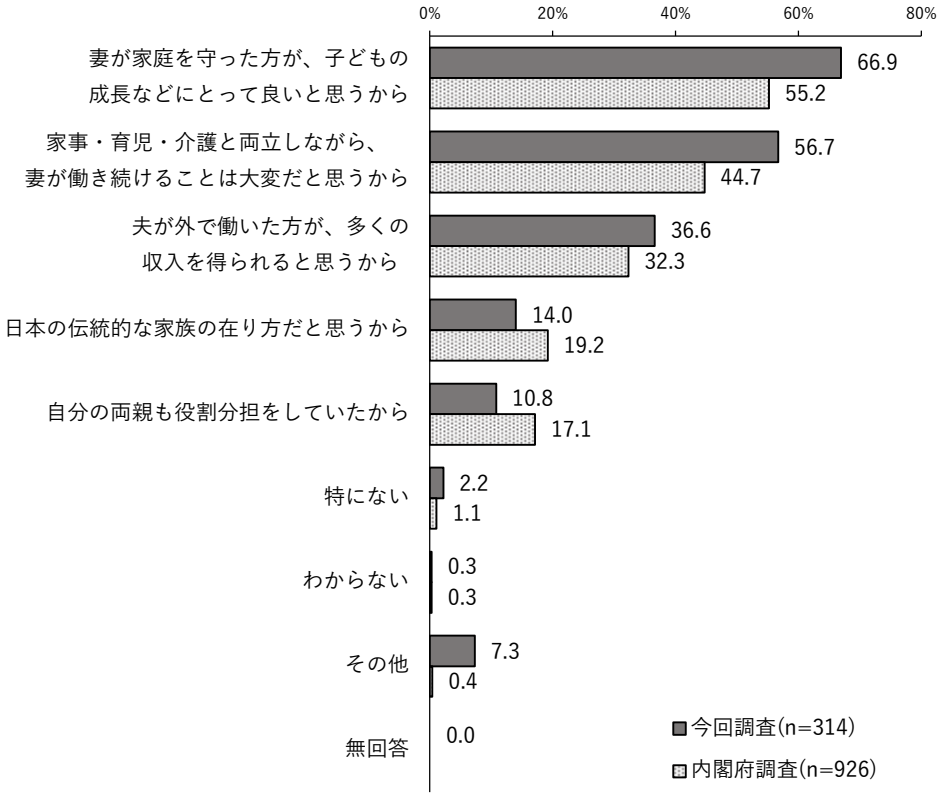
		回答者数（n）	妻が家庭を守った方が、子どもの成長などにとって良いと思うから	家事・育児・介護と両立しながら、妻が働き続けることは大変だと思うから	夫が外で働いた方が、多くの収入を得られると思うから	日本の伝統的な家族の在り方だと思うから	自分の両親も役割分担をしていたから	特にない	わからない	その他	無回答
全体		314	66.9	56.7	36.6	14.0	10.8	2.2	0.3	7.3	-
年齢別	女性 10 歳代・20 歳代	4	50.0	50.0	-	-	50.0	-	-	25.0	-
	女性 30 歳代	15	66.7	73.3	33.3	20.0	6.7	-	-	6.7	-
	女性 40 歳代	21	85.7	47.6	47.6	14.3	14.3	-	-	9.5	-
	女性 50 歳代	26	76.9	65.4	53.8	3.8	7.7	-	-	7.7	-
	女性 60 歳代	23	65.2	52.2	47.8	8.7	17.4	-	-	4.3	-
	女性 70 歳代	43	62.8	69.8	46.5	9.3	9.3	-	-	4.7	-
	女性 80 歳以上	28	75.0	53.6	28.6	21.4	10.7	7.1	-	-	-
	男性 10 歳代・20 歳代	14	21.4	42.9	7.1	7.1	21.4	14.3	-	28.6	-
	男性 30 歳代	5	40.0	80.0	20.0	-	60.0	-	-	-	-
	男性 40 歳代	19	73.7	57.9	21.1	10.5	10.5	5.3	-	21.1	-
	男性 50 歳代	20	50.0	55.0	40.0	15.0	5.0	5.0	-	15.0	-
	男性 60 歳代	26	69.2	50.0	30.8	19.2	3.8	-	-	3.8	-
	男性 70 歳代	42	69.0	45.2	35.7	14.3	7.1	2.4	-	2.4	-
	男性 80 歳以上	26	73.1	57.7	34.6	30.8	7.7	-	3.8	3.8	-

※濃い網掛けは全体より 10 ポイント以上高い項目、薄い網掛けは全体より 5 ポイント以上高い項目
（回答者数が 15 件未満の場合は網掛けなし）

参考／内閣府調査との比較

「家事・育児・介護と両立しながら、妻が働き続けることは大変だと思うから」が、内閣府調査と比べて 12.0 ポイント高く、「妻が家庭を守った方が、子どもの成長などにとって良いと思うから」が 11.7 ポイント高くなっています。

図 性別役割分担意識に関わる考え方に賛成する理由（内閣府調査との比較）



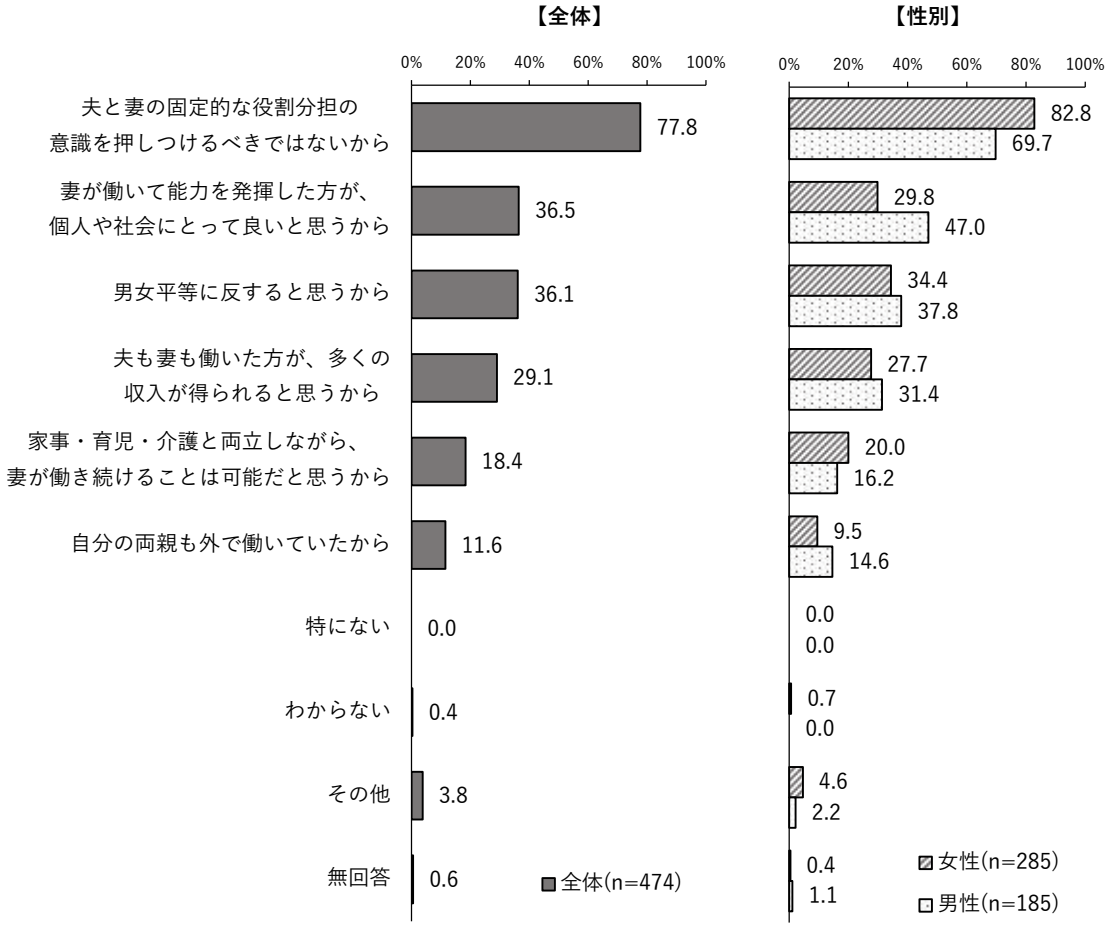
4 性別役割分担意識に関わる考え方に反対する理由

問７－２．（問７で「3．どちらかといえば反対」、「4．反対」とお答えしたかたにお聞きします。）それはなぜですか。（○はいくつでも）

性別役割分担意識に関わる考え方に反対する理由は、「夫と妻の固定的な役割分担の意識を押しつけるべきではないから」（77.8％）が最も高く、次いで「妻が働いて能力を発揮した方が、個人や社会にとって良いと思うから」（36.5％）、「男女平等に反すると思うから」（36.1％）の順となっています。

性別では、「夫と妻の固定的な役割分担の意識を押しつけるべきではないから」は女性の方が 13.1 ポイント、「妻が働いて能力を発揮した方が、個人や社会にとって良いと思うから」は男性の方が 17.2 ポイント高くなっています。

図 性別 性別役割分担意識に関わる考え方に反対する理由



性・年齢別では、男性 40～60 歳代で「妻が働いて能力を発揮した方が、個人や社会にとって良いと思うから」（いずれも 50%以上）、女性 10 歳代・20 歳代で「夫と妻の固定的な役割分担の意識を押しつけるべきではないから」（95.2%）、女性 30 歳代（45.2%）と男性 40 歳代（48.4%）で「夫も妻も働いた方が、多くの収入が得られると思うから」が、他の層に比べてそれぞれ高くなっています。男女共に 10 歳代・20 歳代で「自分の両親も外で働いていたから」が他の層に比べて高くなっています。（女性 42.9%、男性 29.4%）

表 性・年齢別 性別役割分担意識に関わる考え方に反対する理由

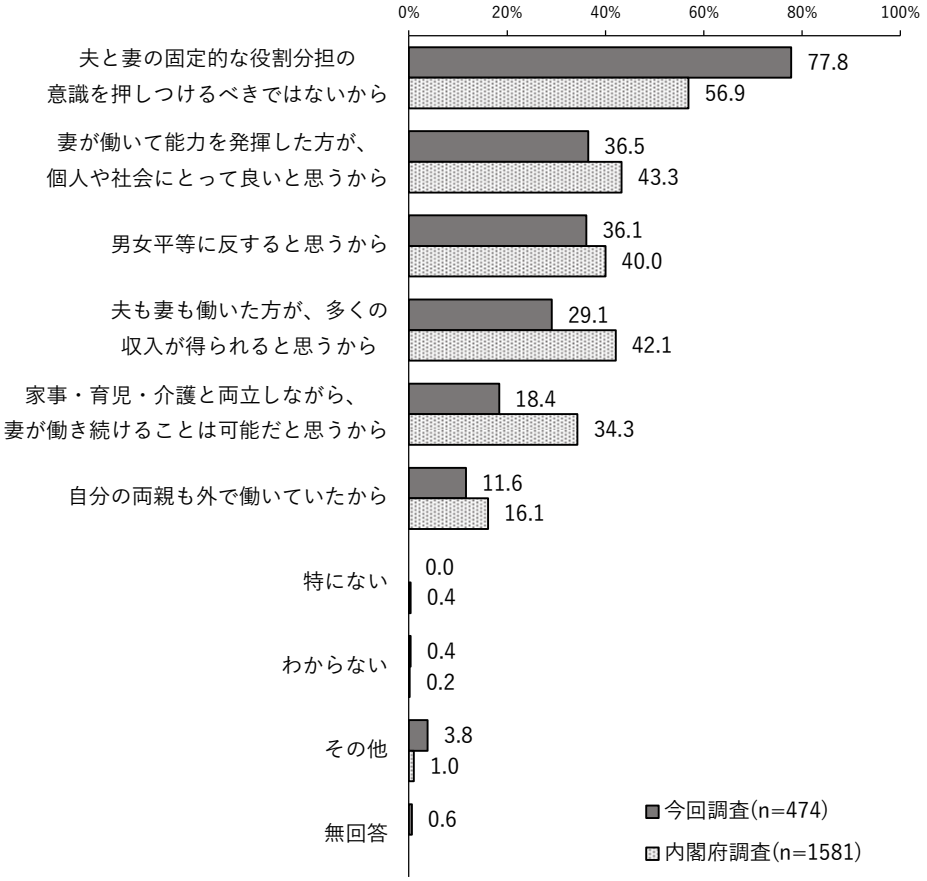
		回答者数（n）	夫と妻の固定的な役割分担の意識を押しつけるべきではないから	妻が働いて能力を発揮した方が、個人や社会にとって良いと思うから	男女平等に反すると思うから	夫も妻も働いた方が、多くの収入が得られると思うから	家事・育児・介護と両立しながら、妻が働き続けることは可能だと思うから	自分の両親も外で働いていたから	特にない	わからない	その他	無回答
全体		474	77.8	36.5	36.1	29.1	18.4	11.6	-	0.4	3.8	0.6
年齢別	女性 10 歳代・20 歳代	21	95.2	19.0	33.3	28.6	14.3	42.9	-	-	4.8	-
	女性 30 歳代	31	74.2	19.4	38.7	45.2	22.6	12.9	-	-	3.2	-
	女性 40 歳代	50	88.0	32.0	22.0	28.0	14.0	6.0	-	2.0	4.0	-
	女性 50 歳代	63	82.5	27.0	31.7	31.7	23.8	7.9	-	-	7.9	-
	女性 60 歳代	49	87.8	36.7	32.7	24.5	30.6	8.2	-	2.0	4.1	-
	女性 70 歳代	47	76.6	31.9	40.4	19.1	14.9	2.1	-	-	4.3	2.1
	女性 80 歳以上	24	75.0	37.5	54.2	16.7	12.5	4.2	-	-	-	-
	男性 10 歳代・20 歳代	17	70.6	35.3	47.1	29.4	17.6	29.4	-	-	5.9	5.9
	男性 30 歳代	20	75.0	40.0	45.0	25.0	10.0	20.0	-	-	-	-
	男性 40 歳代	31	74.2	54.8	38.7	48.4	9.7	9.7	-	-	3.2	-
	男性 50 歳代	34	58.8	50.0	41.2	29.4	14.7	14.7	-	-	-	-
	男性 60 歳代	46	80.4	54.3	34.8	30.4	19.6	13.0	-	-	-	-
	男性 70 歳代	27	59.3	44.4	25.9	22.2	22.2	14.8	-	-	3.7	-
	男性 80 歳以上	10	60.0	20.0	40.0	30.0	20.0	-	-	-	10.0	10.0

※濃い網掛けは全体より 10 ポイント以上高い項目、薄い網掛けは全体より 5 ポイント以上高い項目
（回答者数が 15 件未満の場合は網掛けなし）

参考／内閣府調査との比較

「夫と妻の固定的な役割分担の意識を押しつけるべきではないから」は、内閣府調査と比べて 20.9 ポイント高くなっていますが、それ以外はすべて低く、「家事・育児・介護と両立しながら、妻が働き続けることは可能だと思うから」は 15.9 ポイント、「夫も妻も働いた方が、多くの収入が得られると思うから」は 13.0 ポイント低くなっています。

図　性別役割分担意識に関わる考え方に反対する理由（内閣府調査との比較）

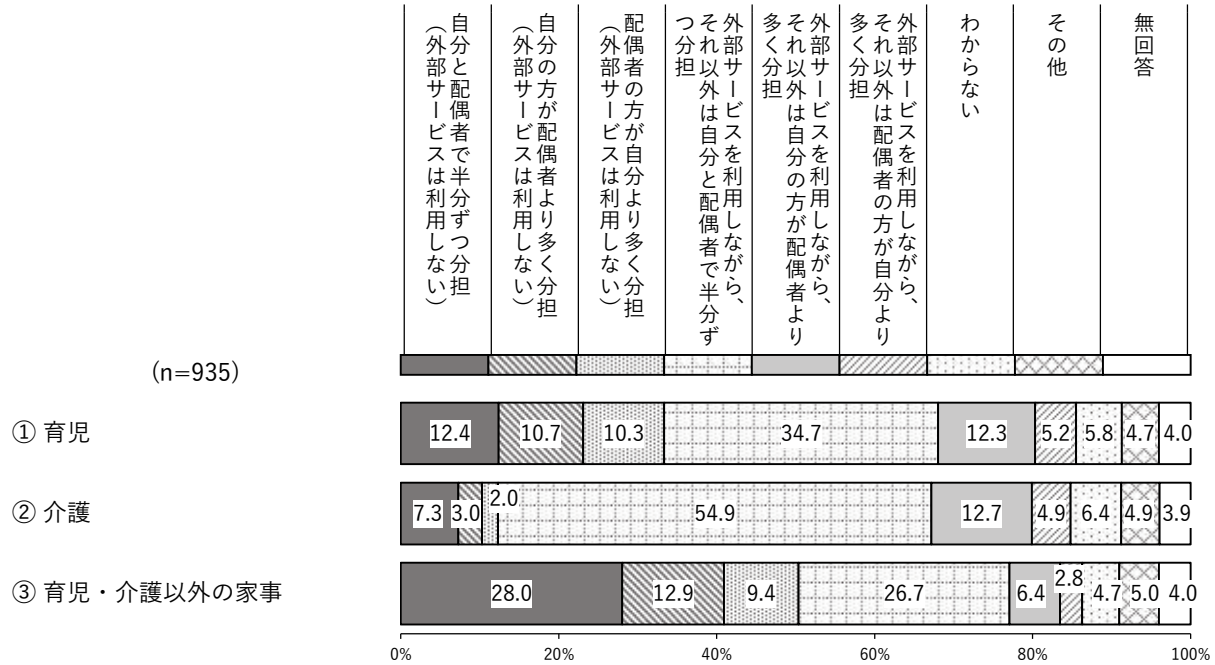


5 家庭における役割分担についての考え方

問８．あなたは育児、介護などの家庭で担われている役割について、あなたと配偶者でどのように分担したいですか。育児、介護などをしている、していないに関わらず、保育所、訪問介護、家事代行など外部サービスの利用を含め、これからするとしたらという想定で、最も近いものをお答えください。（○は１つ）
※配偶者のいないかたは、配偶者がいることを想定してお答えください。

家庭における役割分担についての考え方では、「①育児」と「②介護」で「外部サービスを利用しながら、それ以外は自分と配偶者で半分ずつ分担」が最も高く（育児 34.7%、介護 54.9%）、「③育児・介護以外の家事」で「自分と配偶者で半分ずつ分担（外部サービスは利用しない）」（28.0%）が最も高くなっています。

図 家庭における役割分担についての考え方



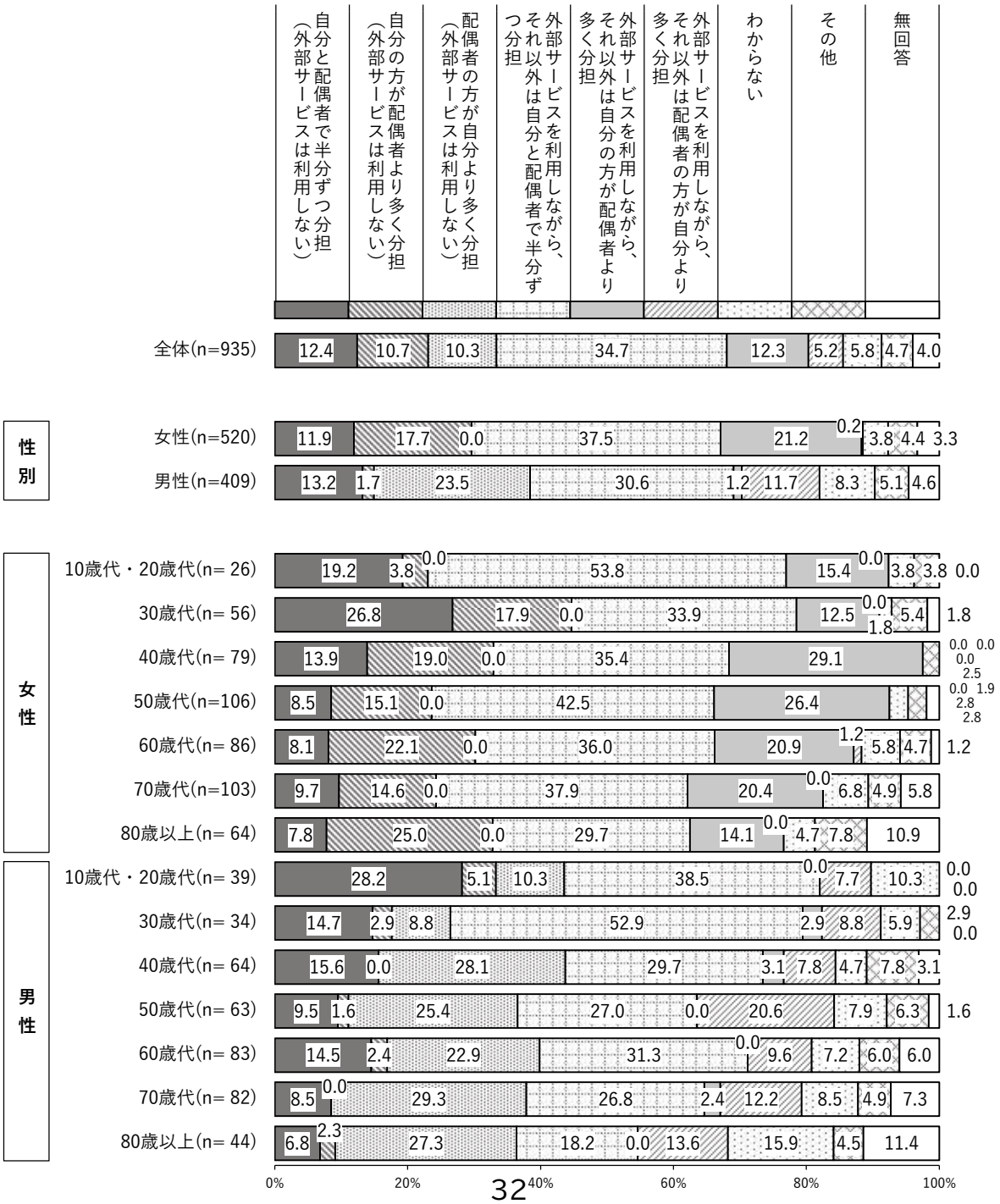
① 育児

「外部サービスを利用しながら、それ以外は自分と配偶者で半分ずつ分担」(34.7%)が最も高く、次いで「自分と配偶者で半分ずつ分担(外部サービスは利用しない)」(12.4%)、「外部サービスを利用しながら、それ以外は自分の方が配偶者より多く分担」(12.3%)の順となっています。

性別では、女性で「外部サービスを利用しながら、それ以外は自分の方が配偶者より多く分担」(女性 21.2%、男性 1.2%)、男性で「配偶者の方が自分より多く分担(外部サービスは利用しない)」(女性 0%、男性 23.5%)が高くなっています。

性・年齢別では、女性 30 歳代と男性 10 歳代・20 歳代で「自分と配偶者で半分ずつ分担(外部サービスは利用しない)」、女性 10 歳代・20 歳代と男性 30 歳代で「外部サービスを利用しながら、それ以外は自分と配偶者で半分ずつ分担」が、他の層に比べて高くなっています。

図 性別、性・年齢別 家庭における役割分担についての考え方 － ① 育児



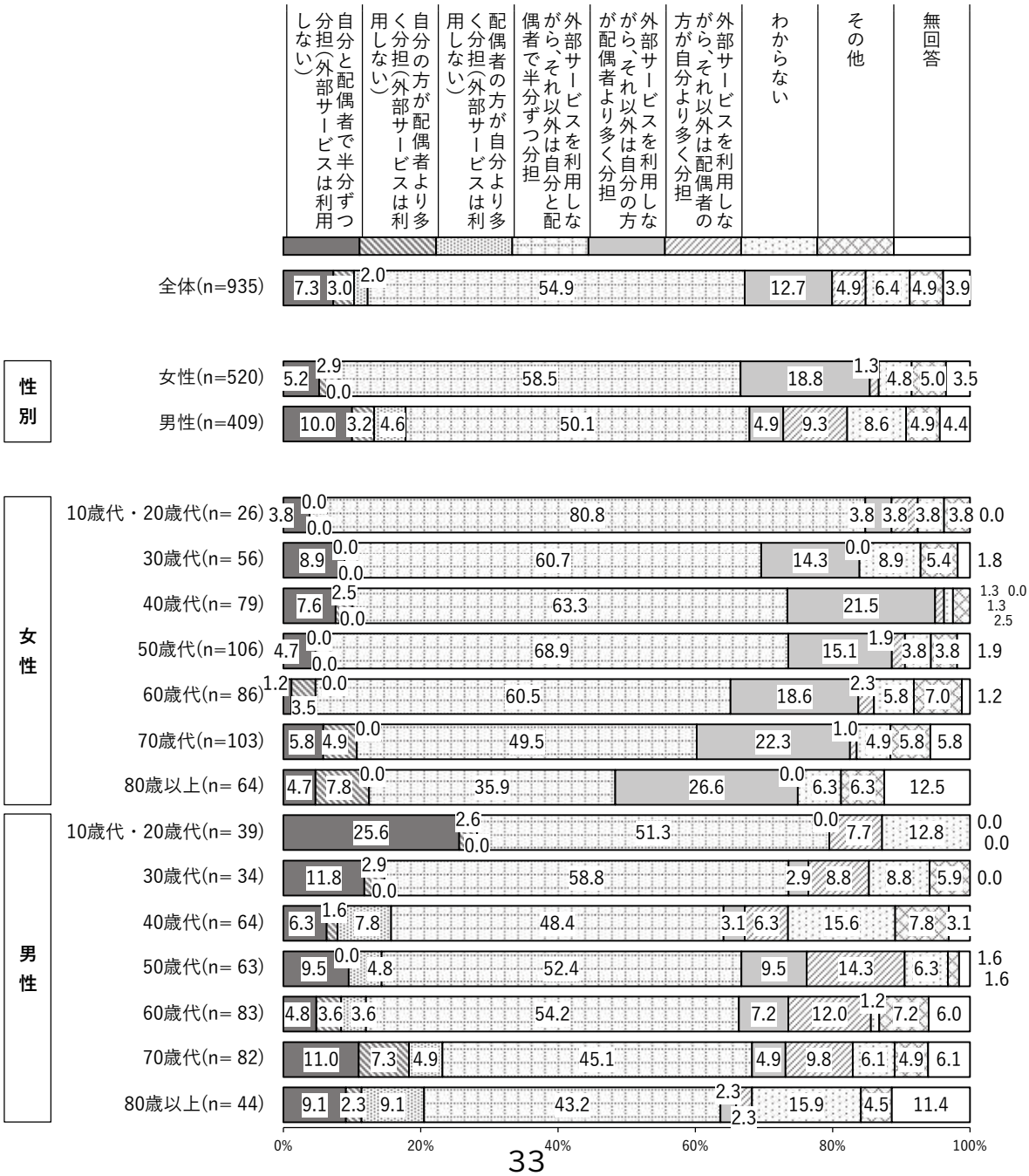
② 介護

「外部サービスを利用しながら、それ以外は自分と配偶者で半分ずつ分担」(54.9%)が最も高く、次いで「外部サービスを利用しながら、それ以外は自分の方が配偶者より多く分担」(12.7%)、「自分と配偶者で半分ずつ分担(外部サービスは利用しない)」(7.3%)の順となっています。

性別では、男女とも「外部サービスを利用しながら、それ以外は自分と配偶者で半分ずつ分担」が過半数を占め、「外部サービスを利用しながら、それ以外は自分の方が配偶者より多く分担」では男性(4.9%)よりも女性(18.8%)が高く、逆に「外部サービスを利用しながら、それ以外は配偶者の方が自分より多く分担」では女性(1.3%)よりも男性(9.3%)が高くなっています。

性・年齢別では、女性 10 歳代・20 歳代で「外部サービスを利用しながら、それ以外は自分と配偶者で半分ずつ分担」、男性 10 歳代・20 歳代で「自分と配偶者で半分ずつ分担(外部サービスは利用しない)」が、他の層に比べて高くなっています。

図 性別、性・年齢別 家庭における役割分担についての考え方 － ② 介護



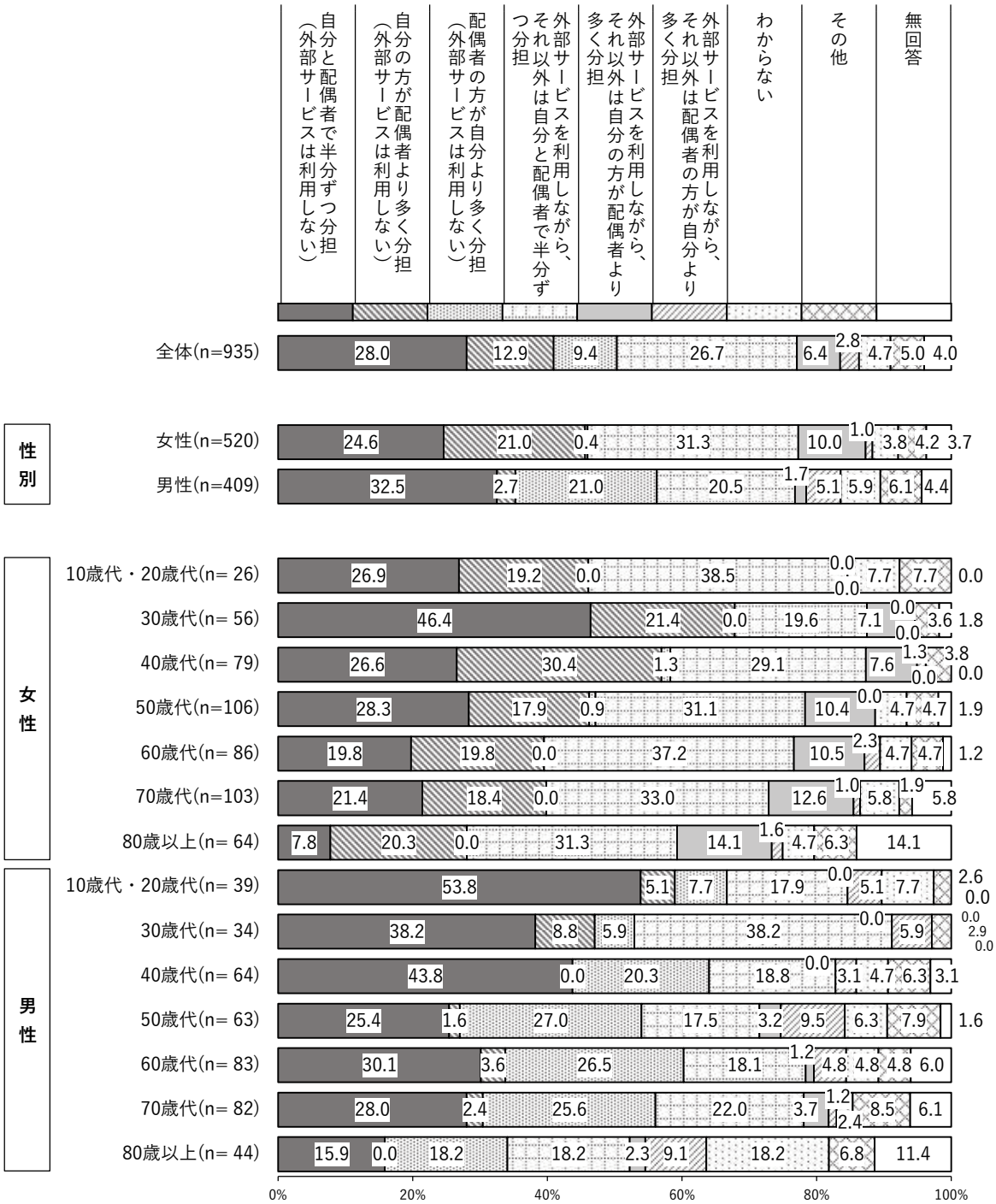
③ 育児・介護以外の家事

「自分と配偶者で半分ずつ分担（外部サービスは利用しない）」（28.0%）が最も高く、次いで「外部サービスを利用しながら、それ以外は自分と配偶者で半分ずつ分担」（26.7%）、「自分の方が配偶者より多く分担（外部サービスは利用しない）」（12.9%）の順となっています。

性別では、女性で「自分の方が配偶者より多く分担（外部サービスは利用しない）」（女性 31.3%、男性 20.5%）、男性で「配偶者の方が自分より多く分担（外部サービスは利用しない）」（女性 0.4%、男性 21.0%）が高くなっています。

性・年齢別では、女性 30 歳代と男性 10 歳代・20 歳代で「自分と配偶者で半分ずつ分担（外部サービスは利用しない）」、女性 40 歳代で「自分の方が配偶者より多く分担（外部サービスは利用しない）」が、他の層に比べて高くなっています。

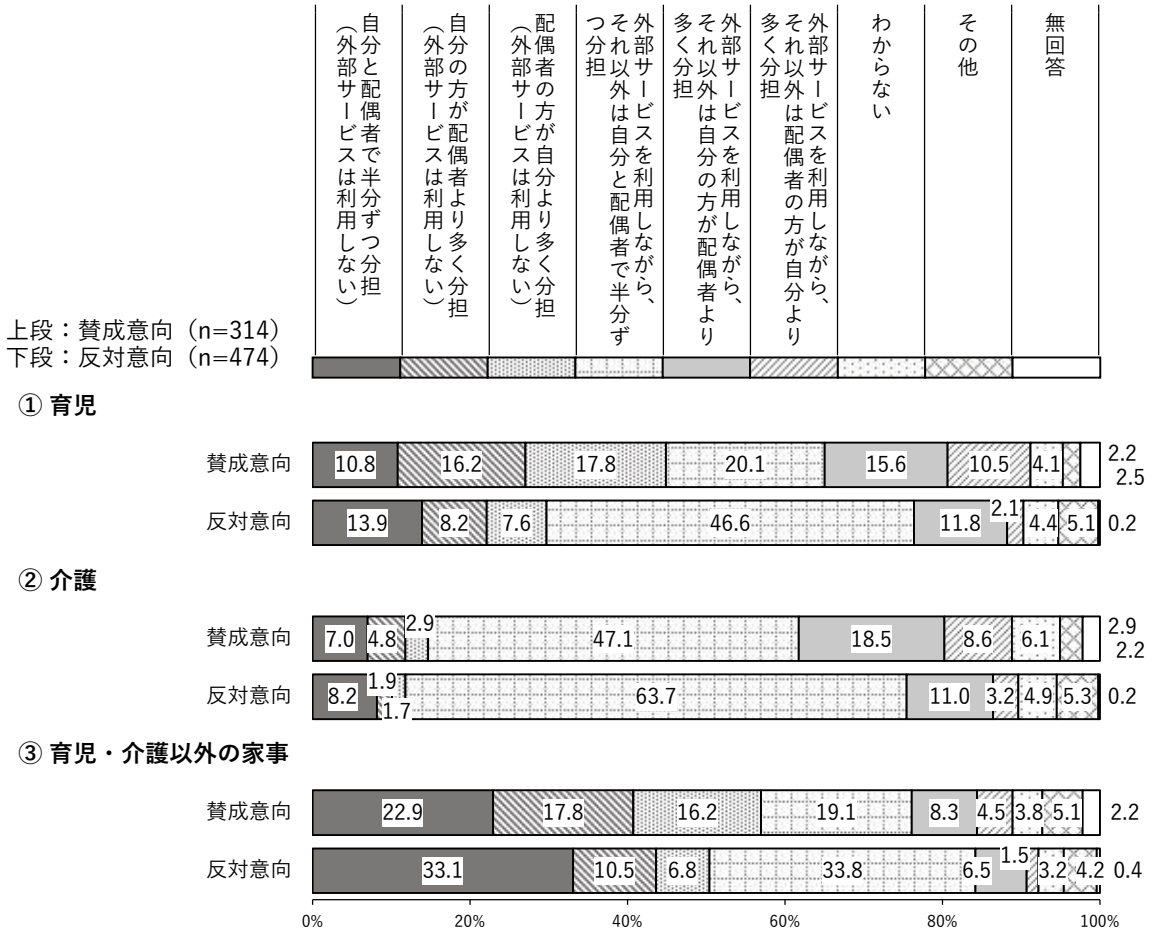
図 性別、性・年齢別 家庭における役割分担についての考え方 － ③ 育児・介護以外の家事



性別役割分担意識に関わる考え方別

性別役割分担意識に関わる考え方別では、いずれの分野でも「反対意向」の人は「外部サービスを利用しながら、それ以外は自分と配偶者で半分ずつ分担」の割合が「賛成意向」の人より高くなっています。

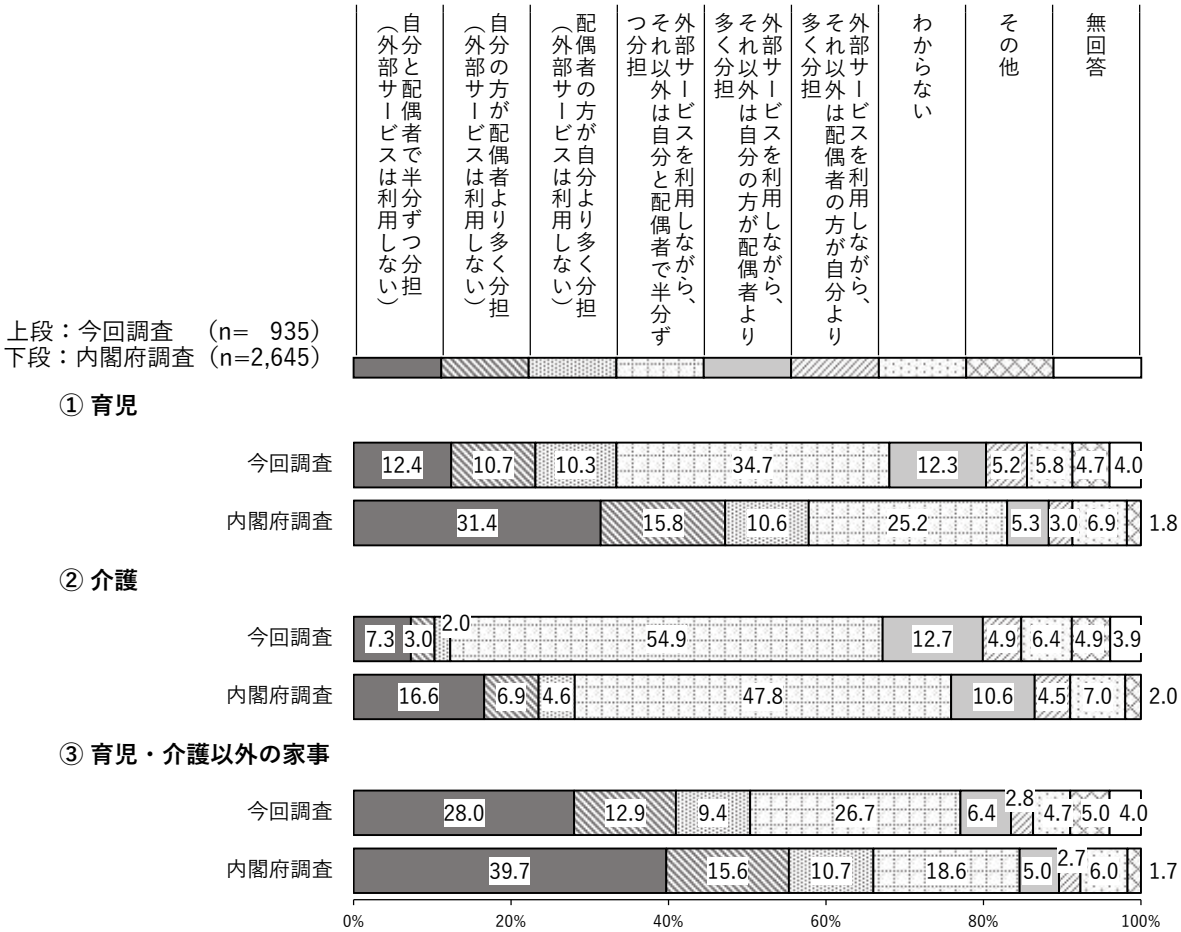
図 性別役割分担意識に関わる考え方別 家庭における役割分担についての考え方



参考／内閣府調査との比較

すべての分野において「外部サービスを利用しながら、それ以外は自分と配偶者で半分ずつ分担」が内閣府調査よりも高く、「自分と配偶者で半分ずつ分担（外部サービスは利用しない）」が低くなっています。

図　家庭における役割分担についての考え方（内閣府調査との比較）



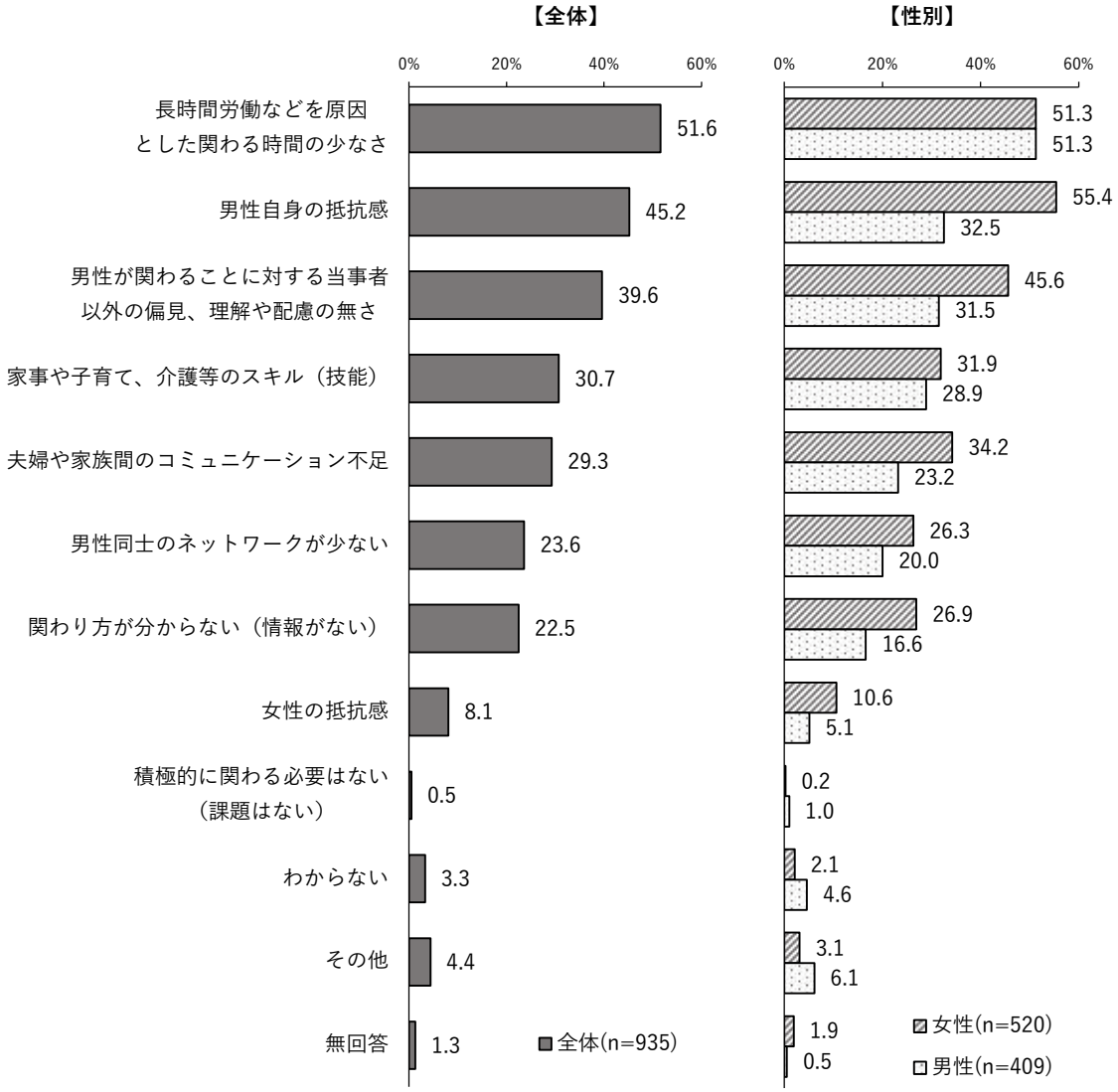
6 男性が積極的に家事や子育て等を行うための課題

問９．男性が積極的に家事・子育て・介護・地域活動などへ関わるための課題は何だと思いますか？（○はいくつでも）

男性が積極的に家事や子育て等を行うための課題は、「長時間労働などを原因とした関わる時間の少なさ」（51.6%）が最も高く、次いで「男性自身の抵抗感」（45.2%）、「男性が関わることに対する当事者以外の偏見、理解や配慮の無さ」（39.6%）の順となっています。

性別では、「長時間労働などを原因とした関わる時間の少なさ」（男女ともに 51.3%）を除くすべての項目で女性の方が高くなっており、特に「男性自身の抵抗感」が大幅に高くなっています。（女性 55.4%、男性 32.5%）

図 性別 男性が積極的に家事や子育て等を行うための課題



性・年齢別では、女性 10～60 歳代で「男性自身の抵抗感」（約6割）、女性 10～50 歳代で「男性が関わることに対する当事者以外の偏見、理解や配慮の無さ」（5割以上）、女性 10～30 歳代で「夫婦や家族間のコミュニケーション不足」（約5割）が、他の層に比べてそれぞれ高くなっています。男性 30 歳代・40 歳代では「長時間労働などを原因とした関わる時間の少なさ」が他の層に比べて高くなっています。

性・配偶者の有無別では、男女とも目立った差はみられません。

表 性・年齢別、性・配偶者の有無別 男性が積極的に家事や子育て等を行うための課題

			回答者数（n）	長時間労働などを原因とした関わる時間の少なさ	男性自身の抵抗感	男性が関わることに対する当事者以外の偏見、理解や配慮の無さ	家事や子育て、介護等のスキル（技能）	夫婦や家族間のコミュニケーション不足	男性同士のネットワークが少ない	関わり方が分からない（情報がない）	女性の抵抗感	積極的に関わる必要はない（課題はない）	わからない	その他	無回答
全体			935	51.6	45.2	39.6	30.7	29.3	23.6	22.5	8.1	0.5	3.3	4.4	1.3
年齢別	女性	10 歳代・20 歳代	26	57.7	61.5	69.2	30.8	53.8	26.9	26.9	3.8	-	3.8	-	-
		30 歳代	56	53.6	66.1	60.7	26.8	48.2	19.6	17.9	8.9	-	-	5.4	-
		40 歳代	79	65.8	60.8	51.9	36.7	29.1	27.8	29.1	15.2	-	-	3.8	-
		50 歳代	106	53.8	62.3	51.9	33.0	36.8	27.4	21.7	15.1	0.9	0.9	5.7	-
		60 歳代	86	51.2	59.3	44.2	33.7	31.4	29.1	26.7	12.8	-	4.7	1.2	-
		70 歳代	103	44.7	51.5	35.0	31.1	29.1	22.3	36.9	6.8	-	1.9	-	2.9
		80 歳以上	64	35.9	26.6	23.4	28.1	28.1	31.3	25.0	4.7	-	4.7	4.7	10.9
	男性	10 歳代・20 歳代	39	59.0	23.1	35.9	25.6	30.8	12.8	23.1	2.6	-	2.6	5.1	-
		30 歳代	34	61.8	20.6	47.1	20.6	23.5	14.7	17.6	-	2.9	2.9	8.8	-
		40 歳代	64	64.1	29.7	34.4	26.6	20.3	26.6	17.2	12.5	-	1.6	7.8	-
		50 歳代	63	58.7	36.5	28.6	30.2	17.5	20.6	12.7	1.6	1.6	1.6	9.5	-
		60 歳代	83	54.2	39.8	34.9	34.9	28.9	19.3	19.3	9.6	-	2.4	4.8	-
		70 歳代	82	47.6	39.0	25.6	31.7	24.4	20.7	14.6	3.7	1.2	6.1	1.2	-
		80 歳以上	44	9.1	22.7	20.5	22.7	15.9	20.5	13.6	-	2.3	18.2	9.1	4.5
配偶者の有無別	女性	配偶者あり	348	53.2	56.3	44.5	32.5	34.8	26.1	25.6	10.6	0.3	1.1	3.4	1.1
		配偶者なし	168	48.2	54.2	47.0	31.5	33.9	27.4	30.4	10.7	-	3.6	2.4	3.6
	男性	配偶者あり	330	51.2	32.7	31.2	29.7	22.1	21.8	15.5	5.5	0.9	4.2	7.0	0.6
		配偶者なし	79	51.9	31.6	32.9	25.3	27.8	12.7	21.5	3.8	1.3	6.3	2.5	-

※濃い網掛けは全体より 10 ポイント以上高い項目、薄い網掛けは全体より 5 ポイント以上高い項目

7 女性が職業をもつことについて

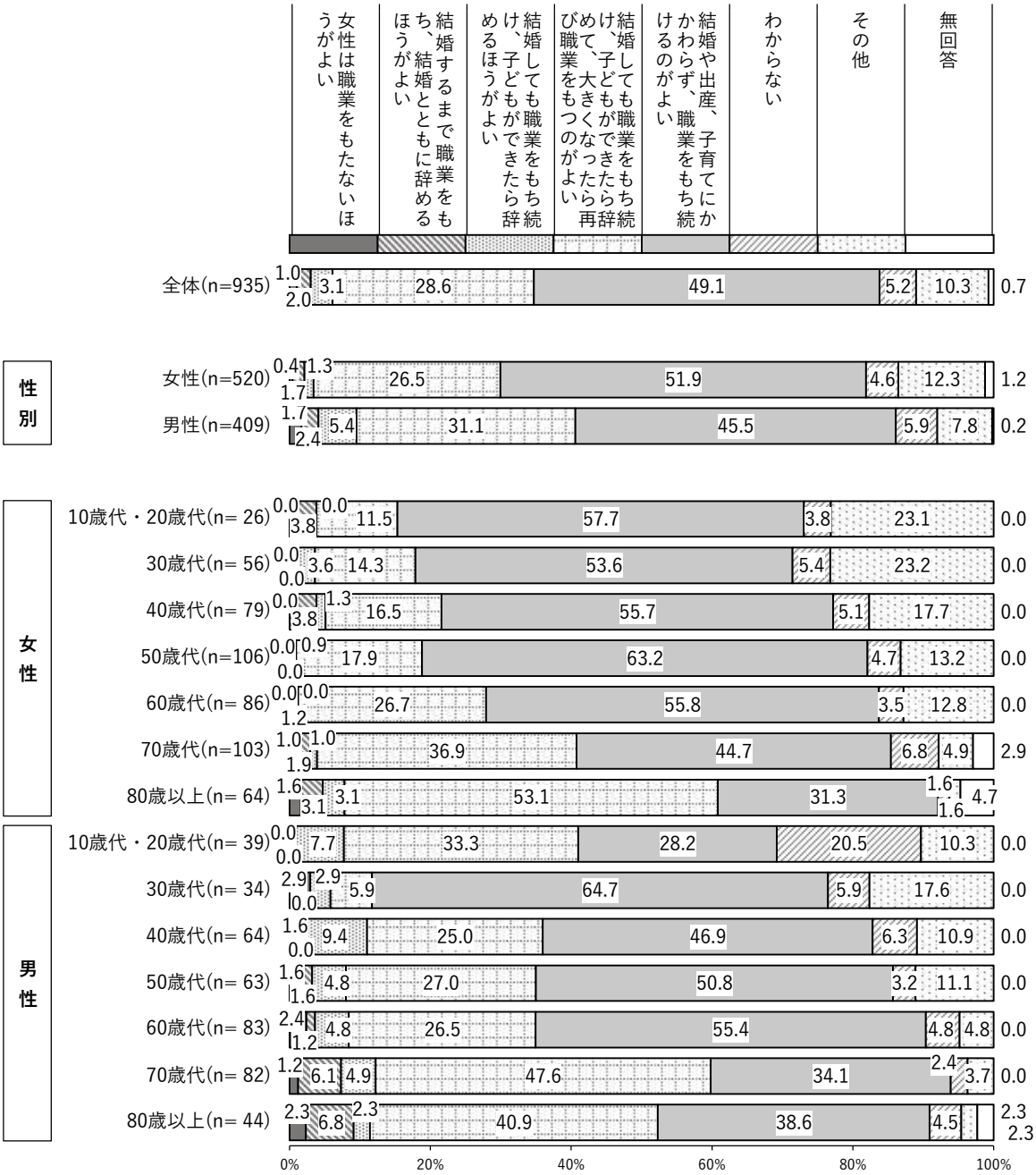
問 10. 女性が職業をもつことについて、あなたはどのようにお考えですか（○は１つ）

女性が職業をもつことについては、「結婚や出産、子育てにかかわらず、職業をもち続けるのがよい」（49.1%）が最も高く、次いで「結婚しても職業をもち続け、子どもができたら辞めて、大きくなったら再び職業をもつのがよい」（28.6%）の順となっています。

性別では、男性に比べて女性で「結婚や出産、子育てにかかわらず、職業をもち続けるのがよい」が 6.4 ポイント高くなっています。（女性 51.9%、男性 45.5%）

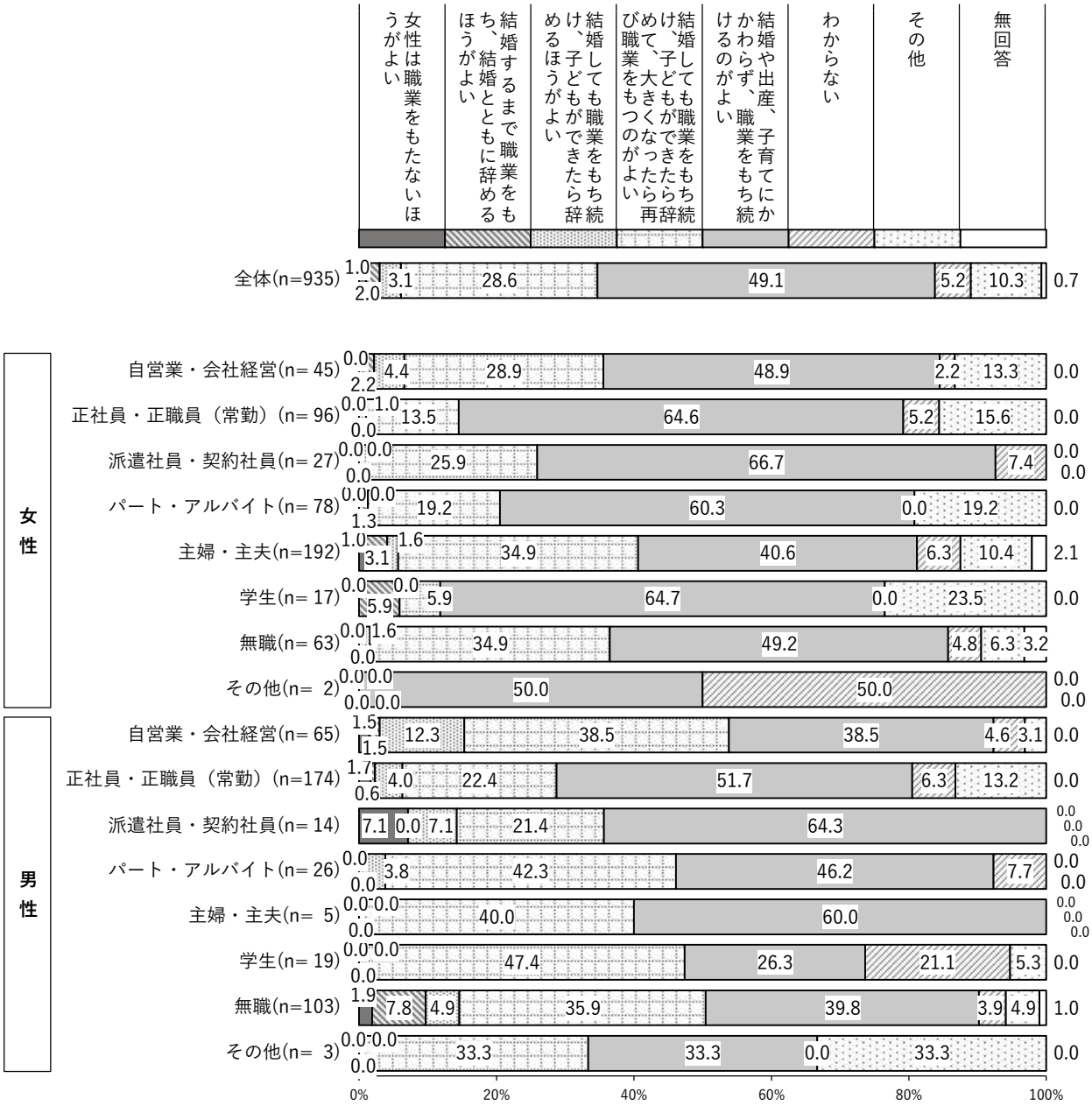
性・年齢別では、男女とも 70 歳代以上で「結婚しても職業をもち続け、子どもができたら辞めて、大きくなったら再び職業をもつのがよい」が他の層に比べてそれぞれ高くなっています。

図 性別、性・年齢別 女性が職業をもつことについて



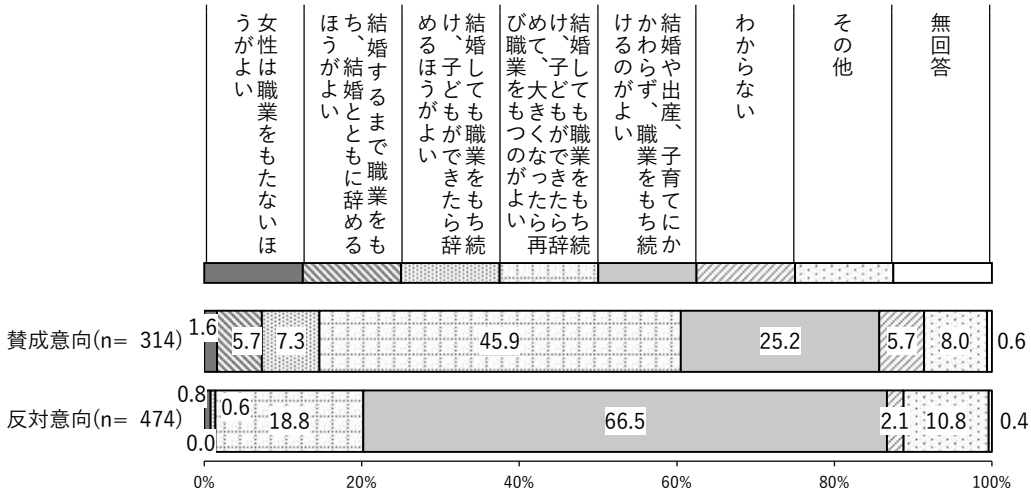
性・職業別では、女性は「その他」以外の職種で「結婚や出産、子育てにかかわらず、職業をもち続けるのがよい」が最も高い割合となっています。男性は「結婚しても職業をもち続け、子どもができたら辞めて、大きくなったら再び職業をもつのがよい」と「結婚や出産、子育てにかかわらず、職業をもち続けるのがよい」の割合が自営業・会社経営、パート・アルバイト、無職、その他で拮抗していますが、正社員・正職員（常勤）、派遣社員・契約社員、主婦・主夫では「結婚や出産、子育てにかかわらず、職業をもち続けるのがよい」の方が高い割合となっています。

図 性・職業別 女性が職業をもつことについて



性別役割分担意識に関わる考え方別では、「賛成意向」の人は「結婚しても職業をもち続け、子どもができたら辞めて、大きくなったら再び職業をもつのがよい」、「反対意向」の人は「結婚や出産、子育てにかかわらず、職業をもち続けるのがよい」の割合が最も高くなっています。

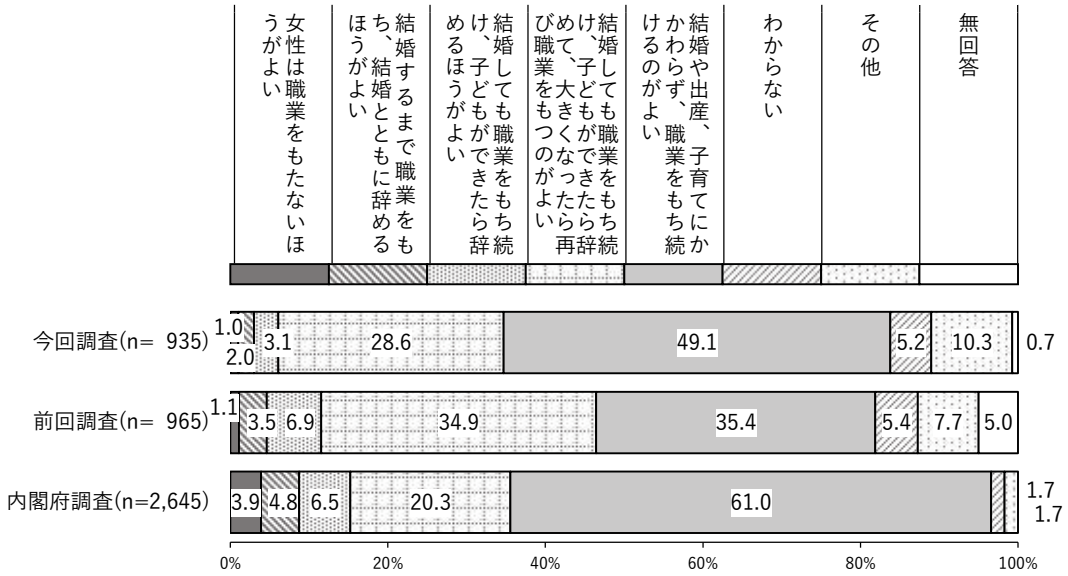
図 性別役割分担意識に関わる考え方別 女性が職業をもつことについて



参考／前回調査、内閣府調査との比較

「結婚や出産、子育てにかかわらず、職業をもち続けるのがよい」が、前回調査と比べて 13.7 ポイント高くなっていますが、内閣府調査と比べると 11.9 ポイント低くなっています。また、「結婚しても職業をもち続け、子どもができたら辞めて、大きくなったら再び職業をもつのがよい」は、前回調査と比べて 6.3 ポイント低くなっていますが、内閣府調査と比べると 8.3 ポイント高くなっています。

図 女性が職業をもつことについて（前回調査、内閣府調査との比較） ※1



※1　内閣府調査の選択肢は「女性は職業をもたない方がよい」「結婚するまでは職業をもつ方がよい」「子供ができるまでは、職業をもつ方がよい」「子供ができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」「子供ができても、ずっと職業を続ける方がよい」「わからない」「その他」

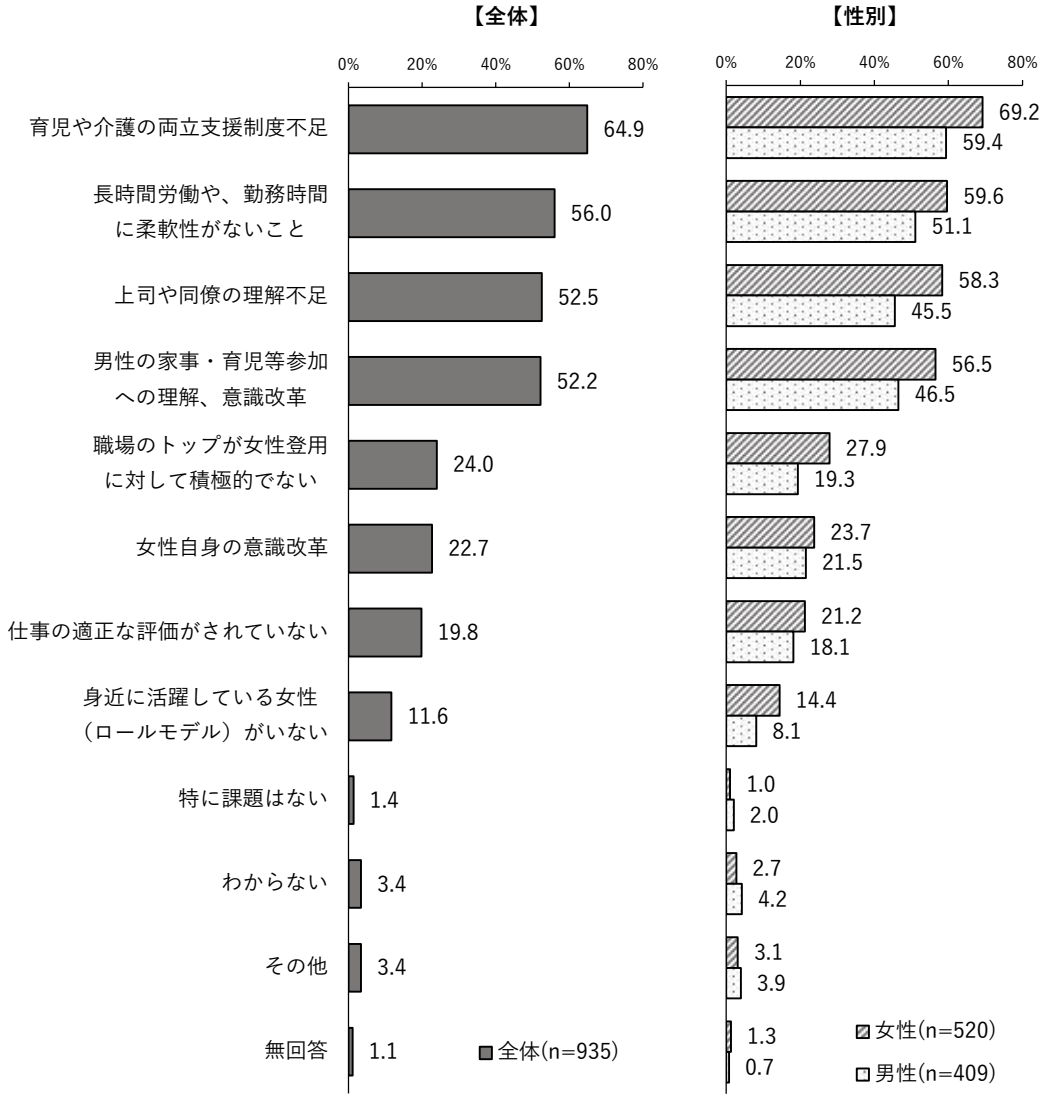
8 女性が離職をしないで職場で活躍するための課題

問 11. 女性が出産や介護などによる離職をしないで職場で活躍するための課題は何だと思いますか？（○はいくつでも）

女性が出産や介護などによる離職をしないで職場で活躍するための課題では、「育児や介護の両立支援制度不足」（64.9%）が最も高く、次いで「長時間労働や、勤務時間に柔軟性がないこと」（56.0%）、「上司や同僚の理解不足」と「男性の家事・育児等参加への理解、意識改革」（各 52.2%）の順となっています。

性別では、すべての項目で女性の方が高い割合となっており、「上司や同僚の理解不足」は男性より 12.8 ポイント高くなっています。（女性 58.3%、男性 45.5%）

図 性別 女性が離職をしないで職場で活躍するための課題



性・年齢別では、女性 10 歳代・20 歳代で「育児や介護の両立支援制度不足」(84.6%)、女性 30 歳代で「上司や同僚の理解不足」(71.4%)が他の層に比べてそれぞれ高くなっています。

性・職業別では、女性の学生で「育児や介護の両立支援制度不足」(88.2%)、女性の自営業・会社経営で「職場のトップが女性登用に対して積極的ではない」(42.2%)、女性の正社員・正職員で「身近に活躍している女性(ロールモデル)がいない」(27.1%)が、他の層に比べて高くなっています。

表 性・年齢別、性・職業別 女性が離職をしないで職場で活躍するための課題

			回答者数(n)	育児や介護の両立支援制度不足	長時間労働や、勤務時間に柔軟性がないこと	上司や同僚の理解不足	男性の家事・育児等参加への理解、意識改革	職場のトップが女性登用に対して積極的でない	女性自身の意識改革	仕事の適正な評価がされていない	身近に活躍している女性(ロールモデル)がいない	特に課題はない	わからない	その他	無回答
全体			935	64.9	56.0	52.5	52.2	24.0	22.7	19.8	11.6	1.4	3.4	3.4	1.1
年齢別	女性	10 歳代・20 歳代	26	84.6	50.0	57.7	53.8	38.5	11.5	19.2	19.2	-	-	3.8	-
		30 歳代	56	69.6	64.3	71.4	62.5	23.2	12.5	16.1	19.6	1.8	1.8	5.4	-
		40 歳代	79	78.5	70.9	60.8	63.3	24.1	32.9	21.5	25.3	-	2.5	6.3	-
		50 歳代	106	70.8	68.9	64.2	55.7	34.9	19.8	21.7	16.0	-	0.9	3.8	-
		60 歳代	86	66.3	61.6	61.6	51.2	25.6	25.6	23.3	16.3	3.5	2.3	2.3	-
		70 歳代	103	66.0	49.5	51.5	60.2	25.2	24.3	23.3	2.9	-	3.9	-	3.9
		80 歳以上	64	57.8	43.8	40.6	46.9	28.1	29.7	18.8	7.8	1.6	6.3	1.6	4.7
	男性	10 歳代・20 歳代	39	61.5	48.7	53.8	51.3	17.9	10.3	10.3	10.3	-	12.8	5.1	-
		30 歳代	34	67.6	64.7	32.4	61.8	26.5	26.5	23.5	14.7	2.9	-	5.9	-
		40 歳代	64	56.3	59.4	45.3	39.1	18.8	17.2	14.1	12.5	6.3	3.1	6.3	-
		50 歳代	63	65.1	54.0	42.9	47.6	15.9	20.6	19.0	7.9	-	-	6.3	-
		60 歳代	83	62.7	54.2	54.2	48.2	24.1	27.7	25.3	8.4	1.2	2.4	2.4	-
		70 歳代	82	58.5	56.1	48.8	43.9	15.9	20.7	19.5	3.7	1.2	4.9	2.4	1.2
		80 歳以上	44	43.2	11.4	29.5	40.9	18.2	25.0	9.1	2.3	2.3	9.1	-	4.5
職業別	女性	自営業・会社経営	45	66.7	48.9	53.3	57.8	42.2	33.3	15.6	8.9	4.4	-	6.7	2.2
		正社員・正職員	96	68.8	68.8	59.4	63.5	32.3	25.0	26.0	27.1	1.0	-	4.2	-
		派遣社員・契約社員	27	70.4	77.8	70.4	63.0	29.6	22.2	22.2	18.5	-	3.7	-	-
		パート・アルバイト	78	66.7	60.3	65.4	52.6	26.9	28.2	20.5	17.9	-	5.1	3.8	-
		主婦・主夫	192	71.4	57.8	57.3	53.1	20.3	18.8	22.4	8.3	1.0	3.1	1.6	2.6
		学生	17	88.2	47.1	58.8	41.2	35.3	11.8	11.8	11.8	-	-	5.9	-
		無職	63	61.9	52.4	49.2	60.3	31.7	27.0	15.9	12.7	-	4.8	3.2	1.6
		その他	2	100.0	100.0	50.0	100.0	50.0	50.0	50.0	-	-	-	-	-
	男性	自営業・会社経営	65	52.3	44.6	49.2	43.1	21.5	23.1	15.4	3.1	1.5	4.6	4.6	-
		正社員・正職員	174	60.3	56.3	42.5	43.7	19.5	21.8	17.8	12.1	2.3	2.3	5.7	-
		派遣社員・契約社員	14	78.6	64.3	57.1	64.3	28.6	7.1	35.7	-	-	-	-	-
		パート・アルバイト	26	46.2	38.5	53.8	57.7	19.2	26.9	30.8	7.7	3.8	3.8	3.8	-
		主婦・主夫	5	100.0	40.0	60.0	60.0	40.0	60.0	20.0	-	-	-	-	-
		学生	19	63.2	52.6	57.9	63.2	15.8	10.5	10.5	5.3	-	15.8	5.3	-
		無職	103	60.2	47.6	41.7	44.7	16.5	19.4	15.5	6.8	1.9	5.8	1.0	2.9
		その他	3	66.7	66.7	33.3	33.3	-	66.7	33.3	-	-	-	-	-

※濃い網掛けは全体より 10 ポイント以上高い項目、薄い網掛けは全体より 5 ポイント以上高い項目
(回答者数が 15 件未満の場合は網掛けなし)

【2】夫婦間や交際相手からの暴力（DV）について

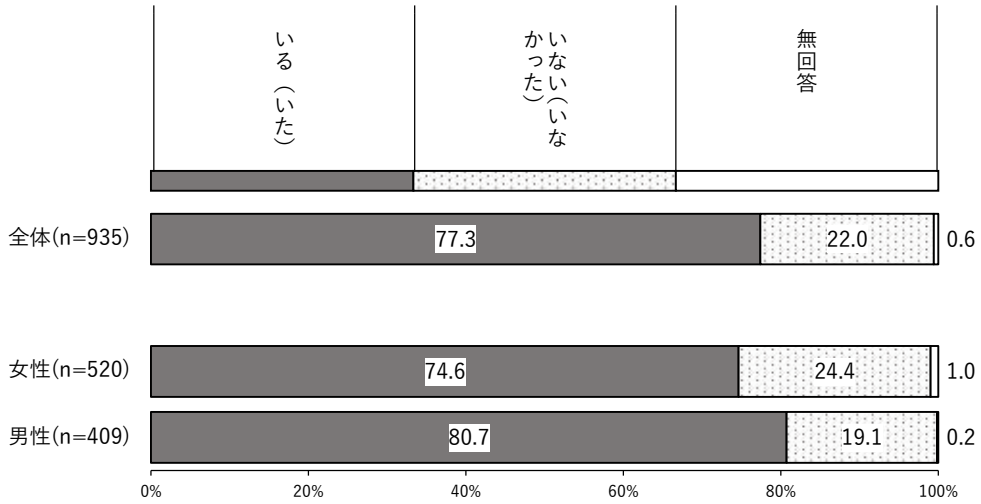
1　配偶者・パートナーの有無

問 12．あなたは過去５年間に、配偶者やパートナーがいましたか？（○は１つ）
※配偶者には婚姻届を出していない事実婚や同性婚、別居中の夫婦、元配偶者（離別・死別した相手、事実婚・同性婚を解消した相手）も含みます。

配偶者・パートナーの有無は、「いる（いた）」が 77.3%、「いない（いなかった）」が 22.0%となっています。

性別では、男性は女性と比べて「いる（いた）」がやや高くなっています。

図　配偶者・パートナーの有無



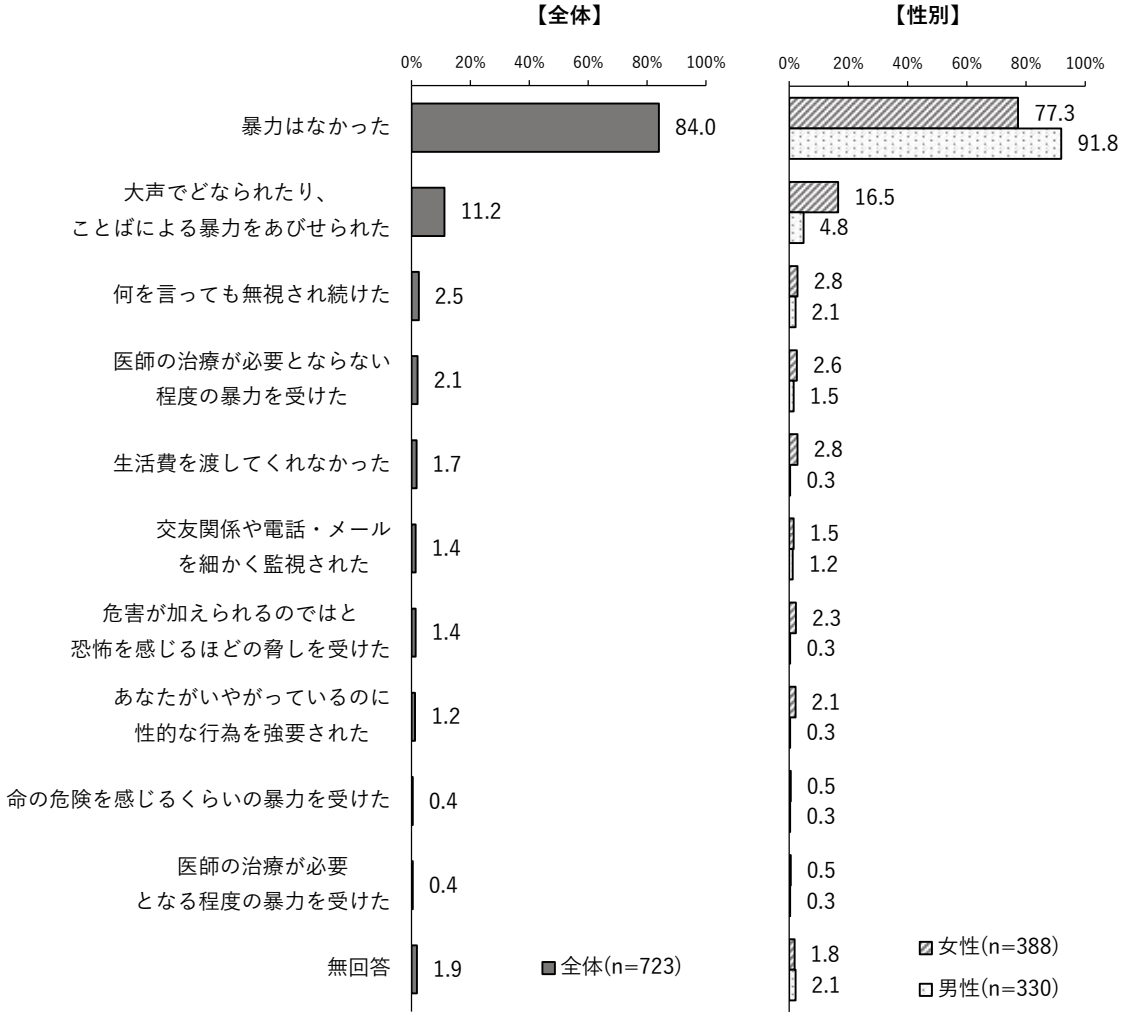
2 DVの経験

問 13. （問 12 で「1. いる（いた）」とお答えしたかたにお聞きします。）
あなたは過去５年間に、配偶者やパートナーから暴力を受けたことがありますか。
１度でも受けたことがある暴力を選択してください。（○はいくつでも）

DVの経験では、「暴力はなかった」が 84.0%で、暴力があった場合の内訳は「大声でどなられたり、ことばによる暴力をあびせられた」が 11.2%で最も高く、次いで「何を言っても無視され続けた」（2.5%）、「医師の治療が必要とならない程度の暴力を受けた」（2.1%）の順となっています。

性別では、男性に比べて女性で「大声でどなられたり、ことばによる暴力をあびせられた」が 11.7 ポイント高くなっています。（女性 16.5%、男性 4.8%） 一方、「暴力はなかった」は、男性が女性より 14.5 ポイント高くなっています。（女性 77.3%、男性 91.8%）

図 性別 DVの経験



性・年齢別では、女性 80 歳以上で「大声でどなられたり、ことばによる暴力をあびせられた」が、他の層に比べて高くなっています。（25.7%）

表 性・年齢別 DVの経験

			回答者数（n）	暴力はなかった	大声でどなられたり、ことばによる暴力をあびせられた	何を言っても無視され続けた	医師の治療が必要とならない程度の暴力を受けた	生活費を渡してくれなかった	交友関係や電話・メールを細かく監視された	危害が加えられるのではと恐怖を感じるほどの脅しを受けた	あなたがいやがっているのに性的な行為を強要された	命の危険を感じるくらいの暴力を受けた	医師の治療が必要となる程度の暴力を受けた	無回答
全体			723	84.0	11.2	2.5	2.1	1.7	1.4	1.4	1.2	0.4	0.4	1.9
年齢別	女性	10 歳代・20 歳代	6	66.7	16.7	-	-	-	16.7	-	-	-	-	-
		30 歳代	45	73.3	15.6	2.2	6.7	6.7	2.2	6.7	8.9	2.2	2.2	-
		40 歳代	74	82.4	16.2	1.4	2.7	1.4	2.7	-	1.4	-	1.4	-
		50 歳代	90	80.0	15.6	4.4	2.2	2.2	1.1	3.3	-	-	-	1.1
		60 歳代	67	80.6	14.9	4.5	3.0	3.0	-	3.0	1.5	-	-	1.5
		70 歳代	71	74.6	15.5	1.4	1.4	4.2	1.4	1.4	2.8	-	-	4.2
		80 歳以上	35	65.7	25.7	2.9	-	-	-	-	-	2.9	-	5.7
	男性	10 歳代・20 歳代	10	80.0	20.0	10.0	20.0	10.0	20.0	-	-	-	-	-
		30 歳代	23	91.3	4.3	4.3	-	-	-	-	-	-	-	-
		40 歳代	53	90.6	5.7	1.9	1.9	-	-	-	-	-	-	3.8
		50 歳代	59	96.6	1.7	1.7	-	-	-	-	-	-	-	-
		60 歳代	71	94.4	4.2	1.4	1.4	-	1.4	1.4	-	-	-	1.4
		70 歳代	76	93.4	3.9	-	1.3	-	1.3	-	-	1.3	1.3	2.6
		80 歳以上	38	81.6	7.9	5.3	-	-	-	-	2.6	-	-	5.3

※濃い網掛けは全体より 10 ポイント以上高い項目、薄い網掛けは全体より 5 ポイント以上高い項目
（回答者数が 15 件未満の場合は網掛けなし）

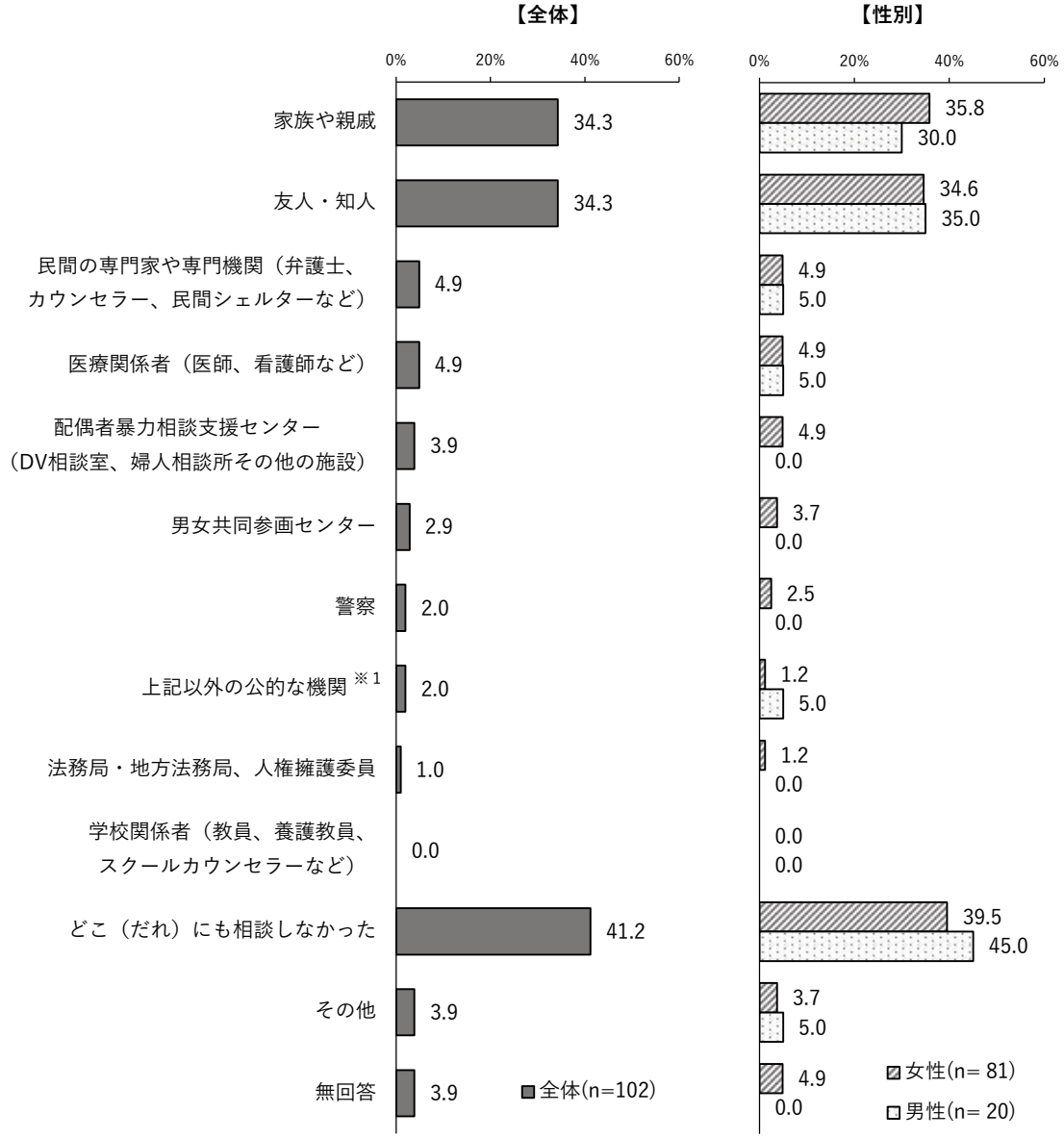
3 DVを受けた時の相談先

問 14.（問 13 で、「1．暴力はなかった」以外を１つでも選択したかたにお聞きします。）
あなたはこれまでに、問 13 であげたような行為について、だれかにうち明けたり、相談したりしましたか。（○はいくつでも）

DVを受けた時の相談先は、「どこ（だれ）にも相談しなかった」（41.2%）が最も高く、次いで「家族や親戚」と「友人・知人」（各 34.3%）、「民間の専門家や専門機関（弁護士、カウンセラー、民間シェルターなど）」と「医療関係者（医師、看護師など）」（各 4.9%）の順となっています。

性別では、男性に比べて女性で「家族や親戚」が 5.8 ポイント高くなっています。（女性 35.8%、男性 30.0%）「どこ（だれ）にも相談しなかった」は女性に比べて男性が 5.5 ポイント高くなっています。（女性 39.5%、男性 45.0%）

図 性別 DVを受けた時の相談先

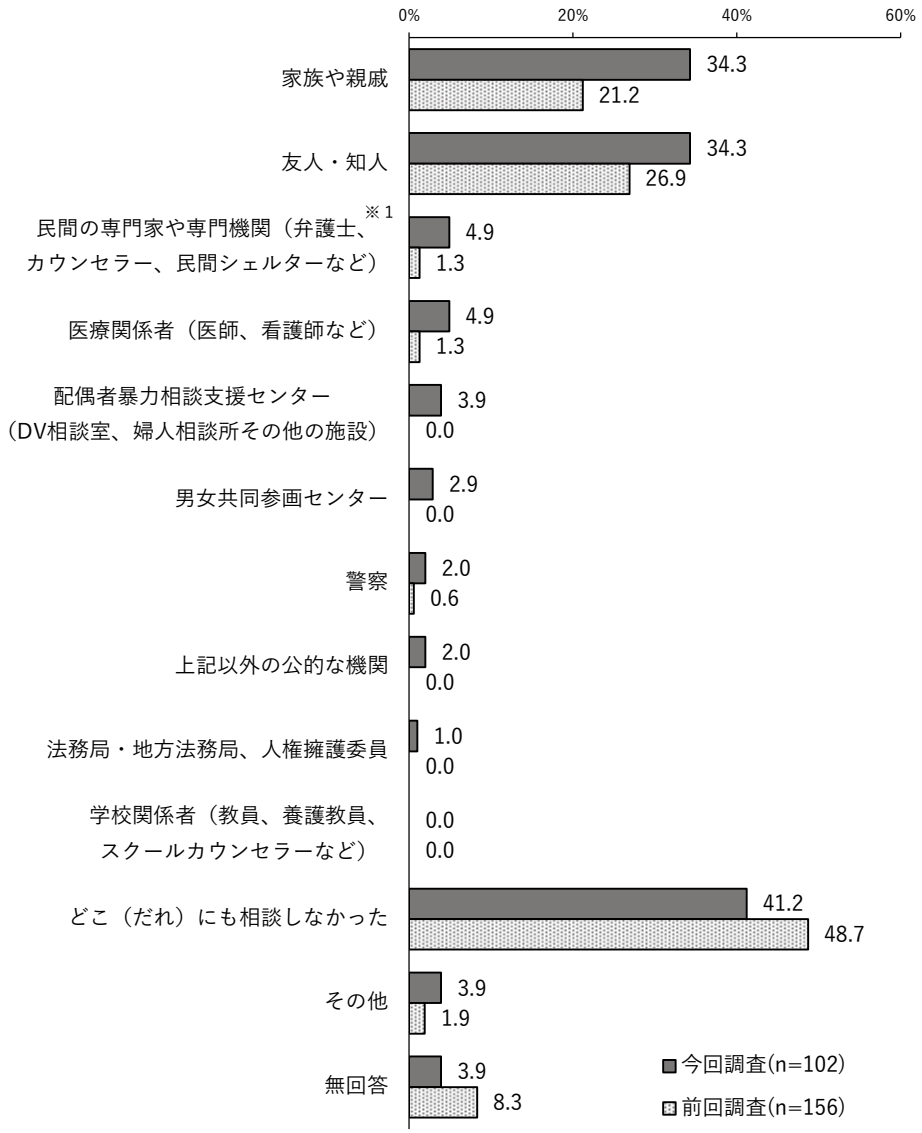


※１ 「上記以外の公的な機関」…… 配偶者暴力相談支援センター（ＤＶ相談室、婦人相談所その他の施設）、警察、法務局・地方法務局、人権擁護委員、男女共同参画センター以外の公的な機関

参考／前回調査との比較

前回調査と比べると、「どこ（だれ）にも相談しなかった」は低くなり、「学校関係者（教員、養護教員、スクールカウンセラーなど）」を除き全ての項目で高くなっています。

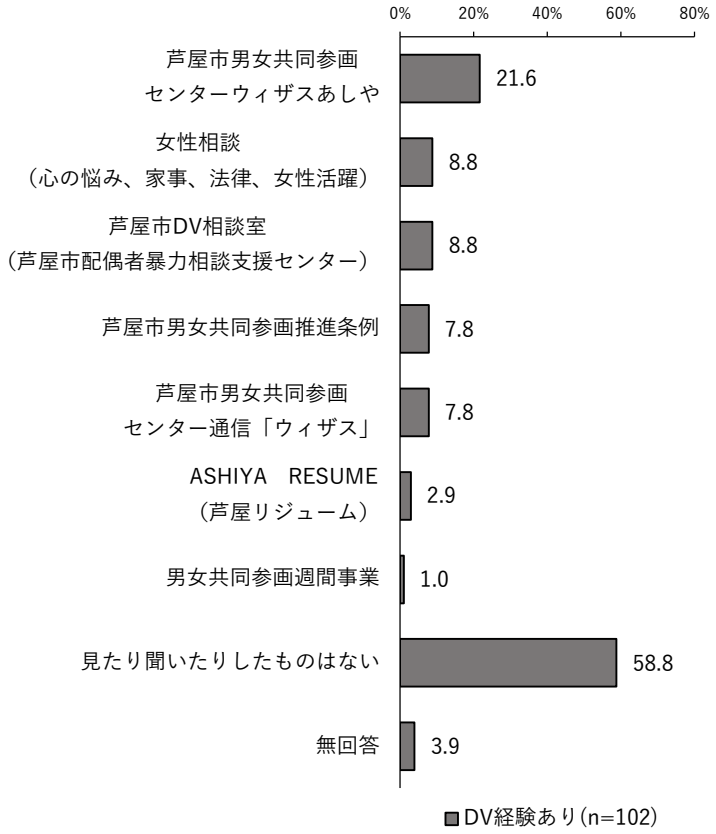
図　DVを受けた時の相談先（前回調査との比較）



※１　前回調査では「民間の専門家や専門機関（弁護士・弁護士会、カウンセリング機関、民間シェルターなど）」

配偶者やパートナーから暴力を受けたことがある人（102 人）の「芦屋市DV相談室（芦屋市配偶者暴力相談支援センター）」の認知度は 8.8%（9 人）となっています。

図　男女共同参画社会に向けた取組の認知状況（DV を受けたことがある人のみ）



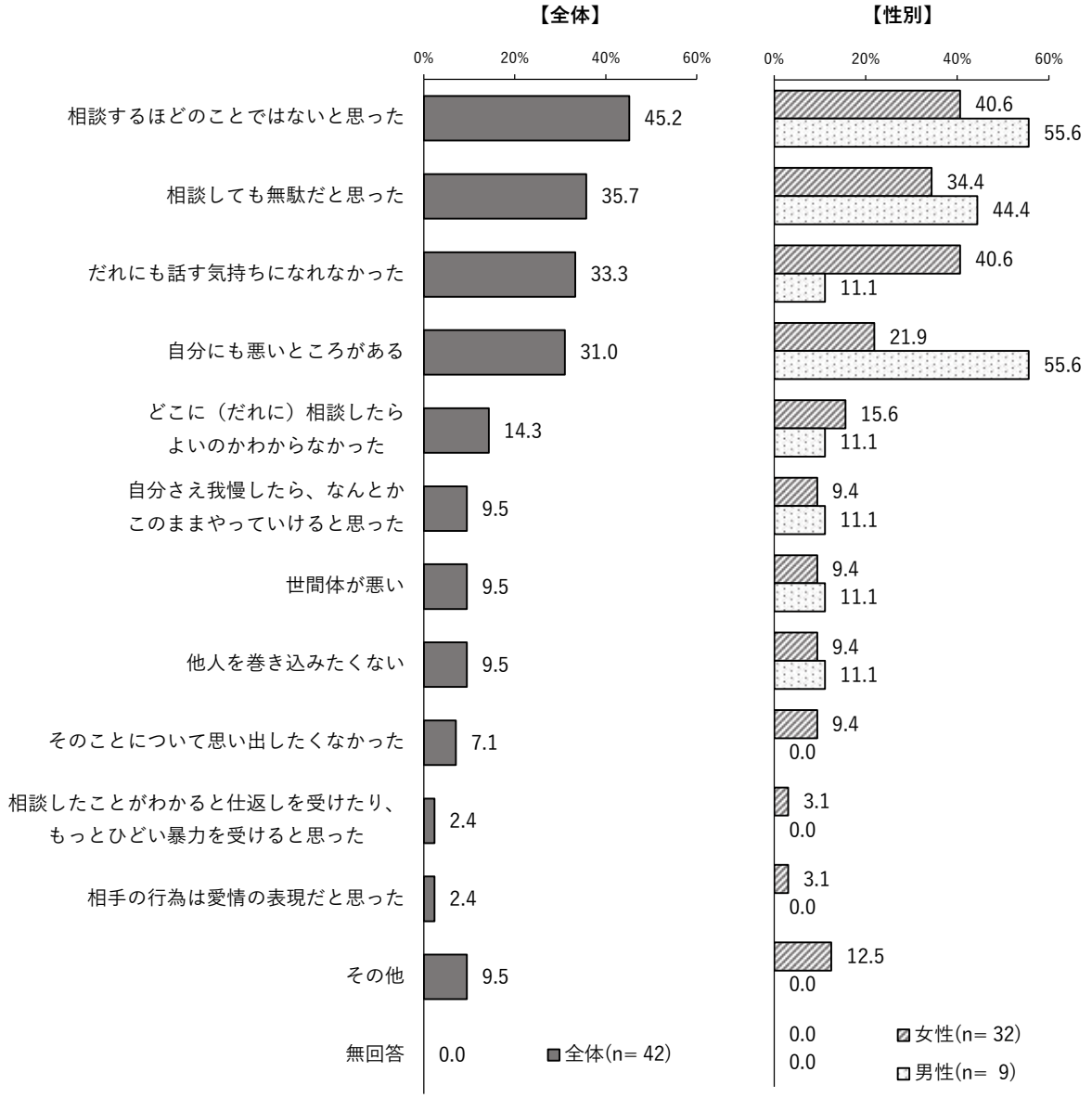
4 DVを相談しなかった理由

問 15.（問 14 で「11.どこ（だれ）にも相談しなかった」とお答えしたかたにお聞きします。）どこ（だれ）にも相談しなかったのは、なぜですか。（○はいくつでも）

DVを相談しなかった理由は、「相談するほどのことではないと思った」(45.2%)が最も高く、次いで「相談しても無駄だと思った」(35.7%)、「だれにも話す気持ちになれなかった」(33.3%)、「自分にも悪いところがある」(31.0%)の順となっています。

性別では、男性に比べて女性で「だれにも話す気持ちになれなかった」が 29.5 ポイント高く(女性 40.6%、男性 11.1%)、女性に比べて男性で「自分にも悪いところがある」が 33.7 ポイント高く(女性 21.9%、男性 55.6%)なっています。

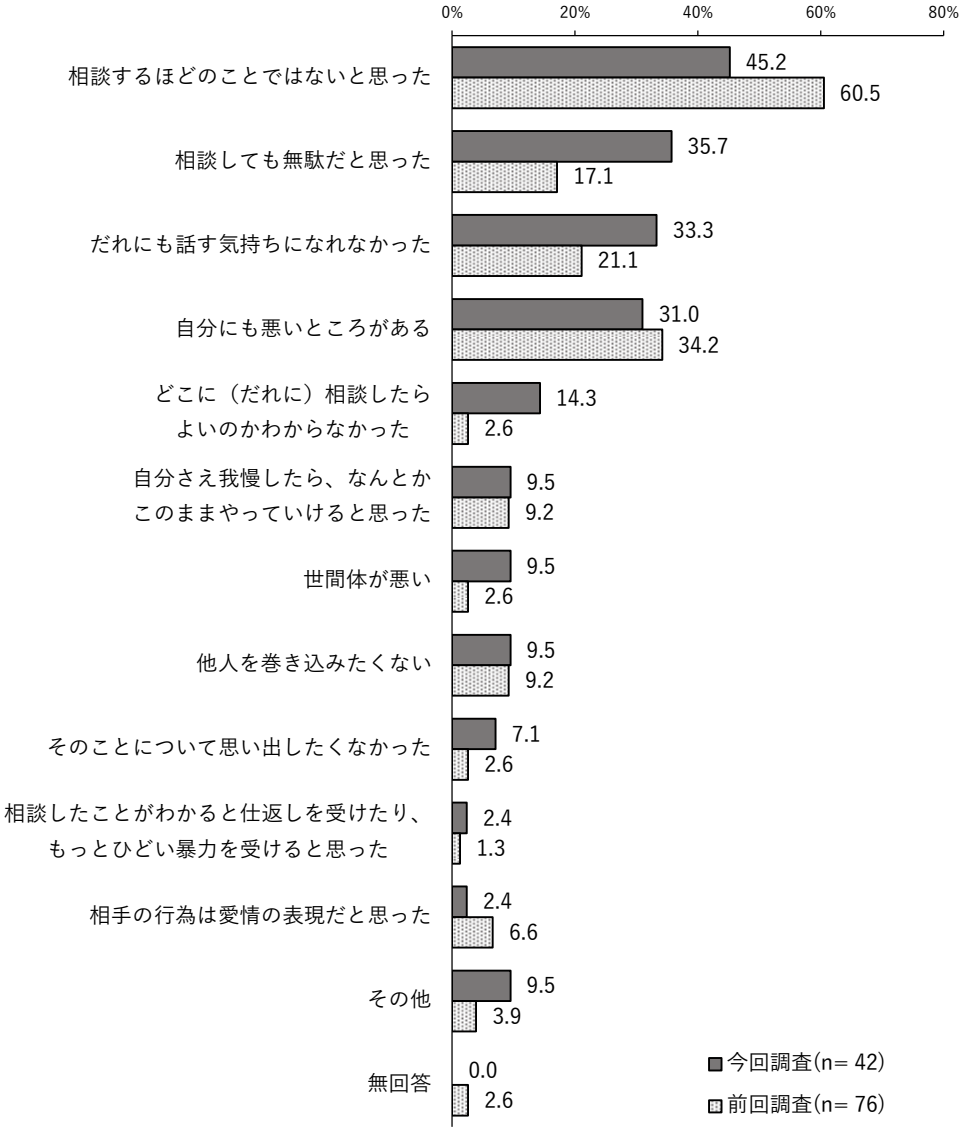
図 性別 DVを相談しなかった理由



参考／前回調査との比較

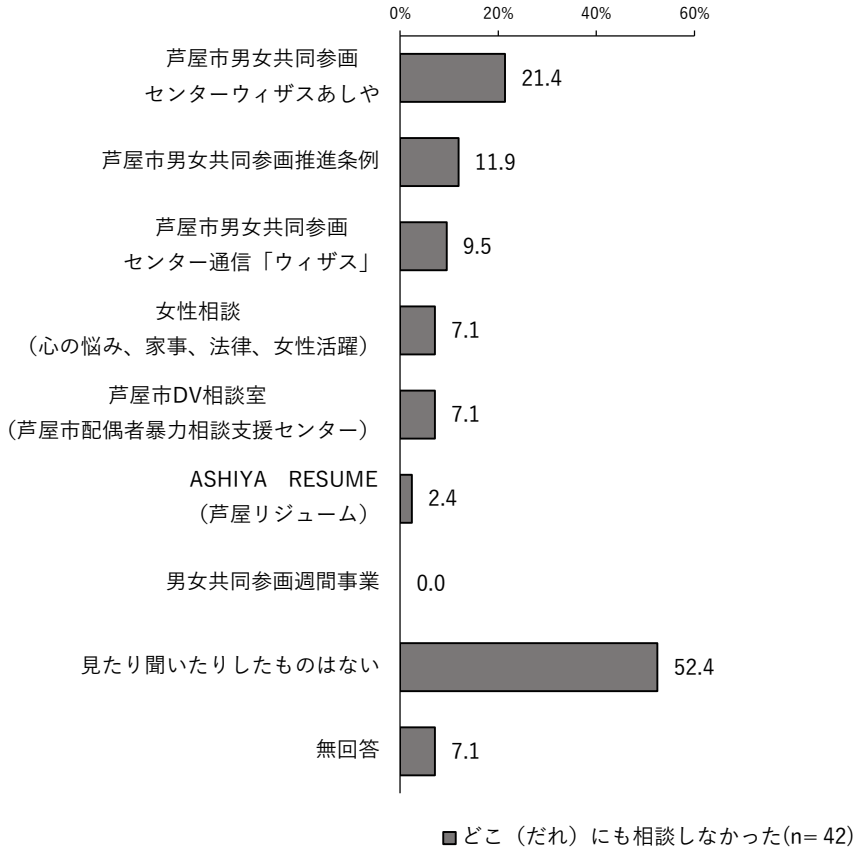
前回調査と比べると、「相談しても無駄だと思った」（17.1%から 35.7%）、「だれにも話す気持ちになれなかった」（21.1%から 33.3%）が、前回調査と比べてそれぞれ高く、「相談するほどのことではないと思った」が低く（60.5%から 45.2%）なっています。

図 DVを相談しなかった理由（前回調査との比較）



DV をどこ(だれ)にも相談しなかった人(42 人)の「芦屋市DV相談室(芦屋市配偶者暴力相談支援センター)」の認知度は 7.1%(3 人)となっています。

図 男女共同参画社会に向けた取組の認知状況(DV をどこ(だれ)にも相談しなかった人のみ)



【3】男女共同参画の取組について

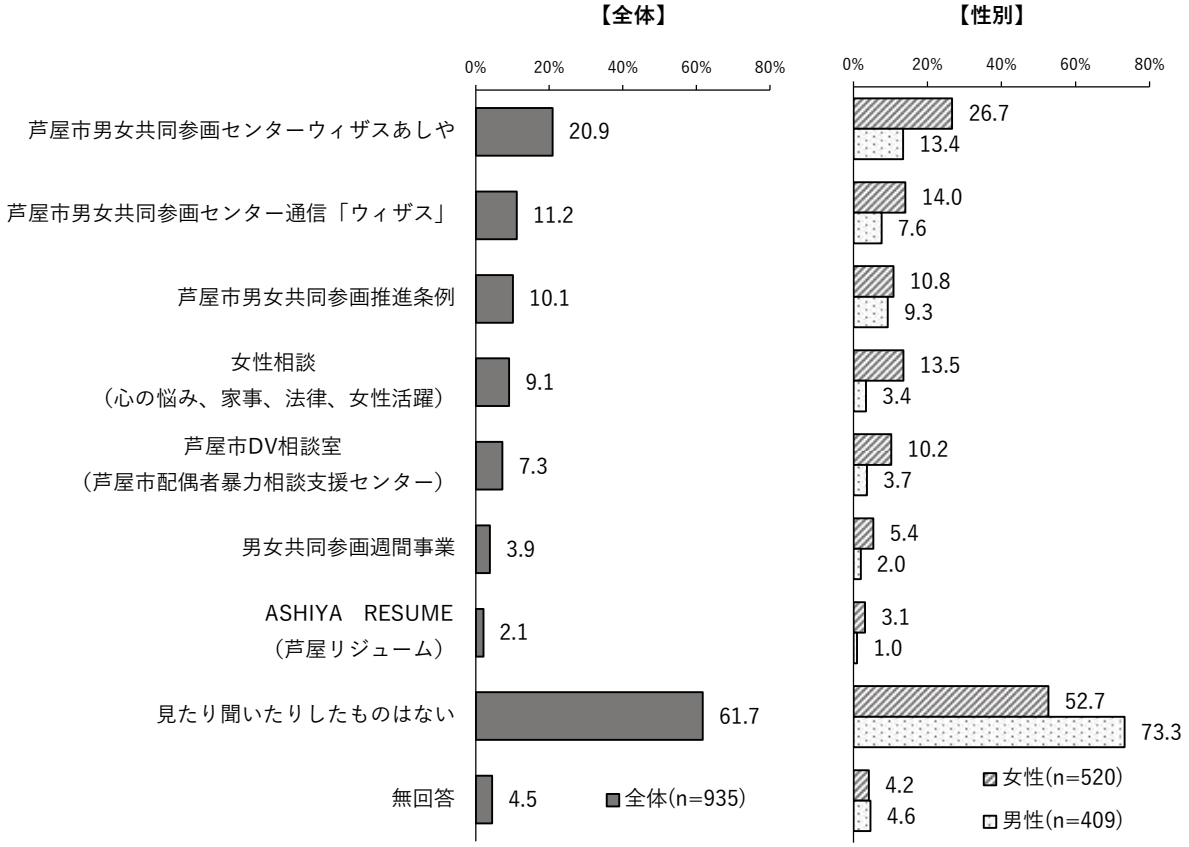
1　男女共同参画社会に向けた取組の認知状況

問 16. 芦屋市の男女共同参画社会の実現に向けた取組などについて、見たり聞いたりしたことはありますか。（○はいくつでも）

男女共同参画社会に向けた取組については、「見たり聞いたりしたものはない」が 61.7%となっています。見たり聞いたりしたことがあるものでは、「芦屋市男女共同参画センターウィザスあしや」（20.9％）が最も高く、「芦屋市男女共同参画センター通信『ウィザス』」（11.2%）、「芦屋市男女共同参画推進条例」（10.1%）の順となっています。

性別では、女性に比べて男性で「見たり聞いたりしたものはない」が大幅に高くなっており（女性 52.7%、男性 73.3%）、いずれの取組も女性の割合が高くなっています。

図　性別　男女共同参画社会に向けた取組の認知状況



性・年齢別では、女性 50 歳代で「芦屋市男女共同参画センター ウィザスあしや」「女性相談（心の悩み、家事、法律、女性活躍）」「芦屋市DV相談室（芦屋市配偶者暴力相談支援センター）」が、他の層に比べてそれぞれ高くなっています。一方男性では、各年代で 5 割以上が「見たり聞いたりしたものはない」となっており、30～60 歳代では 7 割以上、10 歳代・20 歳代では約 9 割が「見たり聞いたりしたものはない」となっています。

表 性・年齢別 男女共同参画社会に向けた取組の認知状況

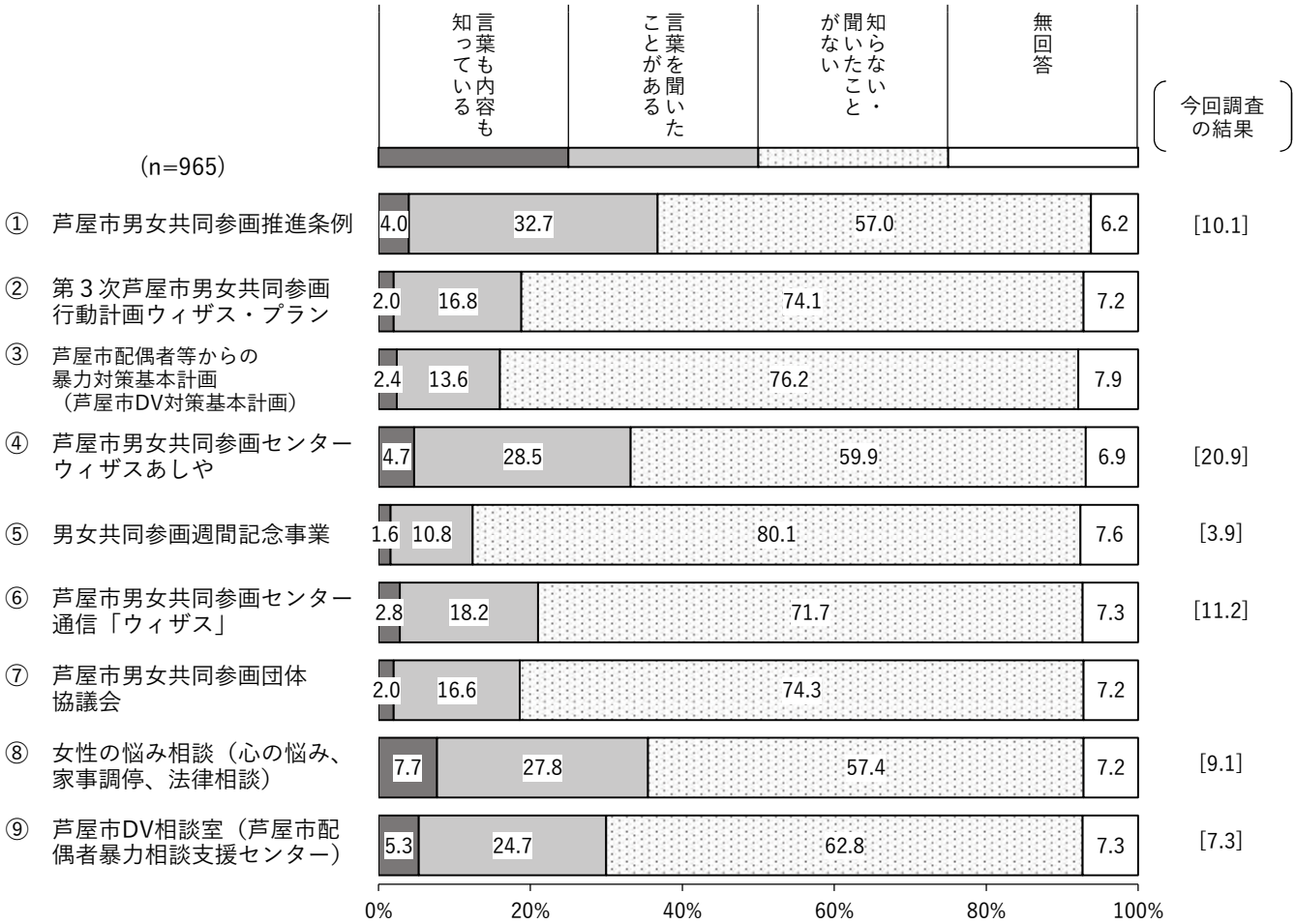
		回答者数（n）	芦屋市男女共同参画センター ウィザスあしや	芦屋市男女共同参画センター通信「ウィザス」	芦屋市男女共同参画推進条例	女性相談（心の悩み、家事、法律、女性活躍）	芦屋市DV相談室（芦屋市配偶者暴力相談支援センター）	男女共同参画週間事業	ASHIYA RESUME（芦屋リジューム）	見たり聞いたりしたものはない	無回答
全体		935	20.9	11.2	10.1	9.1	7.3	3.9	2.1	61.7	4.5
年齢別	女性 10 歳代・20 歳代	26	3.8	3.8	15.4	3.8	3.8	-	-	73.1	-
	女性 30 歳代	56	19.6	10.7	14.3	8.9	14.3	1.8	3.6	67.9	-
	女性 40 歳代	79	30.4	16.5	10.1	8.9	6.3	2.5	3.8	50.6	1.3
	女性 50 歳代	106	33.0	15.1	11.3	21.7	17.9	6.6	4.7	43.4	0.9
	女性 60 歳代	86	26.7	11.6	11.6	17.4	12.8	5.8	4.7	52.3	2.3
	女性 70 歳代	103	29.1	15.5	5.8	10.7	6.8	7.8	1.9	54.4	8.7
	女性 80 歳以上	64	23.4	17.2	12.5	12.5	3.1	7.8	-	46.9	14.1
	男性 10 歳代・20 歳代	39	2.6	-	-	2.6	2.6	-	-	89.7	2.6
	男性 30 歳代	34	11.8	8.8	11.8	5.9	5.9	-	-	79.4	-
	男性 40 歳代	64	10.9	4.7	6.3	-	-	-	-	79.7	3.1
	男性 50 歳代	63	11.1	7.9	12.7	3.2	6.3	1.6	1.6	76.2	-
	男性 60 歳代	83	13.3	6.0	9.6	3.6	3.6	3.6	3.6	72.3	6.0
	男性 70 歳代	82	15.9	9.8	9.8	6.1	3.7	2.4	-	65.9	6.1
	男性 80 歳以上	44	27.3	15.9	13.6	2.3	4.5	4.5	-	56.8	13.6

※濃い網掛けは全体より 10 ポイント以上高い項目、薄い網掛けは全体より 5 ポイント以上高い項目

参考／前回調査結果

前回調査とは質問の形式・選択肢を変更しているため比較はできませんが、前回調査では「言葉も内容も知っている」と「言葉を聞いたことがある」を合わせた割合は、「①芦屋市男女共同参画推進条例」が 36.7%で最も高く、次いで、「⑧女性の悩み相談（心の悩み、家事調停、法律相談）」が 35.5%、「④芦屋市男女共同参画センターウィザスあしや」が 33.2%の順に高くなっています。

図 男女共同参画社会に向けた取組の認知状況（前回調査）



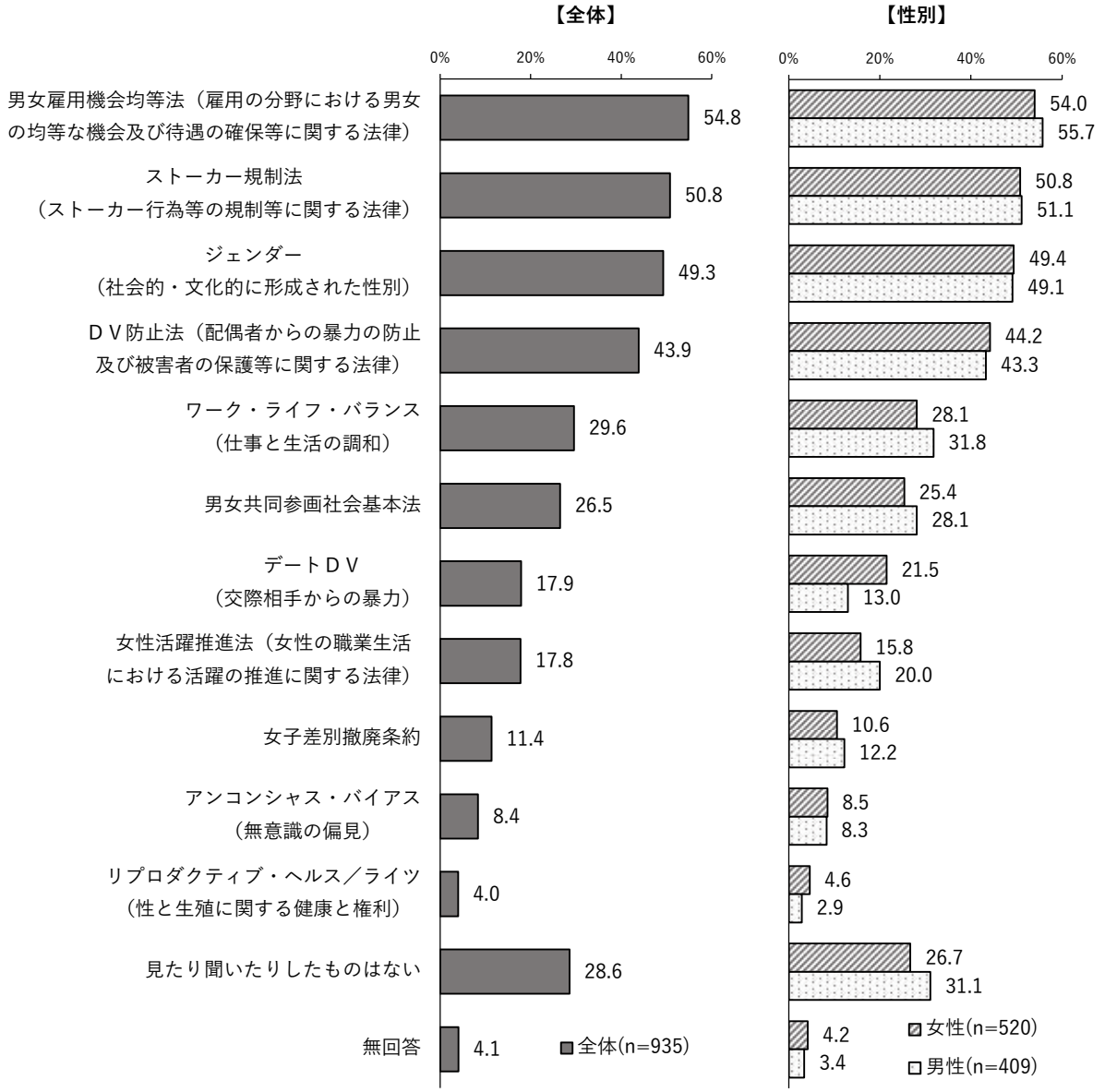
２ 男女共同参画関連用語の認知状況

問 17. 男女共同参画に関する次の「ことがら」について、見たり聞いたりしたことはありますか。（○はいくつでも）

男女共同参画関連用語の認知状況は、「男女雇用機会均等法（雇用の分野における男女の均等な機会及び待遇の確保等に関する法律）」（54.8%）が最も高く、次いで「ストーカー規制法（ストーカー行為等の規制等に関する法律）」（50.8%）、「ジェンダー（社会的・文化的に形成された性別）」（49.3%）、「DV防止法（配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律）」（43.9%）の順となっています。

性別では、男性に比べて女性で「デートDV（交際相手からの暴力）」の割合が高く（女性21.5%、男性13.0%）なっています。

図 性別 男女共同参画関連用語の認知状況



性・年齢別では、女性 10 歳代・20 歳代では 11 項目中 6 項目が全体より 10 ポイント以上割合が高く、「男女雇用機会均等法（雇用の分野における男女の均等な機会及び待遇の確保等に関する法律）」「ジェンダー（社会的・文化的に形成された性別）」「男女共同参画社会基本法」「女子差別撤廃条約」は特に高くなっています。また、男性 30 歳代で「女性活躍推進法（女性の職業生活における活躍の推進に関する法律）」が他の層に比べて高くなっています。

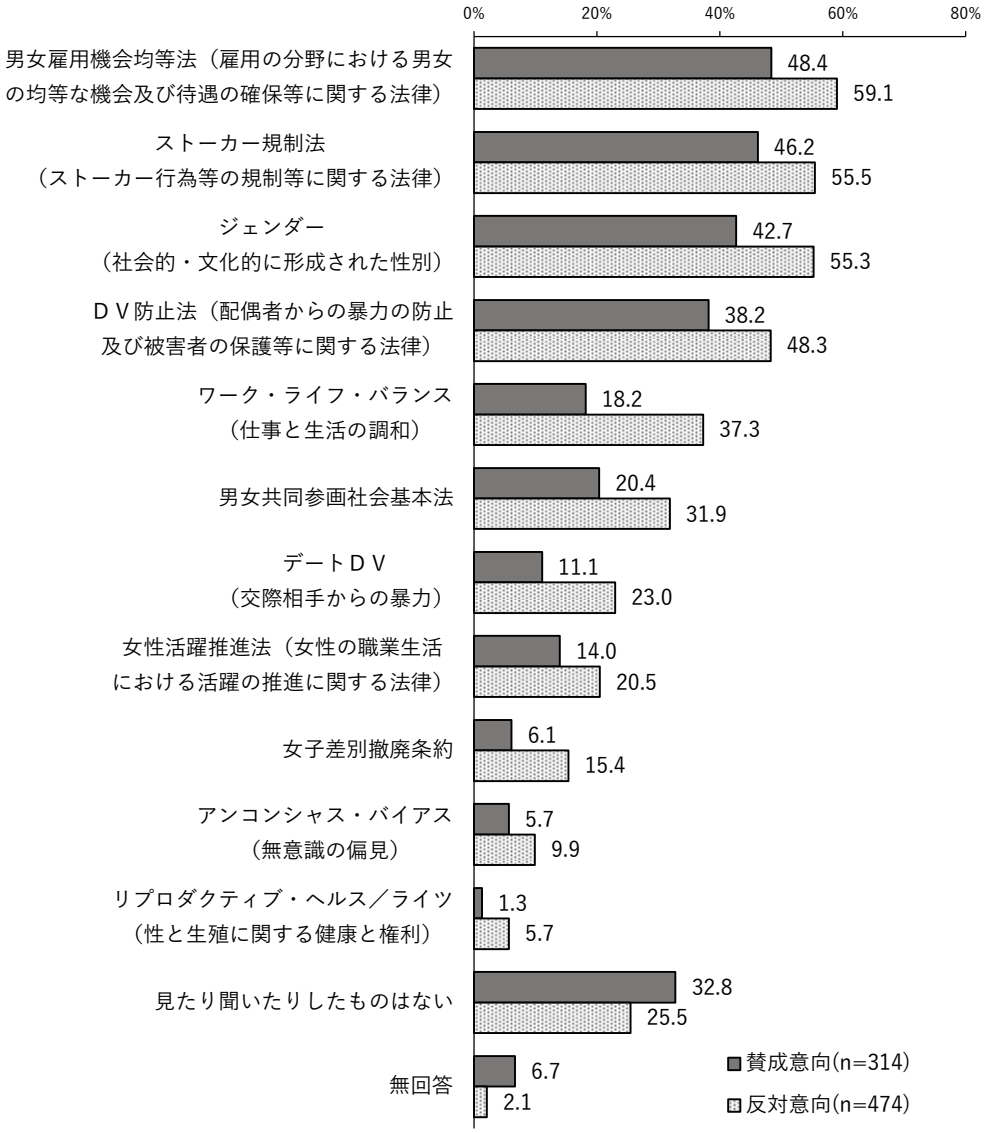
表　性・年齢別　男女共同参画関連用語の認知状況

			回答者数（n）	男女雇用機会均等法（雇用の分野における男女の均等な機会及び待遇の確保等に関する法律）	ストーカー規制法（ストーカー行為等の規制等に関する法律）	ジェンダー（社会的・文化的に形成された性別）	DV防止法（配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律）	ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）	男女共同参画社会基本法	デートDV（交際相手からの暴力）	女性活躍推進法（女性の職業生活における活躍の推進に関する法律）	女子差別撤廃条約	アンコンシャス・バイアス（無意識の偏見）	リプロダクティブ・ヘルス／ライツ（性と生殖に関する健康と権利）	見たり聞いたりしたものはない	無回答
全　体			935	54.8	50.8	49.3	43.9	29.6	26.5	17.9	17.8	11.4	8.4	4.0	28.6	4.1
年齢別	女性	10 歳代・20 歳代	26	76.9	53.8	73.1	53.8	53.8	69.2	38.5	19.2	42.3	7.7	11.5	11.5	-
		30 歳代	56	60.7	53.6	55.4	46.4	37.5	33.9	32.1	19.6	14.3	12.5	10.7	26.8	-
		40 歳代	79	57.0	57.0	58.2	40.5	43.0	20.3	31.6	17.7	12.7	11.4	5.1	27.8	1.3
		50 歳代	106	60.4	63.2	62.3	56.6	38.7	26.4	30.2	18.9	9.4	11.3	8.5	20.8	-
		60 歳代	86	57.0	58.1	55.8	54.7	22.1	23.3	17.4	12.8	4.7	4.7	-	24.4	2.3
		70 歳代	103	42.7	39.8	33.0	36.9	9.7	17.5	8.7	12.6	7.8	7.8	1.9	34.0	8.7
		80 歳以上	64	39.1	26.6	20.3	20.3	10.9	20.3	4.7	12.5	6.3	3.1	-	32.8	15.6
	男性	10 歳代・20 歳代	39	46.2	38.5	51.3	35.9	43.6	38.5	12.8	15.4	12.8	5.1	5.1	35.9	-
		30 歳代	34	50.0	44.1	52.9	35.3	50.0	38.2	20.6	32.4	17.6	11.8	-	41.2	-
		40 歳代	64	54.7	54.7	57.8	46.9	43.8	34.4	26.6	25.0	14.1	17.2	6.3	29.7	1.6
		50 歳代	63	65.1	61.9	52.4	44.4	41.3	34.9	14.3	22.2	11.1	4.8	1.6	30.2	-
		60 歳代	83	60.2	59.0	51.8	53.0	28.9	20.5	9.6	22.9	9.6	9.6	3.6	30.1	3.6
		70 歳代	82	58.5	51.2	45.1	47.6	18.3	20.7	6.1	14.6	14.6	4.9	-	26.8	4.9
		80 歳以上	44	43.2	31.8	29.5	22.7	6.8	20.5	4.5	9.1	6.8	4.5	4.5	31.8	13.6

※濃い網掛けは全体より 10 ポイント以上高い項目、薄い網掛けは全体より 5 ポイント以上高い項目

性別役割分担意識に関わる考え方別では、「賛成意向」の人より「反対意向」の人の方がどの項目に対しても認知度が高くなっており、性別役割分担意識とのその他男女共同参画関連用語の認知度の相関性が認められます。

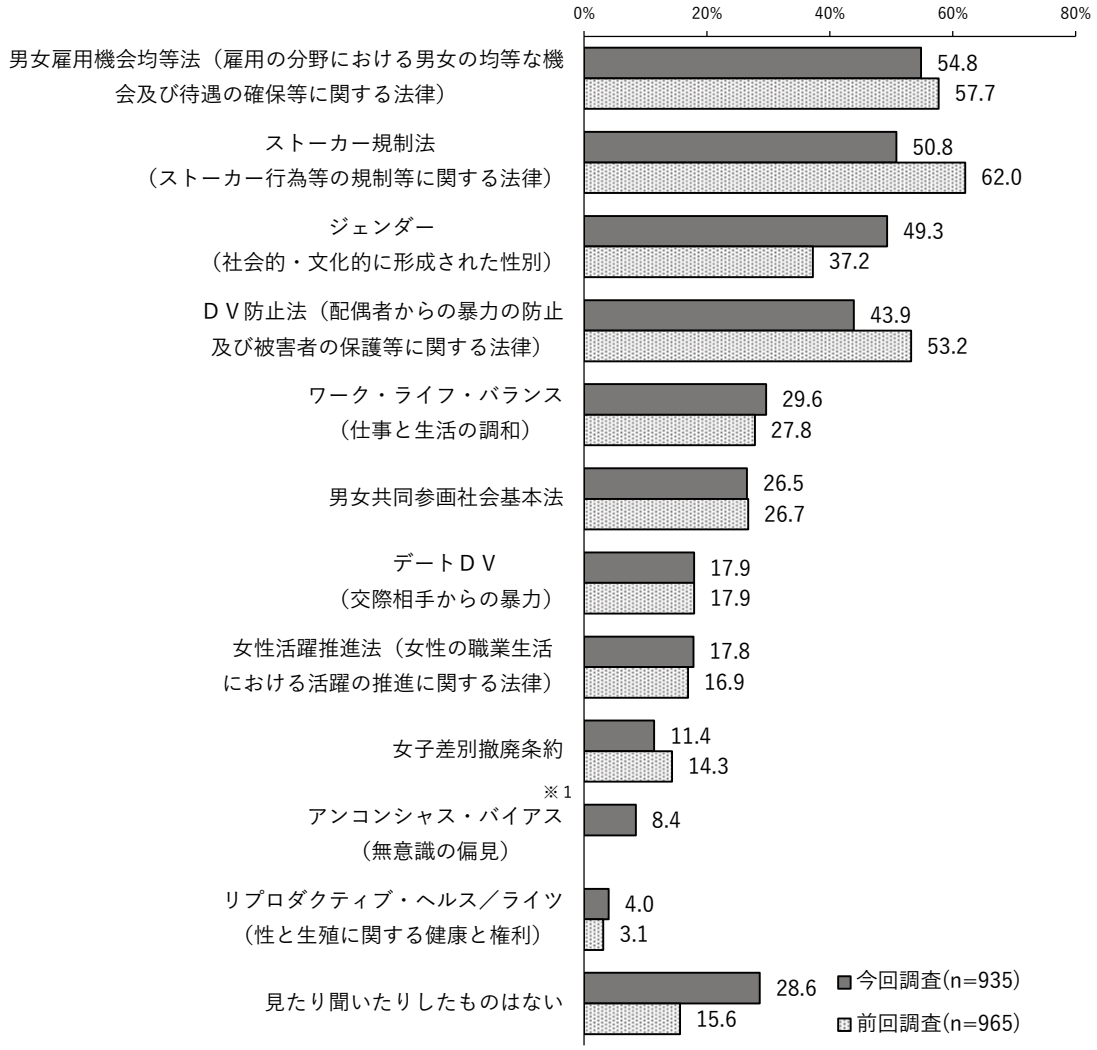
図　性別役割分担意識に関わる考え方別　男女共同参画関連用語の認知状況



参考／前回調査との比較

「ストーカー規制法（ストーカー行為等の規制等に関する法律）」と「DV防止法（配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律）」は前回調査と比べて、それぞれ 11.2 ポイント（今回 50.8%、前回 62.0%）、9.3 ポイント（今回 43.9%、前回 53.2%）低くなっています。「ジェンダー（社会的・文化的に形成された性別）」は前回調査と比べて 12.1 ポイント（今回 49.3%、前回 37.2%）高くなっています。

図　男女共同参画関連用語の認知状況（前回調査との比較）



※１　今回調査のみの項目

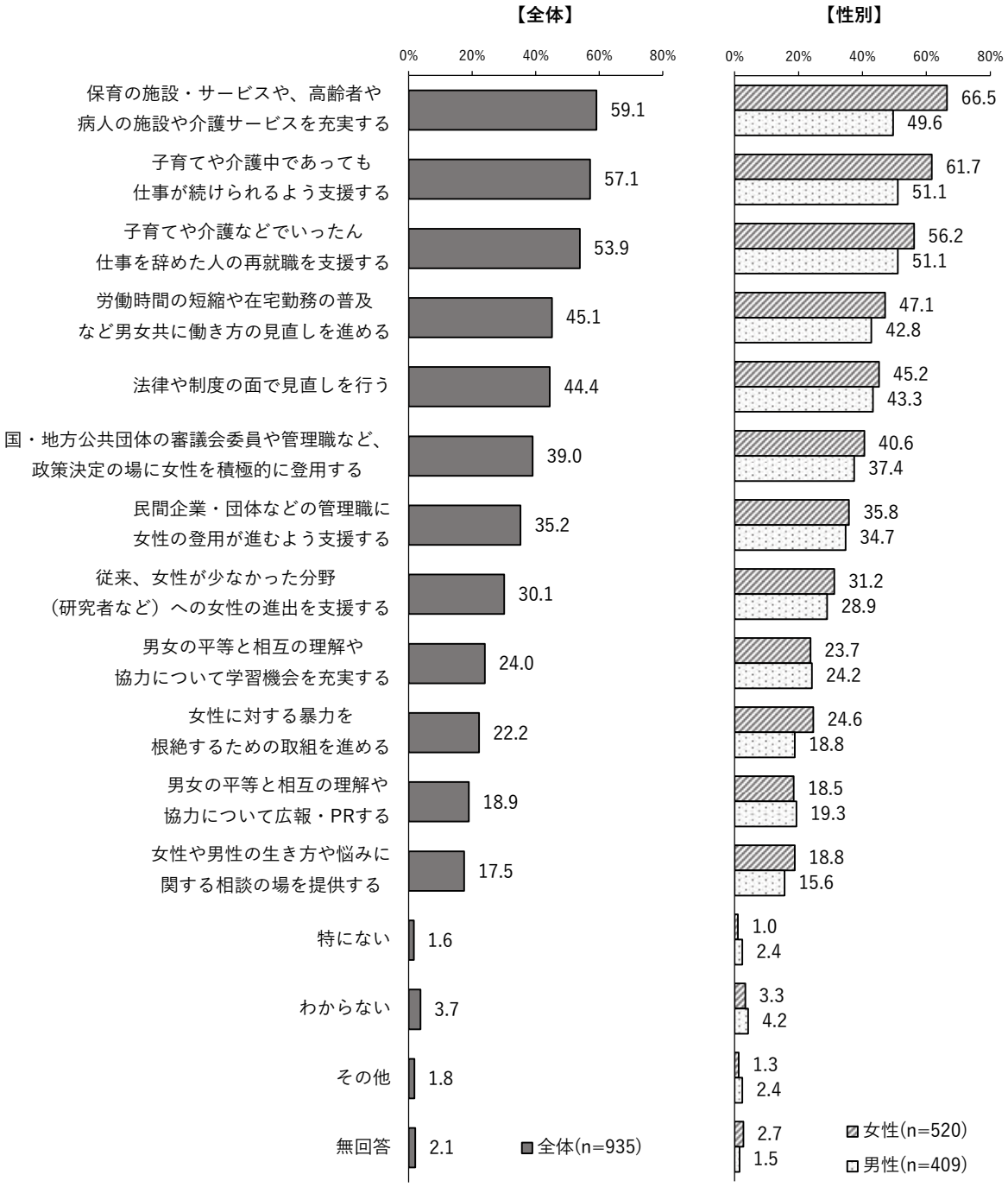
３ 男女共同参画推進にとって行政が力を入れる重要なこと

問 18. 男女共同参画社会（あらゆる分野で男女がさらに対等な社会）を実現するために、今後、行政が力を入れる重要なことはどのようなことだと思いますか。（○はいくつでも）

男女共同参画推進にとって行政が力を入れる重要なことについては、「保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する」（59.1%）が最も高く、次いで「子育てや介護中であっても仕事が続けられるよう支援する」（57.1%）の順となっています。

性別では、ほとんどの項目で女性の割合が高くなっており、「保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する」は16.9ポイント（女性66.5%、男性49.6%）、「子育てや介護中であっても仕事が続けられるよう支援する」は10.6ポイント（女性61.7%、男性51.1%）高くなっています。

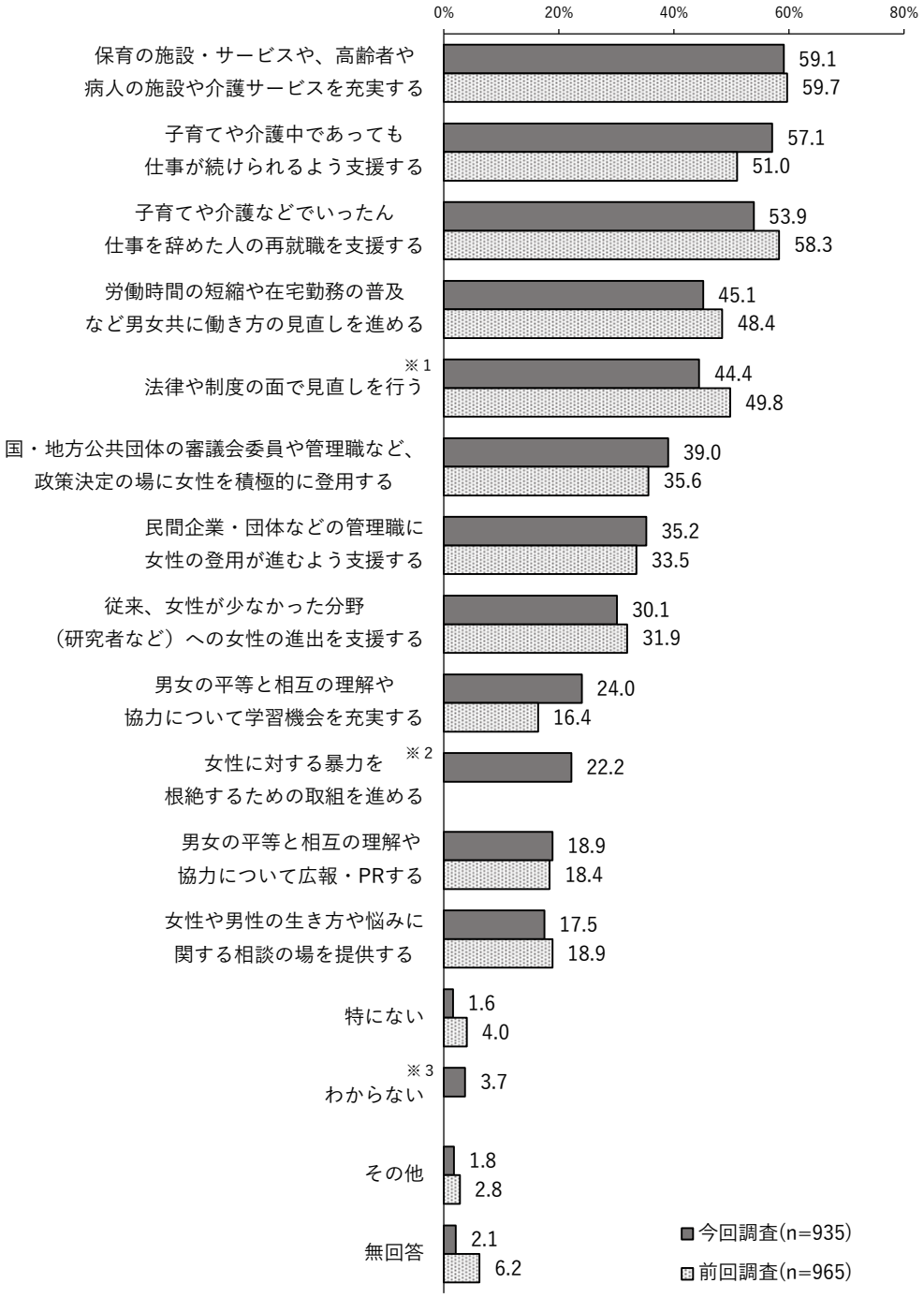
図 性別 男女共同参画推進にとって行政が力を入れる重要なこと



参考／前回調査との比較

「保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する」については、前回調査と同じくほぼ同率で最も高い割合となっていますが、次に高いのは「子育てや介護中であっても仕事が続けられるよう支援する」で、前回調査より 6.1 ポイント（今回 57.1%、前回 51.0%）高くなっています。「男女の平等と相互の理解や協力について学習機会を充実する」は、前回より 7.6 ポイント（今回 24.0%、前回 16.4%）高く、全項目のうち最も上昇しています。

図 男女共同参画推進にとって行政が力を入れる重要なこと（前回調査との比較）



※１　前回調査の選択肢は、「法律や制度の見直し・強化（仕事と生活の両立支援、雇用均等、女性登用等）」
※２、※３　今回調査のみの項目

資料/調査票

芦屋市
男女共同参画に関する市民意識調査

調査へのご協力のお願い

市民の皆さまには、日ごろから市政にご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

本市では、平成 21 年３月に「芦屋市男女共同参画推進条例」を制定するとともに、平成 30 年３月には「第４次芦屋市男女共同参画行動計画ウィザス・プラン」を策定し、女性も男性もすべての個人が、喜びも責任も分かち合い、その個性と能力を十分に発揮することができる男女共同参画社会の実現を目指して、具体的な施策の取組を進めています。

このたび、「ウィザス・プラン」の見直しと今後の男女共同参画の施策を進める上での基礎資料とさせていただくため、「男女共同参画に関する市民意識調査」を行うことにいたしました。

この調査は、芦屋市に住む 18 歳以上の方から男女各 1,000 人、合わせて 2,000 人を無作為に選ばせていただきました。調査は無記名です。すべて統計的に処理を行い、個人が特定されるなどご迷惑をおかけすることはありませんので、ぜひご協力をお願いいたします。

令和３年（2021 年）８月

芦屋市長　伊　藤　　舞

調査は下記の２次元コードからインターネットでも回答いただけます。
回答には申請者ＩＤとパスワードが必要です。
「この調査票」か「インターネット」のどちらか一方でご回答ください。
両方を提出された場合にはインターネットでの回答を優先します。

申請者ＩＤ・パスワードで個人は特定されません。

◆この調査についてのお問い合わせ先

芦屋市 市民生活部 人権・男女共生課　ＴＥＬ ０７９７-３８-２５１８（直通）

これは、男女共同参画についての市民アンケートです。
英語版のアンケート調査票、又はふりがな付きのアンケート調査票が必要なかたは、
ご連絡ください。芦屋市 市民生活部 人権・男女共生課 e-mail josei-ce@city.ashiya.lg.jp

Survey about the Gender Equality of Ashiya Citizens

If you need either an English version or a Japanese with *furigana* version of the questionnaire, please contact the below：

Ashiya City Human Rights and Gender Equality Section

ご記入にあたってのお願い

１．回答はあなた（封筒の宛名ご本人）自身のお考えでお答えください。
２．回答は、質問ごとにあてはまる選択肢の番号に○をつけてください。
３．質問によって回答される方が限られる場合がありますので、設問をお読みいただき、記入してください。
４．この調査票で回答される場合は、記入後、同封の返信用封筒に入れ、**（切手は不要）**
９月１７日（金）までにご返送ください。

インターネットで回答される場合は返送不要です。

あなたご自身のことについておたずねします。

問１．あなたの性別は。（○は１つ。ご自身で思われる性別をお答えください。）

1．女性
2．男性
3．１・２に当てはまらない
4．答えたくない

問２．あなたの年齢（令和３年８月１日現在）は。（○は１つ）

1．１０歳代・２０歳代
2．３０歳代
3．４０歳代
4．５０歳代
5．６０歳代
6．７０歳代
7．８０歳以上

問３．あなたの主な職業等は何ですか。（○は１つ）

1．自営業・会社経営
2．正社員・正職員（常勤）
3．派遣社員・契約社員
4．パート・アルバイト
5．主婦・主夫
6．学生
7．無職（５及び６を除く）
8．その他（具体的に　　）

問４．あなたの配偶者・パートナーの職業等は何ですか。（○は１つ）

１．配偶者・パートナーはいない
２．自営業・会社経営
３．正社員・正職員（常勤）
４．派遣社員・契約社員
５．パート・アルバイト
６．主婦・主夫
７．学生
８．無職（６及び７を除く）
９．その他（具体的に　　）

問５．あなたにはお子さんがおられますか。（○は１つ）
※事実婚や同性婚のパートナーのお子さんを含みます。別居も含みます。

１．いる
２．いない

男女の平等意識についておたずねします。

問６．あなたは、次の各分野において、男女の地位が平等になっていると思いますか。次の各項目についてあなたのお考えに最も近いものをお答えください。（○はそれぞれ１つずつ）

①～⑧までの項目について、それぞれ選んだ番号に○をつけてください。

	男性が非常に優遇されている	どちらかといえば男性が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性が優遇されている	女性が非常に優遇されている	わからない
① 家庭生活の場で	1	2	3	4	5	6
② 職場の中で（賃金・昇進等）	1	2	3	4	5	6
③ 学校教育の場で	1	2	3	4	5	6
④ 政治の場で	1	2	3	4	5	6
⑤ 法律や制度の上で	1	2	3	4	5	6
⑥ 社会通念や慣習、しきたり等で	1	2	3	4	5	6
⑦ 自治会やPTAなどの地域活動の場で	1	2	3	4	5	6
⑧ 社会全体として	1	2	3	4	5	6

問７．あなたは、「夫が外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、どうお考えですか。（○は１つ）

1．賛成
2．どちらかといえば賛成
3．どちらかといえば反対
4．反対
5．わからない

問７－１．**（問７で「1．賛成」、「2．どちらかといえば賛成」とお答えしたかたにお聞きします。）**それはなぜですか。（○はいくつでも）

1．日本の伝統的な家族の在り方だと思うから
2．自分の両親も役割分担をしていたから
3．夫が外で働いた方が、多くの収入を得られると思うから
4．妻が家庭を守った方が、子どもの成長などにとって良いと思うから
5．家事・育児・介護と両立しながら、妻が働き続けることは大変だと思うから
6．特にない
7．わからない
8．その他（具体的に　　）

問７－２．**（問７で「3．どちらかといえば反対」、「4．反対」とお答えしたかたにお聞きします。）**それはなぜですか。（○はいくつでも）

1．男女平等に反すると思うから
2．自分の両親も外で働いていたから
3．夫も妻も働いた方が、多くの収入が得られると思うから
4．妻が働いて能力を発揮した方が、個人や社会にとって良いと思うから
5．家事・育児・介護と両立しながら、妻が働き続けることは可能だと思うから
6．夫と妻の固定的な役割分担の意識を押しつけるべきではないから
7．特にない
8．わからない
9．その他（具体的に　　）

問８．あなたは育児、介護などの家庭で担われている役割について、あなたと配偶者でどのように分担したいですか。育児、介護などをしている、していないに関わらず、保育所、訪問介護、家事代行など外部サービスの利用を含め、これからするとしたらという想定で、最も近いものをお答えください。（○は１つ）
※配偶者のいないかたは、配偶者がいることを想定してお答えください。

問８－１　育児

1. 自分と配偶者で半分ずつ分担（外部サービスは利用しない）
2. 自分の方が配偶者より多く分担（外部サービスは利用しない）
3. 配偶者の方が自分より多く分担（外部サービスは利用しない）
4. 外部サービスを利用しながら、それ以外は自分と配偶者で半分ずつ分担
5. 外部サービスを利用しながら、それ以外は自分の方が配偶者より多く分担
6. 外部サービスを利用しながら、それ以外は配偶者の方が自分より多く分担
7. わからない
8. その他（具体的に　　）

問８－２　介護

1. 自分と配偶者で半分ずつ分担（外部サービスは利用しない）
2. 自分の方が配偶者より多く分担（外部サービスは利用しない）
3. 配偶者の方が自分より多く分担（外部サービスは利用しない）
4. 外部サービスを利用しながら、それ以外は自分と配偶者で半分ずつ分担
5. 外部サービスを利用しながら、それ以外は自分の方が配偶者より多く分担
6. 外部サービスを利用しながら、それ以外は配偶者の方が自分より多く分担
7. わからない
8. その他（具体的に　　）

問８－３　育児・介護以外の家事

1. 自分と配偶者で半分ずつ分担（外部サービスは利用しない）
2. 自分の方が配偶者より多く分担（外部サービスは利用しない）
3. 配偶者の方が自分より多く分担（外部サービスは利用しない）
4. 外部サービスを利用しながら、それ以外は自分と配偶者で半分ずつ分担
5. 外部サービスを利用しながら、それ以外は自分の方が配偶者より多く分担
6. 外部サービスを利用しながら、それ以外は配偶者の方が自分より多く分担
7. わからない
8. その他（具体的に　　）

問９．男性が積極的に家事・子育て・介護・地域活動などへ関わるための課題は何だと思いますか？（○はいくつでも）

1．男性自身の抵抗感
2．女性の抵抗感
3．夫婦や家族間のコミュニケーション不足
4．男性が関わることに対する当事者以外の偏見、理解や配慮の無さ
5．長時間労働などを原因とした関わる時間の少なさ
6．家事や子育て、介護等のスキル（技能）
7．男性同士のネットワークが少ない
8．関わり方が分からない（情報がない）
9．積極的に関わる必要はない（課題はない）
10．わからない
11．その他（具体的に　　）

問 10．女性が職業をもつことについて、あなたはどのようにお考えですか（○は１つ）

1．女性は職業をもたないほうがよい
2．結婚するまで職業をもち、結婚とともに辞めるほうがよい
3．結婚しても職業をもち続け、子どもができたら辞めるほうがよい
4．結婚しても職業をもち続け、子どもができたら辞めて、大きくなったら再び職業をもつのがよい
5．結婚や出産、子育てにかかわらず、職業をもち続けるのがよい
6．わからない
7．その他（具体的に　　）

問 11．女性が出産や介護などによる離職をしないで職場で活躍するための課題は何だと思いますか？（○はいくつでも）

1．職場のトップが女性登用に対して積極的でない
2．上司や同僚の理解不足
3．育児や介護の両立支援制度不足
4．長時間労働や、勤務時間に柔軟性がないこと
5．仕事の適正な評価がされていない
6．男性の家事・育児等参加への理解、意識改革
7．身近に活躍している女性（ロールモデル）がいない
8．女性自身の意識改革
9．特に課題はない
10．わからない
11．その他（具体的に　　）

夫婦※間や交際相手からの暴力（DV=ﾄﾞﾒｽﾃｨｯｸ･ﾊﾞｲｵﾚﾝｽ）についておたずねします。

ドメスティック・バイオレンスとは、多くの場合、女性が夫や恋人などのパートナーから、身体的暴力や性的暴力、精神的暴力、経済的暴力を受けることをいいますが、被害者が男性の場合もあります 。
※夫婦には、婚姻届を出していない事実婚や同性婚、元夫婦も含みます。

問 12．あなたは過去５年間に、配偶者やパートナーがいましたか？（○は１つ）
※配偶者には婚姻届を出していない事実婚や同性婚、別居中の夫婦、元配偶者（離別・死別した相手、事実婚・同性婚を解消した相手）も含みます。

1．いる（いた）
2．いない（いなかった）

問 13．**（問 12 で「1．いる（いた）」とお答えしたかたにお聞きします。）**
あなたは過去５年間に、配偶者やパートナーから暴力を受けたことがありますか。
１度でも受けたことがある暴力を選択してください。（○はいくつでも）

1．暴力はなかった
2．命の危険を感じるくらいの暴力を受けた
3．医師の治療が必要となる程度の暴力を受けた
4．医師の治療が必要とならない程度の暴力を受けた
5．大声でどなられたり、ことばによる暴力をあびせられた
6．生活費を渡してくれなかった
7．交友関係や電話・メールを細かく監視された
8．危害が加えられるのではと恐怖を感じるほどの脅しを受けた
9．何を言っても無視され続けた
10．あなたがいやがっているのに性的な行為を強要された

問 14. **（問 13 で、「1．暴力はなかった」以外を１つでも選択したかたにお聞きします。）**あなたはこれまでに、問 13 であげたような行為について、だれかにうち明けたり、相談したりしましたか。（○はいくつでも）

1. 配偶者暴力相談支援センター（DV 相談室、婦人相談所その他の施設）
2. 警察
3. 法務局・地方法務局、人権擁護委員
4. 男女共同参画センター
5. 上記（1～4）以外の公的な機関
6. 民間の専門家や専門機関（弁護士、カウンセラー、民間シェルターなど）
7. 医療関係者（医師、看護師など）
8. 学校関係者（教員、養護教員、スクールカウンセラーなど）
9. 家族や親戚
10. 友人・知人
11. どこ（だれ）にも相談しなかった
12. その他（具体的に　　）

問 15. **（問 14 で「11.どこ（だれ）にも相談しなかった」とお答えしたかたにお聞きします。）**どこ（だれ）にも相談しなかったのは、なぜですか。（○はいくつでも）

1. どこに（だれに）相談したらよいのかわからなかった
2. 相談しても無駄だと思った
3. 相談したことがわかると仕返しを受けたり、もっとひどい暴力を受けると思った
4. 自分さえ我慢したら、なんとかこのままやっていけると思った
5. 世間体が悪い
6. 他人を巻き込みたくない
7. そのことについて思い出したくなかった
8. 自分にも悪いところがある
9. 相手の行為は愛情の表現だと思った
10. 相談するほどのことではないと思った
11. だれにも話す気持ちになれなかった
12. その他（具体的に　　）

男女共同参画の取組についておたずねします。

問 16. 芦屋市の男女共同参画社会の実現に向けた取組などについて、見たり聞いたりしたことはありますか。（○はいくつでも）

1. 芦屋市男女共同参画推進条例
2. 芦屋市男女共同参画センター　ウィザスあしや
3. 男女共同参画週間事業
4. 芦屋市男女共同参画センター通信「ウィザス」
5. 女性相談（心の悩み、家事、法律、女性活躍）
6. 芦屋市 DV 相談室（芦屋市配偶者暴力相談支援センター）
7. ASHIYA RESUME（芦屋リジューム）
8. 見たり聞いたりしたものはない

問 17. 男女共同参画に関する次の「ことがら」について、見たり聞いたりしたことはありますか。（○はいくつでも）

1. 男女共同参画社会基本法
2. 男女雇用機会均等法（雇用の分野における男女の均等な機会及び待遇の確保等に関する法律）
3. ＤＶ防止法（配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律）
4. ストーカー規制法（ストーカー行為等の規制等に関する法律）
5. 女性活躍推進法（女性の職業生活における活躍の推進に関する法律）
6. 女子差別撤廃条約
7. ジェンダー（社会的・文化的に形成された性別）
8. ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）
9. デートＤＶ（交際相手からの暴力）
10. リプロダクティブ・ヘルス／ライツ（性と生殖に関する健康と権利）
11. アンコンシャス・バイアス（無意識の偏見）
12. 見たり聞いたりしたものはない

問 18. 男女共同参画社会（あらゆる分野で男女がさらに対等な社会）を実現するために、今後、行政が力を入れる重要なことはどのようなことだと思いますか。
（○はいくつでも）

1. 法律や制度の面で見直しを行う
2. 国・地方公共団体の審議会委員や管理職など、政策決定の場に女性を積極的に登用する
3. 民間企業・団体などの管理職に女性の登用が進むよう支援する
4. 女性や男性の生き方や悩みに関する相談の場を提供する
5. 従来、女性が少なかった分野（研究者など）への女性の進出を支援する
6. 保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する
7. 男女の平等と相互の理解や協力について学習機会を充実する
8. 労働時間の短縮や在宅勤務の普及など男女共に働き方の見直しを進める
9. 子育てや介護中であっても仕事が続けられるよう支援する
10. 子育てや介護などでいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する
11. 男女の平等と相互の理解や協力について広報・PR する
12. 女性に対する暴力を根絶するための取組を進める
13. 特にない
14. わからない
15. その他（具体的に　　）

●男女共同参画社会の実現に向けた取組について、ご意見・ご要望があればどんなことでも結構ですので、ご自由にお書きください。

質問は以上です。お忙しい中、ご協力いただきありがとうございました。

記入もれがないか、もう一度ご確認の上、同封の返信用封筒で、**９月１７日（金）**までにご返送くださいますようお願いいたします。

（インターネットで回答済の場合は返送不要）

なお、この調査結果は、「第５次芦屋市男女共同参画行動計画ウィザス・プラン」・「第３次芦屋市女性活躍推進計画」・「第３次芦屋市配偶者等からの暴力対策基本計画」策定の基礎資料とさせていただきます。

芦屋市 男女共同参画に関する市民意識調査
調査結果報告書

令和４年(2022 年)3 月
発行・編集:芦屋市 市民生活部 人権・男女共生課
〒659-0064 芦屋市精道町８番 20 号
TEL 0797(38)2023 FAX 0797(38)2175
ＨＰ https://www.city.ashiya.lg.jp/danjo/withus/shisaku.html